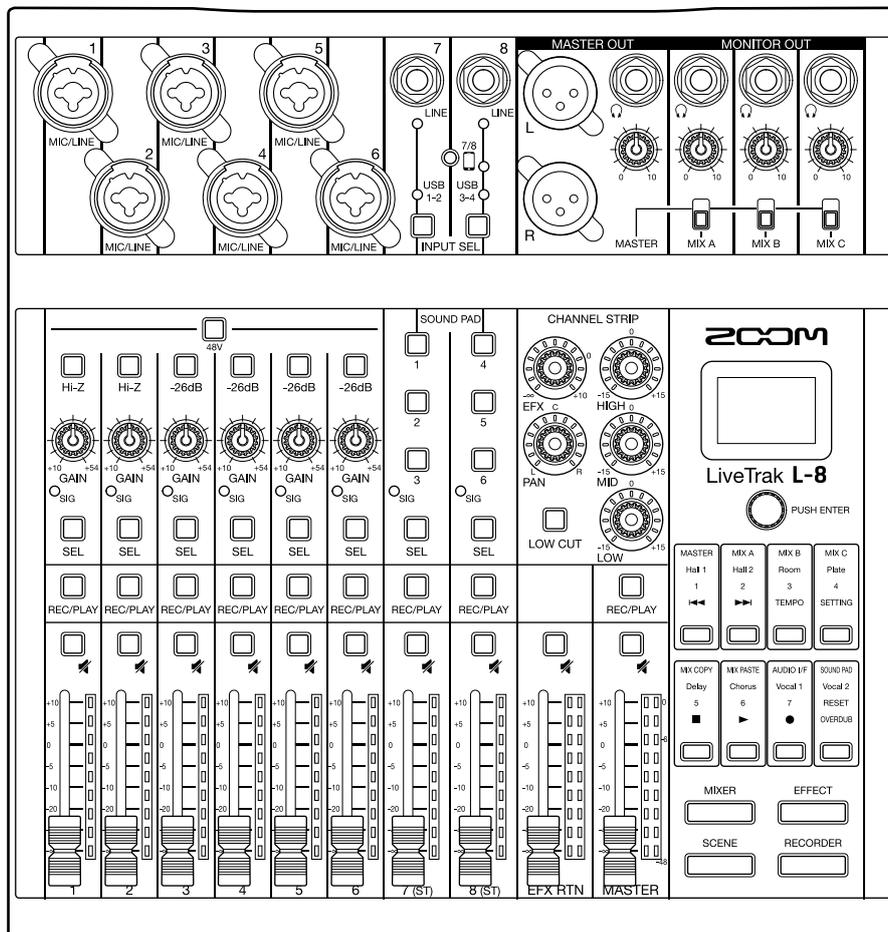


L-8

LiveTrak



オペレーションマニュアル

ご使用になる前に「安全上の注意／使用上の注意」を必ずお読みください

© 2021 ZOOM CORPORATION

本マニュアルの一部または全部を無断で複製／転載することを禁じます。
 文中の製品名、登録商標、会社名は、それぞれの会社に帰属します。文中のすべての商標および登録商標は、
 それらの識別のみを目的として記載されており、各所有者の著作権を侵害する意図はありません。
 白黒端末では正しく表示できません。

オペレーションマニュアルについて

このマニュアルは将来必要となることがありますので、必ず参照しやすいところに保管してください。本書の内容および製品の仕様は予告なしに変更されることがあります。

◎ Windows®は、Microsoft®社の商標または登録商標です。

◎ Macintosh、macOS、Mac、iPad は、Apple Inc. の商標または登録商標です。

◎ iOS は、Cisco の米国およびその他の国における商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。

◎ SD ロゴ、SDHC ロゴ、SDXC ロゴは商標です。

◎文中のその他の製品名、登録商標、会社名は、それぞれの会社に帰属します。

*文中のすべての商標および登録商標は、それらの識別のみを目的として記載されており、各所有者の著作権を侵害する意図はありません。

他の者が著作権を保有する CD、レコード、テープ、実演、映像作品、放送などから録音する場合、私的使用の場合を除き、権利者に無断での使用は法律で禁止されています。著作権法違反に対する処置に関して、(株)ズームは一切の責任を負いません。

はじめに

このたびは、ZOOM LiveTrak **L-8**をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

L-8は、ポッドキャストやストリーミング、少人数のライブ PA、ライブパフォーマンス用ミキサー、舞台演劇、音楽制作など、多用途に使用可能でコンパクトなデジタルミキサー + マルチトラックレコーダー + USB オーディオインターフェースです。

L-8 の主な特長

8 チャンネルのデジタルミキサー + マルチトラックレコーダー

L-8は、8 チャンネルの入力を持ったコンパクトで軽量のデジタルミキサーに、最大 12 トラック同時録音、オーバーダビング、パンチイン/アウトに対応したマルチトラックレコーダー、12in4out の USB オーディオインターフェース機能を統合した製品です。

ジングルや効果音でポッドキャストを演出する SOUND PAD を搭載

L-8はポッドキャストやストリーミングを演出する SOUND PAD を搭載しています。SOUND PAD を押すと、割り当てられているジングルや効果音を流すことができます。また SOUND PAD は舞台演劇などのポン出しにも使用可能です。

スマートフォン接続端子

L-8はスマートフォン接続端子を搭載しており、ポッドキャストに電話参加のゲストを呼ぶことが可能です。このとき電話参加のゲスト側にエコーが発生しないように、ミックスマイナス機能を搭載しています。

高品位なマイクプリアンプ

L-8は高品位なマイクプリアンプを 6 チャンネル搭載しています。EIN -121 dBu 以下、最大入力ゲイン +54 dB、+48 V のファンタム電源を供給可能な高品位なアナログ入力です。また、チャンネル 1、2 は Hi-Z 入力にも対応し、チャンネル 3 ~ 6 は +4 dBu 出力も受けられるように、PAD (26 dB 減衰) を搭載しています。

3 系統の MONITOR OUT

L-8は MASTER OUT とは別に、ヘッドフォンを接続可能な 3 系統の MONITOR OUT を搭載しています。MONITOR OUT は出力先ごとに個別にミックスバランスを設定することができ、演奏者ごとに別のミックスバランスを送ることが可能です。

単三乾電池、モバイルバッテリーに対応

L-8は、単三乾電池や USB モバイルバッテリーによる駆動に対応しているため、屋外などの電源のない場所でも使用が可能です。

12in4out の USB オーディオインターフェース

L-8は、12in4out の USB オーディオインターフェースとしても利用可能です。各入力とマスターフェーダー通過後の信号を DAW に録音することができます。また、パソコンからの再生信号をチャンネル 7/8 に割り当てれば、パソコンからポッドキャストに BGM を流すこともできます。

iOS デバイスとも接続できるクラスコンプライアントモードにも対応しています。

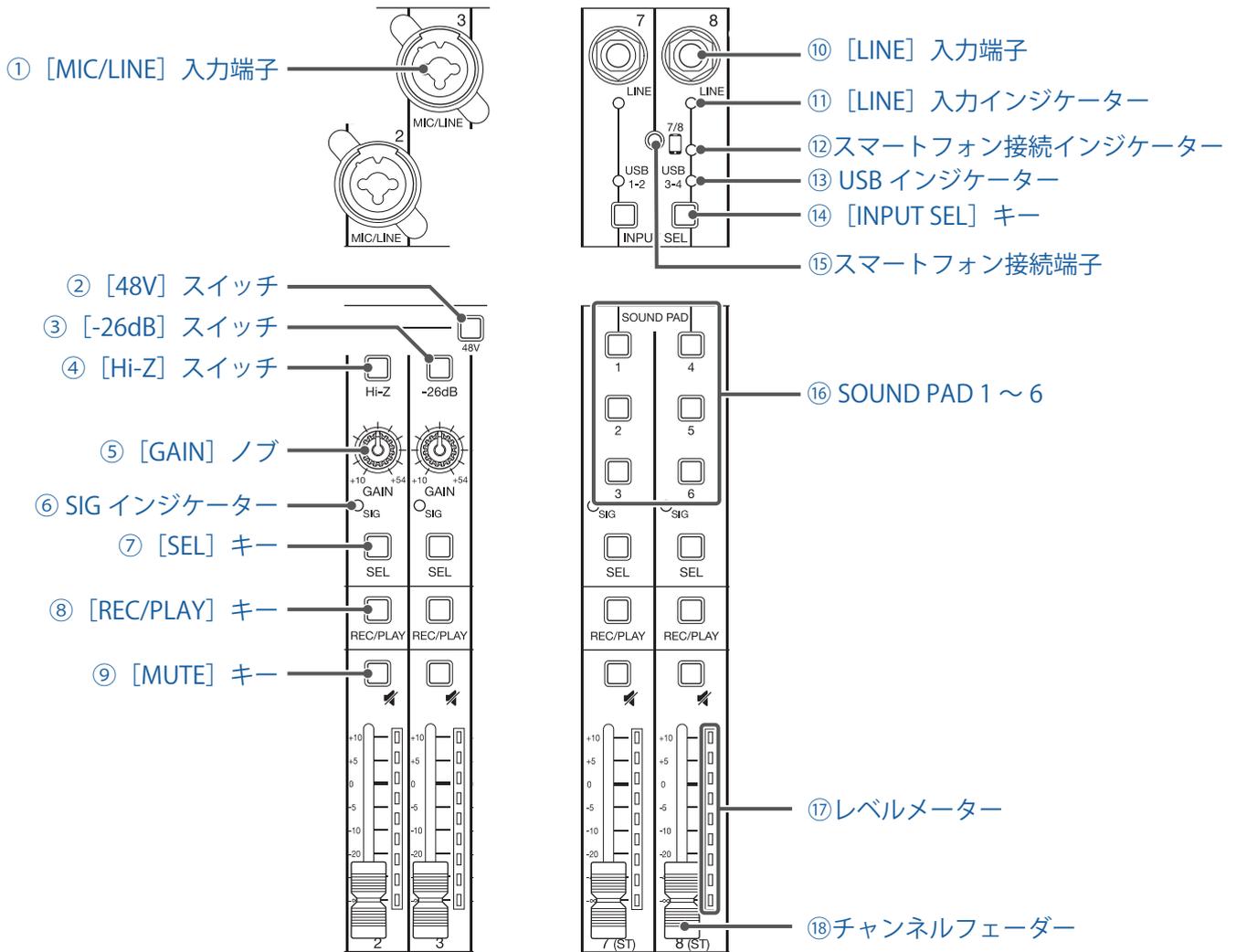
目次

オペレーションマニュアルについて	2	プロジェクト	66
はじめに	3	プロジェクトの名前を変更する	66
目次	4	プロジェクトを削除する	68
各部の名称と機能	5	プロテクトをかける	69
フロントパネル	5	プロジェクトの情報を確認する	70
リアパネル	19	マークを確認、移動、削除する	71
底面	20	オーディオファイル	72
機器の接続例	21	オーディオファイルを削除する	72
ポッドキャストイング	21	オーディオファイルをトラックに割り当てる	74
ライブ PA システム	22	オーディオインターフェース	76
準備	23	ドライバをインストールする	76
電源をセットする	23	パソコンに接続する	77
電源の ON/OFF	25	iOS デバイスに接続する	79
電源を入れる	25	パソコンからのリターン信号をチャンネル 7、8 に	
電源を切る	26	入力する	81
SETTING 画面の操作	27	カードリーダー	82
ミキサー	28	SD カードのフォルダ構成について	82
入力した音を出力機器から出す	28	カードリーダー機能を使う	83
音質や定位を調節する	30	録音／再生の設定	85
内蔵エフェクトを使う	31	録音フォーマットを変更する	85
シーン機能を使う	33	自動録音設定を変更する	86
MONITOR OUT A ～ C から出力する信号を		録音レベルをレベルメーターに表示する	88
設定する	36	入出力で発生する遅延時間を補正する	89
スマートフォンを接続する	39	再生方法を変更する	90
録音／再生	40	SD カードの設定	91
録音の準備をする	40	SD カードの空き容量を確認する	91
録音（新規・上書き）／再生する	42	SD カードを初期化する	92
マークを登録する	44	SD カードの性能をテストする	93
一部分のみ録音をやり直す		各種設定	96
（パンチイン／アウト機能）	45	日付／時刻を設定する	96
ミックスダウンをする	46	サンプルレートを変更する	97
自動的に録音を開始する	48	電源の自動 OFF 機能を無効にする	98
録音開始前から時間をさかのぼって録音する	50	ディスプレイのコントラストを調節する	99
再生したいプロジェクトを選択する	51	ディスプレイのバックライトを設定する	100
SOUND PAD	52	電池の種類を選択する	101
SOUND PAD を使って音源を再生する	52	省電力モードを設定する	102
オーディオファイルを SOUND PAD に割り		設定を工場出荷状態に戻す	103
当てる	53	ファームウェアのバージョンを確認する	104
SOUND PAD の再生方法を変更する	57	ファームウェアのアップデート	105
SOUND PAD の再生レベルを変更する	59	故障かな？と思われる前に	107
メトロノーム	61	仕様	110
メトロノームを有効にする	61	センドエフェクト仕様	111
メトロノームの設定を変更する	62	ミキサーブロックダイアグラム	112

各部の名称と機能

フロントパネル

インプットチャンネル部



① [MIC/LINE] 入力端子

マイクプリアンプを搭載した入力端子です。マイクやキーボード、ギターを接続します。XLR、1/4 フォン（バランス、アンバランス）プラグに対応しています。

② [48V] スイッチ

+48 V のファンタム電源の供給を ON/OFF します。[MIC/LINE] 入力端子 1～6 にファンタム電源を供給するときに ON (■) にします。

③ [-26dB] スイッチ

[MIC/LINE] 入力端子 3～6 に接続した機器の入力信号を 26 dB 減衰させます。ラインレベルの機器を接続するときに ON (■) にします。

④ [Hi-Z] スイッチ

[MIC/LINE] 入力端子 1～2 の入力インピーダンスを切り替えます。
ギターやベースギターを接続するときに ON () にします。

⑤ [GAIN] ノブ

マイクプリアンプの入力ゲインを調節します。

[MIC/LINE] 入力端子 1～2 には [Hi-Z] スイッチ、[MIC/LINE] 入力端子 3～6 には [-26dB] スイッチがあり、スイッチの ON/OFF 状態によって調節範囲が変わります。

端子	調整範囲	
[MIC/LINE] 入力端子 1～2 (XLR)	+10 ～ +54 dB	
[MIC/LINE] 入力端子 1～2 (TRS)	Hi-Z OFF	+10 ～ +54 dB
	Hi-Z ON	-3 ～ +41 dB
[MIC/LINE] 入力端子 3～6	-26dB OFF	+10 ～ +54 dB
	-26dB ON	-16 ～ +28 dB

⑥ SIG インジケータ

[GAIN] ノブ通過後の信号レベルを表示します。

信号レベルに応じて、インジケータの色が変化します。赤色に点灯しないように調節してください。

赤色に点灯：クリップレベル (0 dBFS) に対し、-3 dBFS 以上の信号レベル入力時

緑色に点灯：クリップレベル (0 dBFS) に対し、-48 dBFS ～ -3 dBFS の信号レベル入力時

⑦ [SEL] キー

チャンネルストリップ部でパラメーターを変更する対象のチャンネルを選びます。

点灯しているキーのチャンネルが、チャンネルストリップ部の操作対象になります。

⑧ [REC/PLAY] キー

入力する信号を SD カードに録音する、または録音済みのファイルを SD カードから再生するかを切り替えます。

状態	説明
赤色に点灯	[GAIN] ノブ通過後の入力信号を SD カードに録音します。
緑色に点灯	ファイルの再生信号がイコライザーの手前に挿入されます。このとき入力端子からの信号は無効になります。
消灯	入力端子からの信号が有効になります。

⑨ [MUTE] キー

信号のミュートを ON/OFF します。

ミュートしたいときには ON にし、キーを点灯させます。

HINT

SD カードへの録音には影響しません。

⑩ [LINE] 入力端子

ラインレベル機器を接続する入力端子です。キーボードやオーディオ機器などを接続します。

1/4 フォン (アンバランス) プラグに対応しています。

NOTE

[LINE] 入力端子とスマートフォン接続端子を同時に使うことはできません。

⑪ [LINE] 入力インジケータ

LINE 入力があるとき点灯します。

⑫ スマートフォン接続インジケータ

スマートフォン接続端子があるとき点灯します。

⑬ USB インジケータ

パソコンから出力されるオーディオリターン信号の入力があるときに点灯します。

⑭ [INPUT SEL] キー

チャンネル 7、8 に入力する信号を入力端子、USB オーディオリターン、SOUND PAD に切り替えます。キーを押すたびに有効な入力が切り替わります。

⑮ スマートフォン接続端子

スマートフォンなどを接続します。4 極ミニプラグのケーブルを使うことで、スマートフォンからの入力と同時にマスターミックスからチャンネル 8 の信号を省いた信号をスマートフォンに返します。

NOTE

[LINE] 入力端子とスマートフォン接続端子を同時に使うことはできません。チャンネル 8 の入力としてスマートフォン接続端子があるときは、チャンネル 7 の LINE 入力は無効になります。

⑯ SOUND PAD 1 ~ 6

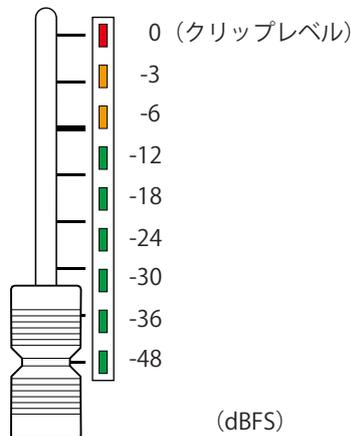
SOUND PAD 有効時は、各 PAD に割り当てられている音声を再生することができます。

PAD 1 ~ 3 はチャンネル 7、PAD 4 ~ 6 はチャンネル 8 に入力されます。

⑰ レベルメータ

チャンネルフェーダー通過後の信号レベルを表示します。

表示範囲：-48 dB ~ 0 dB



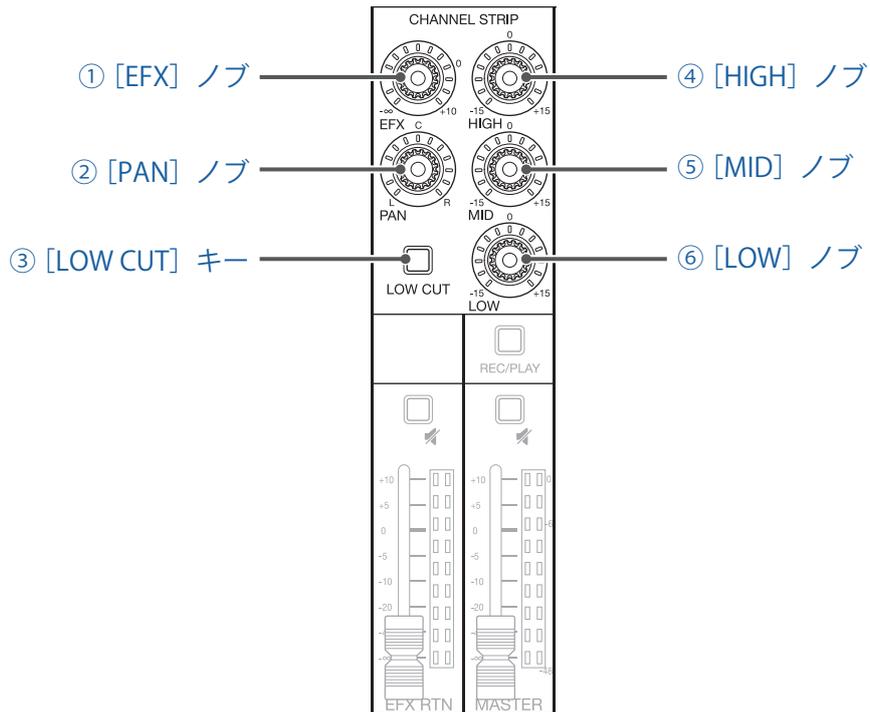
NOTE

- 現在のチャンネルフェーダー位置とシーン機能等で呼び出されたチャンネルフェーダー位置が異なる場合、レベルメータには呼び出されたフェーダー位置が表示されます。フェーダー操作を有効にするには、フェーダーをレベルメータに表示されたフェーダー位置まで動かしてください。
- レベルメータの色分けについては、白黒端末では正しく表示できません。

⑱ チャンネルフェーダー

チャンネルの信号レベルを $-\infty \sim +10$ dB の範囲で調節します。

チャンネルストリップ部 (CHANNEL STRIP)



① [EFX] ノブ

EFXバスに送る送り量を、 $-\infty \sim +10$ dBの範囲で調節します。

② [PAN] ノブ

ステレオ出力バスへの定位を調節します。

チャンネル7、8では、L/Rの音量バランスを調節するバランスとして機能します。

③ [LOW CUT] キー

低域をカットするハイパスフィルターをON/OFFします。ONにすると75 Hz以下の信号を12 dB/octで減衰します。

④ [HIGH] ノブ

高域用イコライザーのブースト／カット量を調節します。

タイプ：シェルビング

ゲイン幅：-15 dB ~ +15 dB

周波数：10 kHz

⑤ [MID] ノブ

中域用イコライザーのブースト／カット量を調節します。

タイプ：ピーキング

ゲイン幅：-15 dB ~ +15 dB

周波数：2.5 kHz

⑥ [LOW] ノブ

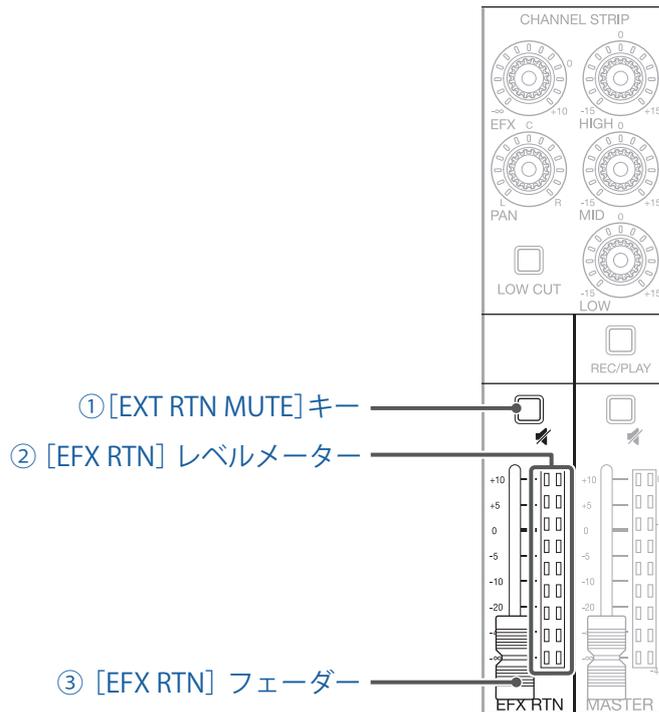
低域用イコライザーのブースト／カット量を調節します。

タイプ：シェルビング

ゲイン幅：-15 dB ~ +15 dB

周波数：100 Hz

SEND EFX 部 (SEND EFX)



① [EXT RTN MUTE] キー

内蔵エフェクトからの信号のミュートを ON/OFF します。
ミュートしたいときには ON にし、キーを点灯させます。

② [EFX RTN] レベルメーター

[EFX RTN] フェーダー通過後の内蔵エフェクトからマスターバスに送る信号レベルを、-48 dB ~ 0 dB の範囲で表示します。

③ [EFX RTN] フェーダー

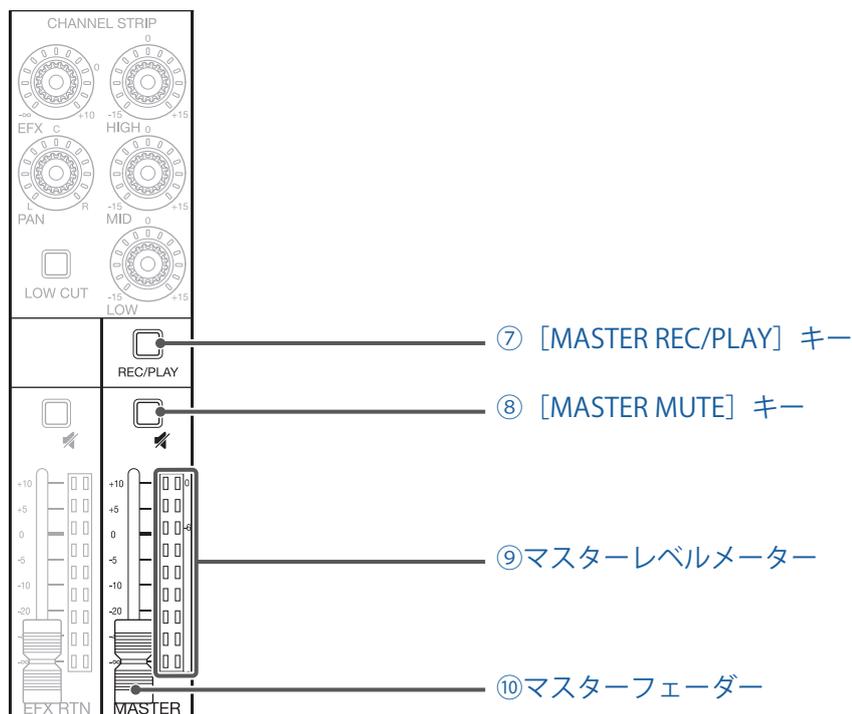
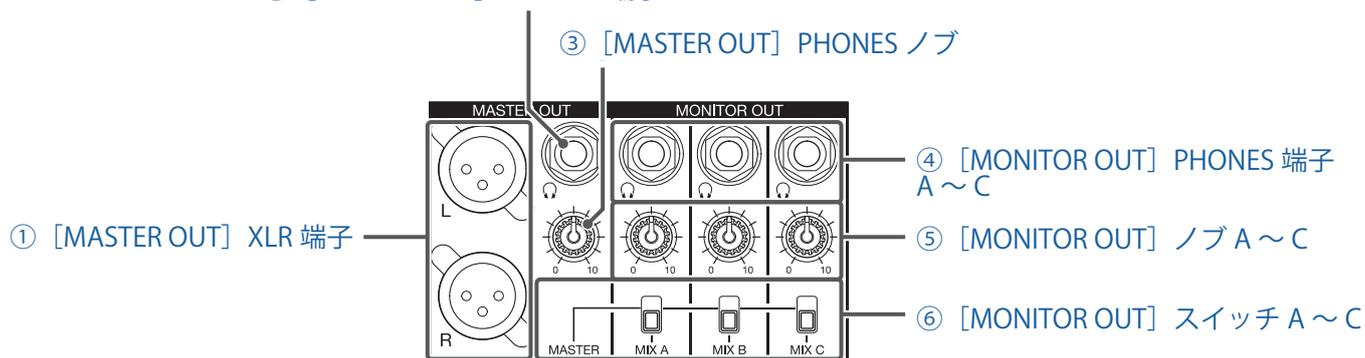
内蔵エフェクトから MASTER バスに送る信号レベルを $-\infty \sim +10$ dB の範囲で調節します。

NOTE

現在の [EFX RTN] フェーダー位置とシーン機能等で呼び出された [EFX RTN] フェーダー位置が異なる場合、レベルメーターには呼び出されたフェーダー位置が表示されます。フェーダー操作を有効にするには、フェーダーをレベルメーターに表示されたフェーダー位置まで動かしてください。

アウトプット部

② [MASTER OUT] PHONES 端子



① [MASTER OUT] XLR 端子

マスターフェーダーで音量調節された信号が出力される出力端子です。パワーアンプ、PA システム、アンプ内蔵スピーカーなどを接続します。XLR バランス出力に対応しています (2 番 HOT)。

② [MASTER OUT] PHONES 端子

[MASTER OUT] XLR 端子と同じ信号が出力されるヘッドフォン出力端子です。

③ [MASTER OUT] PHONES ノブ

[MASTER OUT] PHONES 端子に出力される信号の音量を調節します。

④ [MONITOR OUT] PHONES 端子 A ~ C

[MONITOR OUT] ノブ A ~ C で音量調節された信号が出力されるヘッドフォン出力端子です。

NOTE

[MONITOR OUT] PHONES 端子 A ~ C から出力される信号は、MASTER OUT と同じ信号を出力するか、MIXER モードで個別に設定した信号を出力するかを選択することができます。(→ [36 ページ「MONITOR OUT A ~ C から出力する信号を設定する」](#))

⑤ **[MONITOR OUT] ノブ A～C**

[MONITOR OUT] PHONES 端子 A～C 端子に出力される信号の音量を調節します。

⑥ **[MONITOR OUT] スイッチ A～C**

[MONITOR OUT] PHONES 端子 A～C 端子から出力される信号を切り替えます。

状態	説明
MASTER	MASTER OUT と同じ信号を出力します。
MIX A～C	MIXER モードで設定した信号を出力します。

⑦ **[MASTER REC/PLAY] キー**

SD カードにマスターバスに入力された信号を録音する、または録音済みのファイルを SD カードから再生するかを切り替えます。

状態	説明
赤色に点灯	マスターフェーダー通過後の信号を SD カードに録音します。
緑色に点灯	マスターバスにファイルの再生信号が挿入されます。このとき他のチャンネルの [REC/PLAY] キーは消灯します。
消灯	録音／再生を行いません。

⑧ **[MASTER MUTE] キー**

[MASTER OUT] 端子のミュートを ON/OFF します。ミュートしたいときには ON にし、キーを点灯させます。

⑨ **マスターレベルメーター**

[MASTER OUT] 端子に出力される信号レベルを -48 dB～0 dB の範囲で表示します。

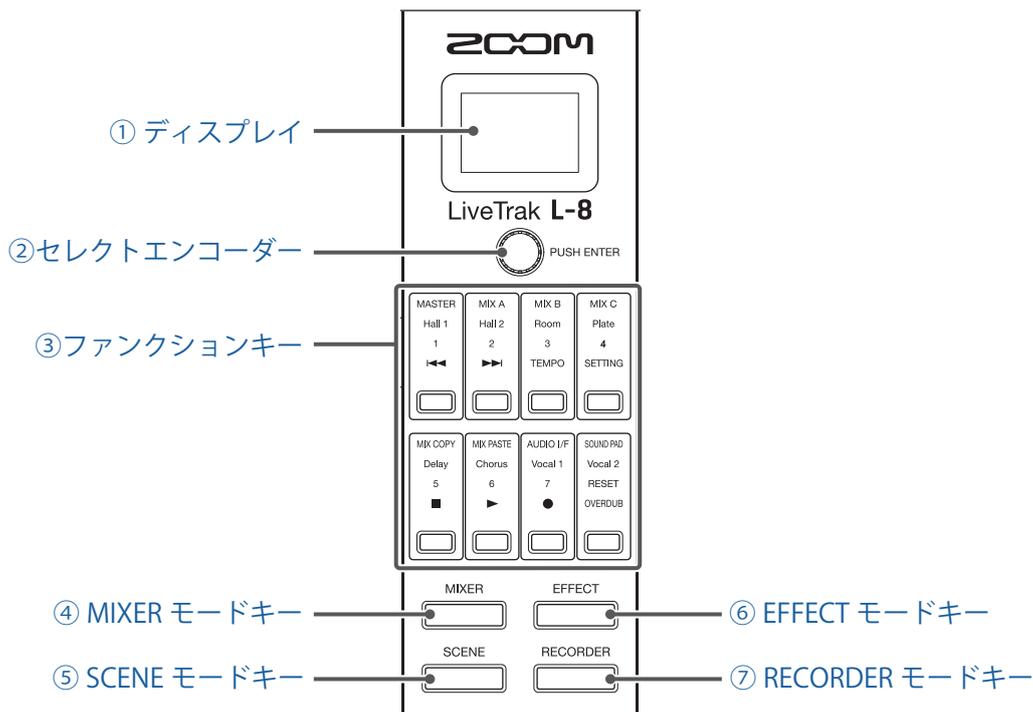
⑩ **マスターフェーダー**

[MASTER OUT] 端子に出力される信号レベルを $-\infty$ ～+10 dB の範囲で調節します。

NOTE

現在のマスターフェーダー位置とシーン機能等で呼び出されたマスターフェーダー位置が異なる場合、レベルメーターには呼び出されたフェーダー位置が表示されます。フェーダー操作を有効にするには、フェーダーをレベルメーターに表示されたフェーダー位置まで動かしてください。
ただし、AUTO REC が有効のときマスターフェーダーのフェーダー位置は表示されません。

ディスプレイ周辺部



① ディスプレイ

選択されているモードの状態などを表示します。(→ [13 ページ「各モードキーにおけるファンクションキーの機能とディスプレイ表示について」](#))

② セレクトエンコーダー

メニューや数値の変更、移動に使用します。

③ ファンクションキー

選択されているモードによって機能が変わります。(→ [13 ページ「各モードキーにおけるファンクションキーの機能とディスプレイ表示について」](#))

④ MIXER モードキー

ファンクションキーの機能を MIXER モードにし、ディスプレイに MIXER 画面を表示します。MIXER モードでは、ミックスを行うレイヤーの確認や変更ができます。また、ミックスのコピーやオーディオインターフェースの設定変更、SOUND PAD の設定変更もできます。設定中に押すと、MIXER 画面に戻ります。

⑤ SCENE モードキー

ファンクションキーの機能を SCENE モードにし、ディスプレイに SCENE 画面を表示します。SCENE モードでは、シーンの変更、保存およびミキサー状態のリセットを行うことができます。

⑥ EFFECT モードキー

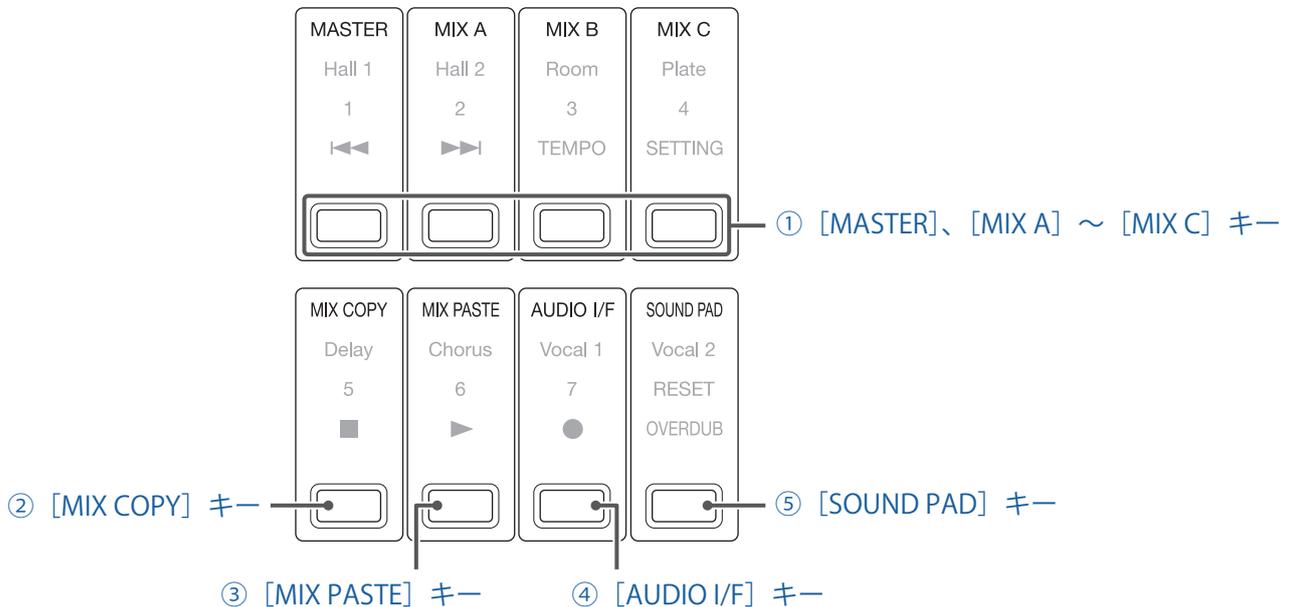
ファンクションキーの機能を EFFECT モードにし、ディスプレイに EFFECT 画面を表示します。EFFECT モードでは、エフェクトの選択、確認、調整ができます。

⑦ RECORDER モードキー

ファンクションキーの機能を RECORDER モードにし、ディスプレイに RECORDER 画面を表示します。RECORDER モードでは、レコーダーの操作を行うことができます。また、**L-8**の各種設定を行う SETTING 画面を表示することができます。設定中に押すと、RECORDER 画面に戻ります。

各モードキーにおけるファンクションキーの機能とディスプレイ表示について

■ MIXER モード



① [MASTER]、[MIX A] ~ [MIX C] キー

チャンネルフェーダーによる信号バランスを、表示・調節したい出力に応じて、レイヤーとして切り替えることができます。

- [MASTER] キー：MASTER OUT から出力される設定を表示、調節します。
- [MIX A] ~ [MIX C] キー：MONITOR OUT A ~ C から出力される設定を表示、調節します。

NOTE

- MASTER、MONITOR OUT A ~ C で個別に設定を持つことができるパラメーターは以下のとおりです。
 - フェーダー位置 (各チャンネル)
 - フェーダー位置 (EFX RTN)
- MASTER、MONITOR OUT A ~ C で共通のパラメーターは以下のとおりです。
MUTE ON/OFF、LOW CUT ON/OFF、EQ HIGH、EQ MID、EQ LOW、SEND EFX、PAN、SEND EFX TYPE、SEND EFX パラメーター 1、2

② [MIX COPY] キー

現在選択されているミックスのフェーダー位置情報をコピーします。

③ [MIX PASTE] キー

コピーされているフェーダー位置情報を、現在選択されているミックスに反映します。

④ [AUDIO I/F] キー

オーディオインターフェース機能の設定を変更する画面を表示します。

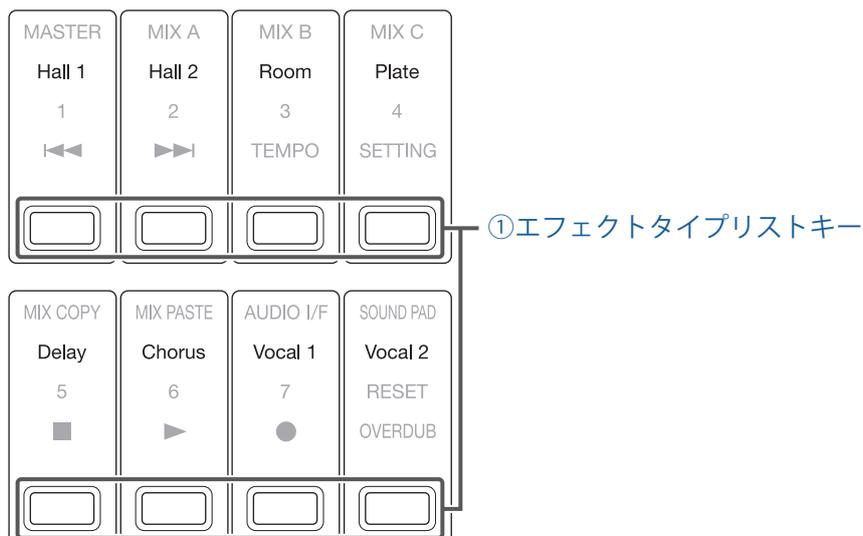
⑤ [SOUND PAD] キー

SOUND PAD の設定を変更する画面を表示します。



No	名称	説明
①	選択中のミックス表示	選択中のミックスをハイライト表示します。
②	電池残量表示（電池駆動時）	電池残量が表示されます。電池の残量が少なくなった場合は、電池を交換するか、ACアダプターを接続してください。

■ EFFECT モード

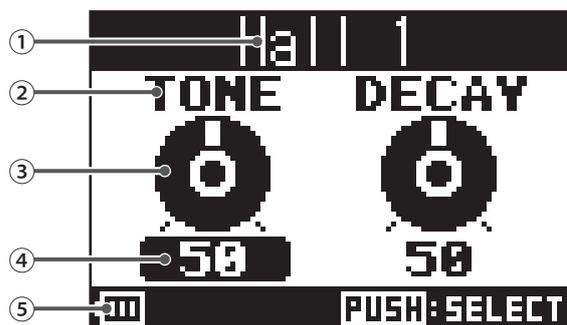


①エフェクトタイプリストキー

現在選択されているエフェクトタイプが点灯します。

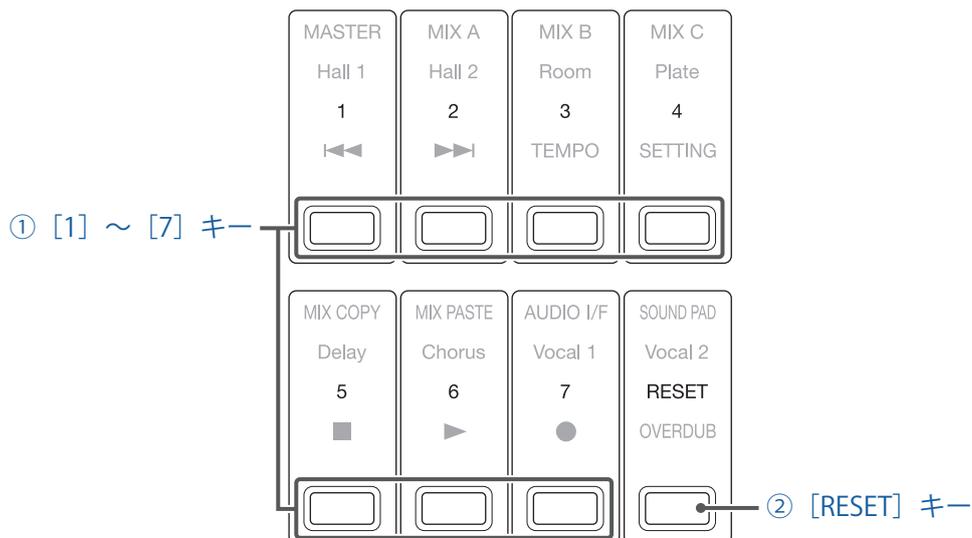
各キーを押すと、エフェクトを変更します。選択されたエフェクトはディスプレイに表示され、セレクトエンコーダーでパラメーターを調節することができます。

(→ [111ページ「センドエフェクト仕様」](#))



No	名称	説明
①	エフェクトタイプ	選択中のエフェクトタイプを表示します。
②	パラメーター	エフェクト調整用のパラメーター名を表示します。
③	パラメーターノブ	パラメーターノブを表示します。 パラメーター設定値に合わせた位置が表示されます。
④	パラメーター設定値	パラメーターの設定値を表示します。 選択中はハイライト表示します。
⑤	電池残量表示 (電池駆動時)	電池残量が表示されます。電池の残量が少なくなった場合は、電池を交換するか、ACアダプターを接続してください。

■ SCENE モード



① [1] ~ [7] キー

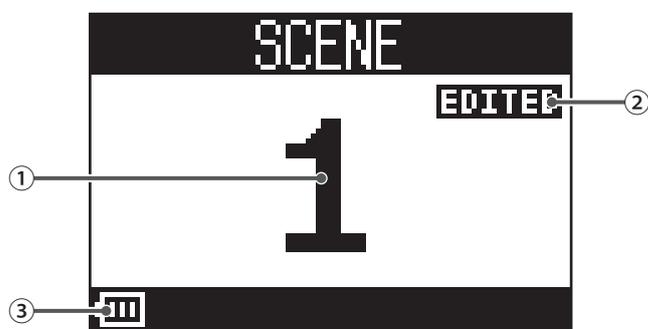
現在のミキサーの設定をシーンとして保存する際に保存先として、または設定したシーンを読み出すときに読み出し元として指定するキーです。

キーを押すと、SAVE、RECALL、CANCEL のいずれかを選択する画面が表示されます。

② [RESET] キー

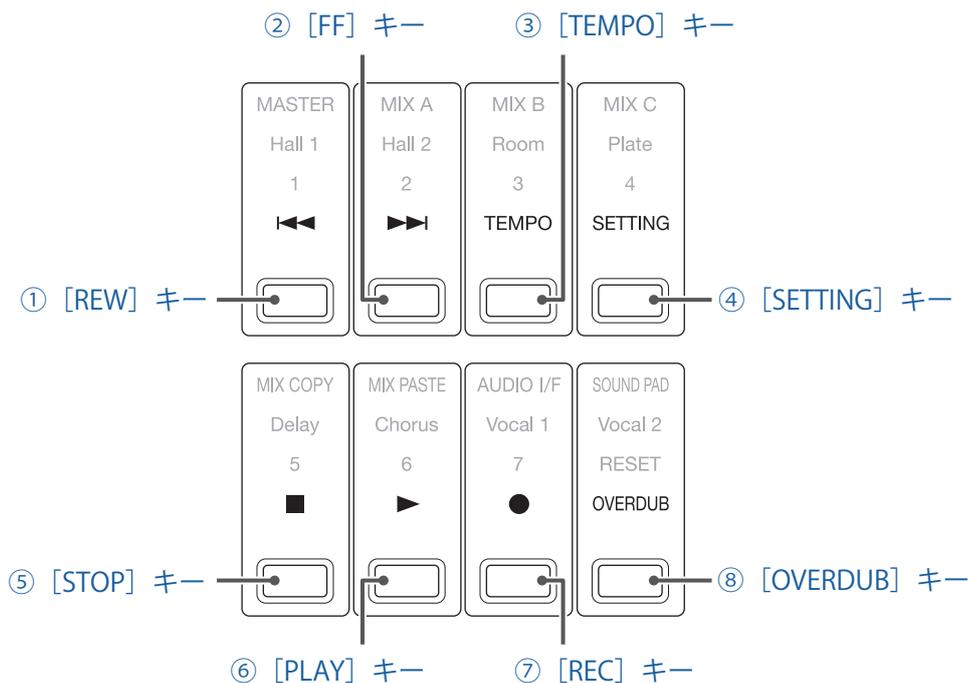
現在のミキサーの設定を工場出荷時に戻す際に使用するキーです。

キーを押すと、RECALL または CANCEL を選択する画面が表示されます。



No	名称	説明
①	シーン番号	選択中のシーン番号を表示します。 未選択時は "NOT SELECTED" が表示されます。
②	EDITED 表示	選択中のシーンから変更があった場合に表示されます。
③	電池残量表示 (電池駆動時)	電池残量が表示されます。電池の残量が少なくなった場合は、電池を交換するか、AC アダプターを接続してください。

■ RECORDER モード



① [REW] キー

一つ前のマークへ移動します。

先頭でキーを押すと、前のプロジェクトへ移動します。長押しすると、早戻しします。(押し続けている時間が長いほどスピードが早くなります。)

② [FF] キー

次のマークへ移動します。

最後のマークの場合、次のプロジェクトへ移動します。長押しすると、早送りします。(押し続けている時間が長いほどスピードが早くなります。)

③ [TEMPO] キー

レコーダーに搭載されているメトロノームのテンポを設定します。

キーを押すと平均値からテンポが検出されます。

METRONOME の設定が有効かつ、録音、再生時、あるいはテンポに同期する Delay エフェクトタイプを選択時、40.0 ~ 250.0 のテンポの間隔でキーが点滅します。

④ [SETTING] キー

SETTING 画面を表示します。

⑤ [STOP] キー

レコーダーを停止します。

⑥ [PLAY] キー

レコーダーを再生します。

- 再生中：緑色に点灯します。
- 再生一時停止中：緑色に点滅します。

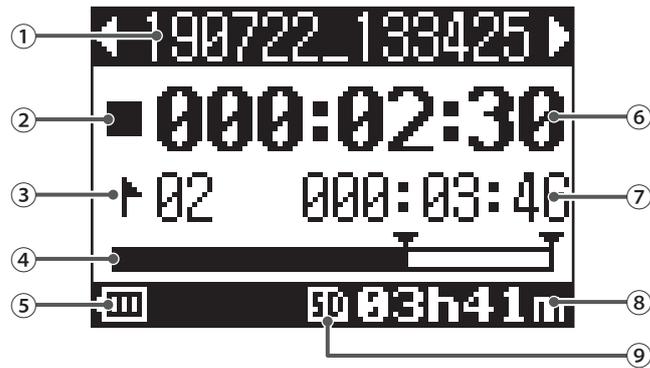
⑦ [REC] キー

レコーダーを録音待機状態にします。

- 録音中：赤色に点灯します。
- 録音一時停止中：赤色に点滅します。

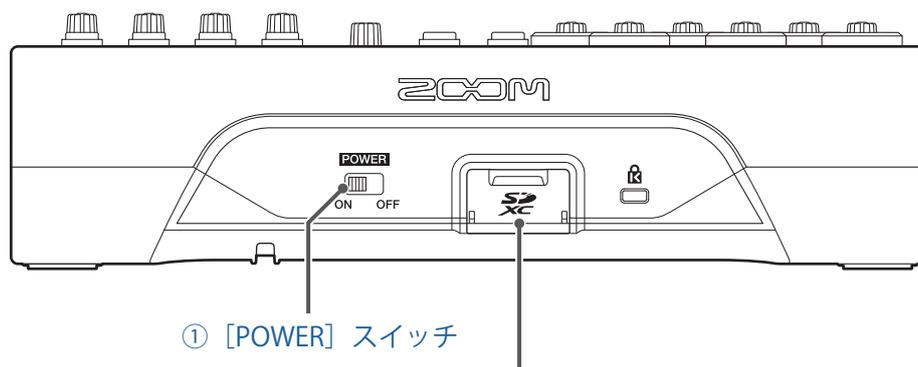
⑧ [OVERDUB] キー

現在と同じプロジェクト内で上書き録音するか、プロジェクトを新たに作り、新規録音を行うかを切り替えます。現在と同じプロジェクト内で上書き録音する場合は、ON にし点灯させます。



No	名称	説明
①	プロジェクト名	プロジェクト名を表示します。 フォルダ内に前のプロジェクトがある場合に「<」を表示します。 フォルダ内に次のプロジェクトがある場合に「>」を表示します。
②	ステータスアイコン	以下のステータスを表示します。 ■：停止中 ▬▬：一時停止中 ●：録音中 ▶：再生中
③	マーク	マーク番号と以下のステータスを表示します。 ▶：マークと一致（カウンター的位置にマークが登録されています。） ▶：マークと不一致（カウンター的位置にマークが登録されていません。）
④	シークバー	プロジェクトの始点から終点までの時間を、シークバーで表示します。
⑤	電池残量表示（電池駆動時）	電池残量が表示されます。電池の残量が少なくなった場合は、電池を交換するか、ACアダプターを接続してください。
⑥	カウンター	時間：分：秒を表示します。
⑦	プロジェクト内最長ファイル時間	プロジェクト内のファイルのうち最長ファイル時間を表示します。
⑧	残り録音可能時間	残り録音時間を表示します。 REC/PLAYの録音状態になっているチャンネルの数に応じて、自動的に変化します。
⑨	SDカードアイコン	SDカードが認識されたときに表示します。

リアパネル



① [POWER] スイッチ

② SD カードスロット

① [POWER] スイッチ

L-8 の電源を ON/OFF します。

「ON」側にすると、電源が ON になります。「OFF」側にすると、電源が OFF になります。

[POWER] スイッチを OFF にすると、現在のミキサーの設定が **L-8** と SD カード内プロジェクトフォルダ内の設定ファイルに自動保存されます。

② SD カードスロット

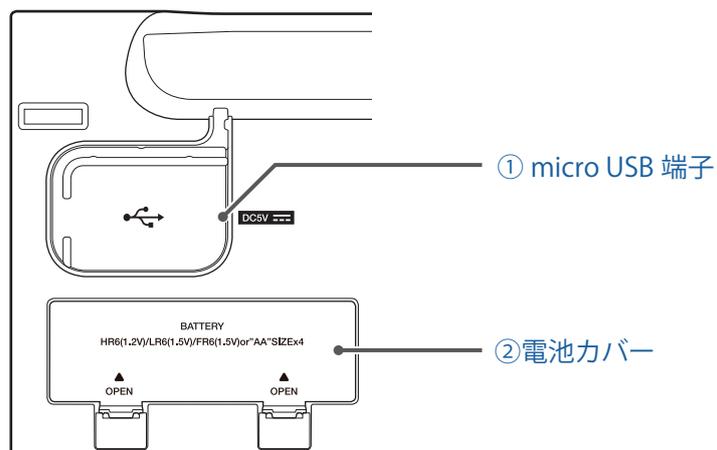
SD カードのスロットです。

L-8 は、SDHC 規格対応カード、SDXC 規格対応カードに対応しています。

HINT

SD カードが **L-8** で使用可能かテストすることができます。(→ [93 ページ「SD カードの性能をテストする」](#))

底面



① micro USB 端子

AC アダプターまたはパソコンと接続する USB2.0 micro USB 端子です。
モバイルバッテリーなどを接続してバスパワーで動作することもできます。

② 電池カバー

電池の取り付け／取り外しをするときに外します。

L-8 は、単三乾電池 4 本で動作することができます。

機器の接続例

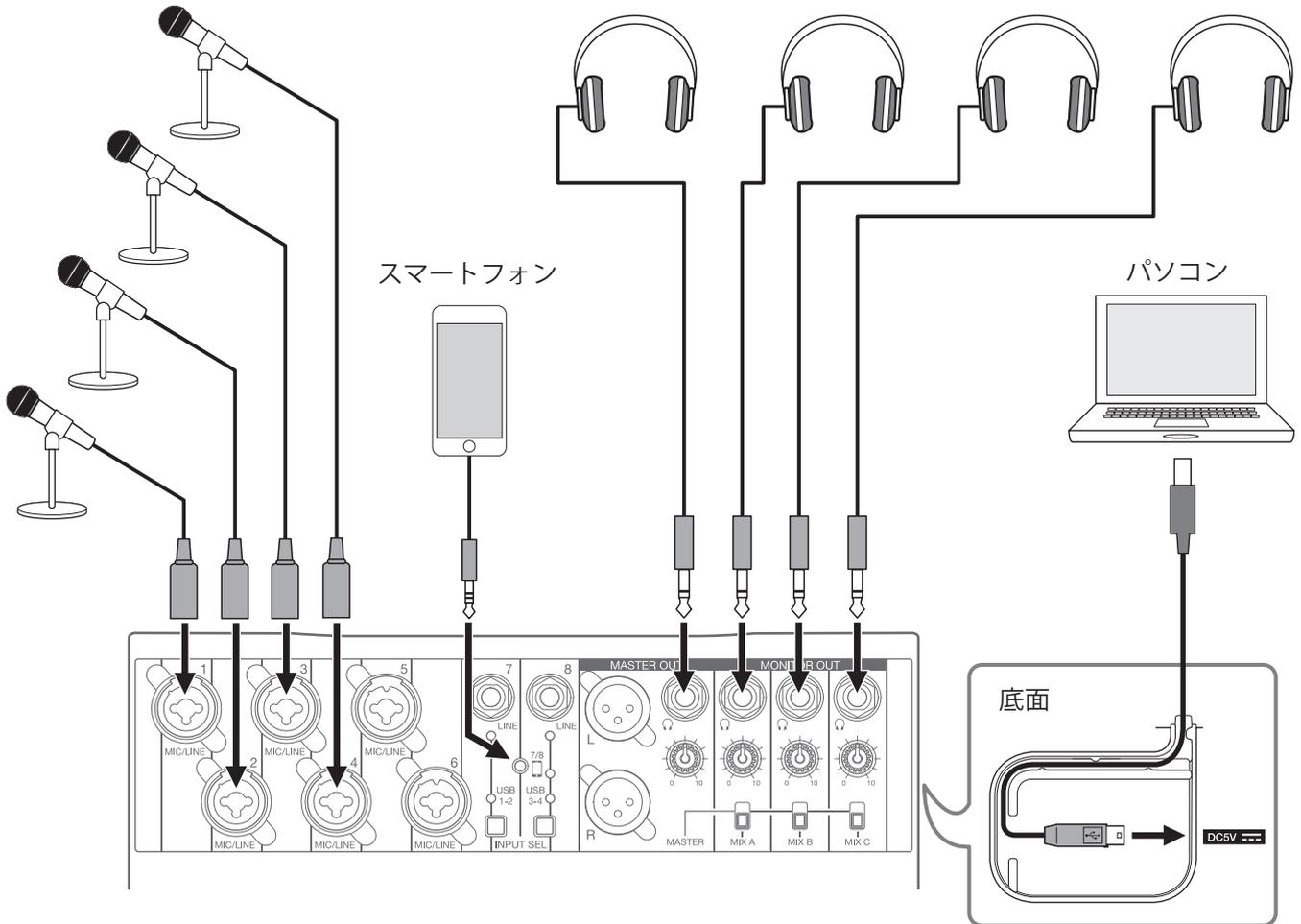
ポッドキャストिंग

卓上スタンド付きマイク

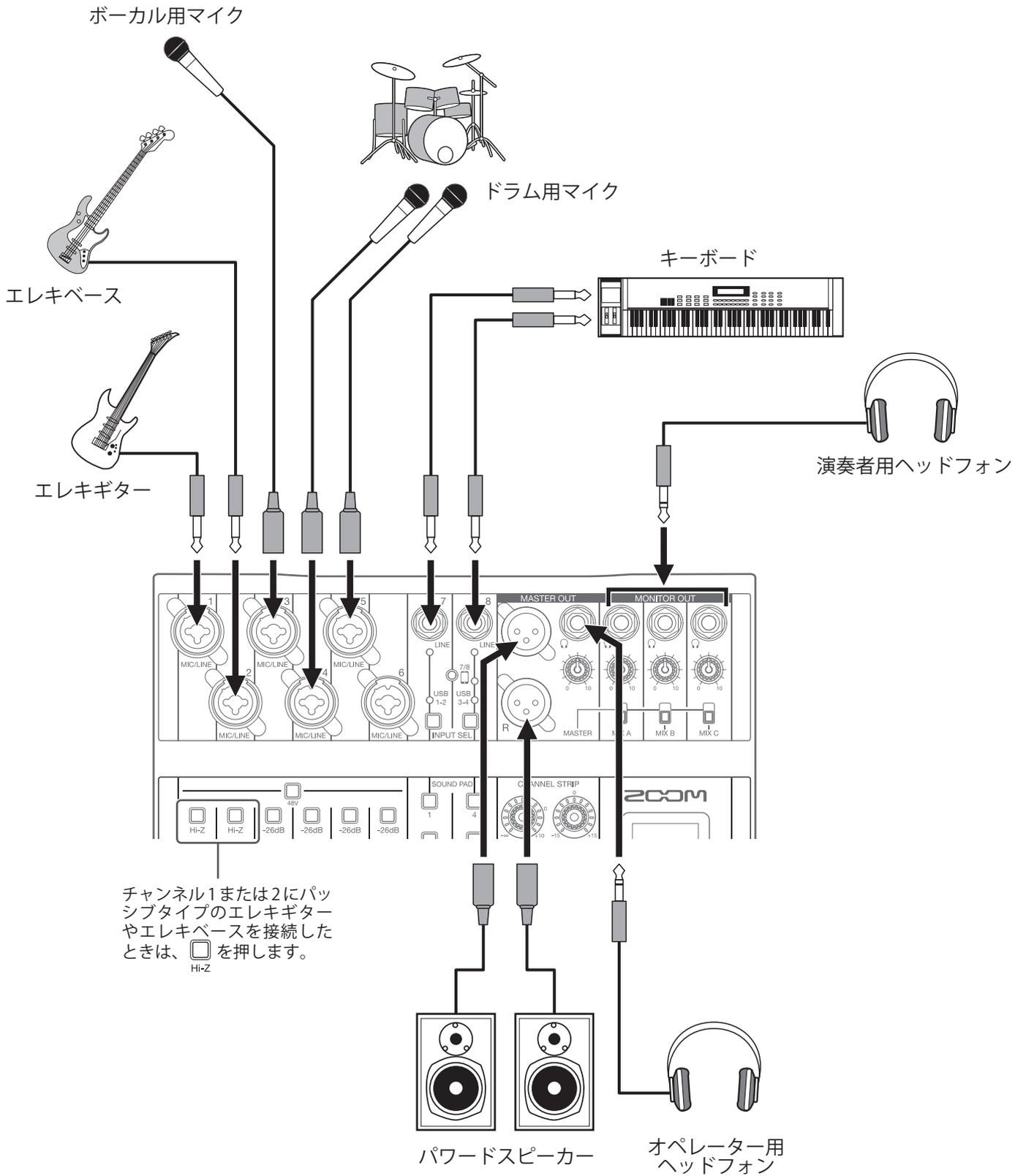
ヘッドフォン

スマートフォン

パソコン



ライブ PA システム

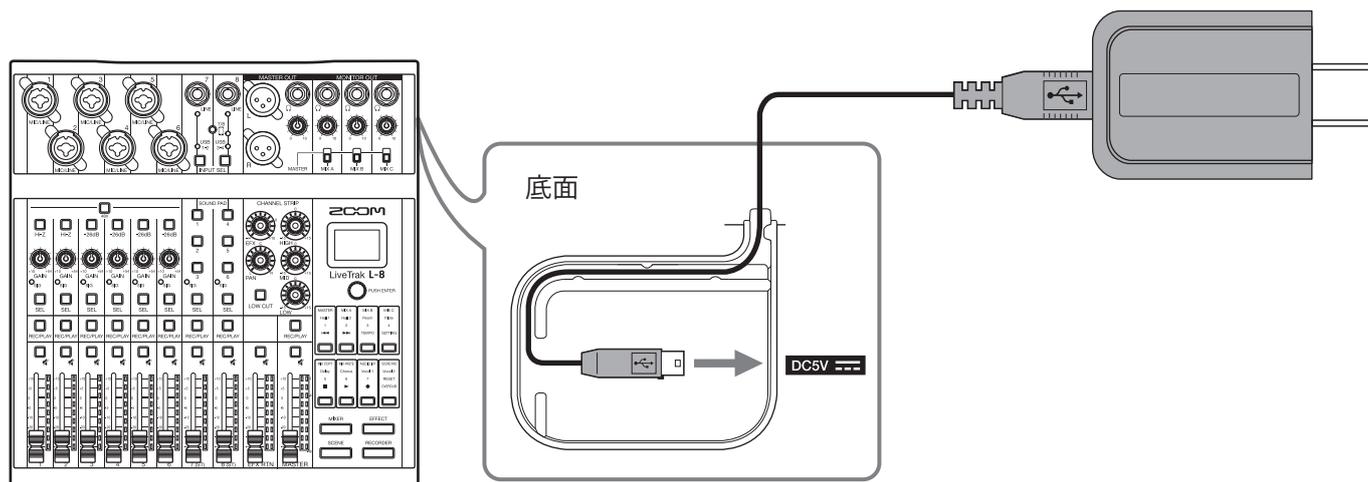


準備

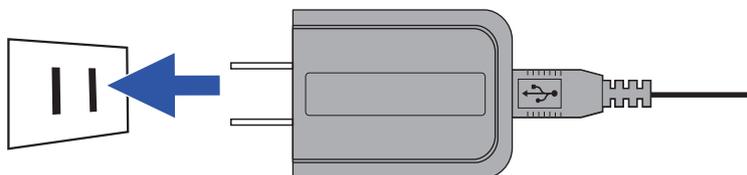
電源をセットする

AC アダプターを使用する

1. micro USB 端子に専用の AC アダプター (AD-17) のケーブルを接続する



2. 専用の AC アダプターをコンセントに接続する

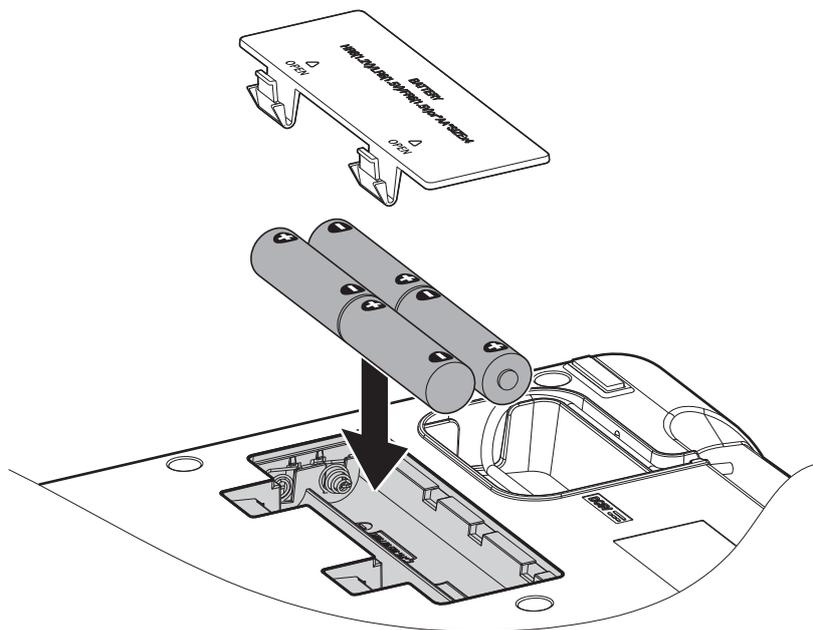


HINT

- パソコンと接続した場合は、USB から電源を供給できます。
- 専用の AC アダプターの代わりに USB モバイルバッテリーを接続することもできます。

電池を使用する

1. 製品底面の電池カバーの蓋を開け、単三電池を4本入れる



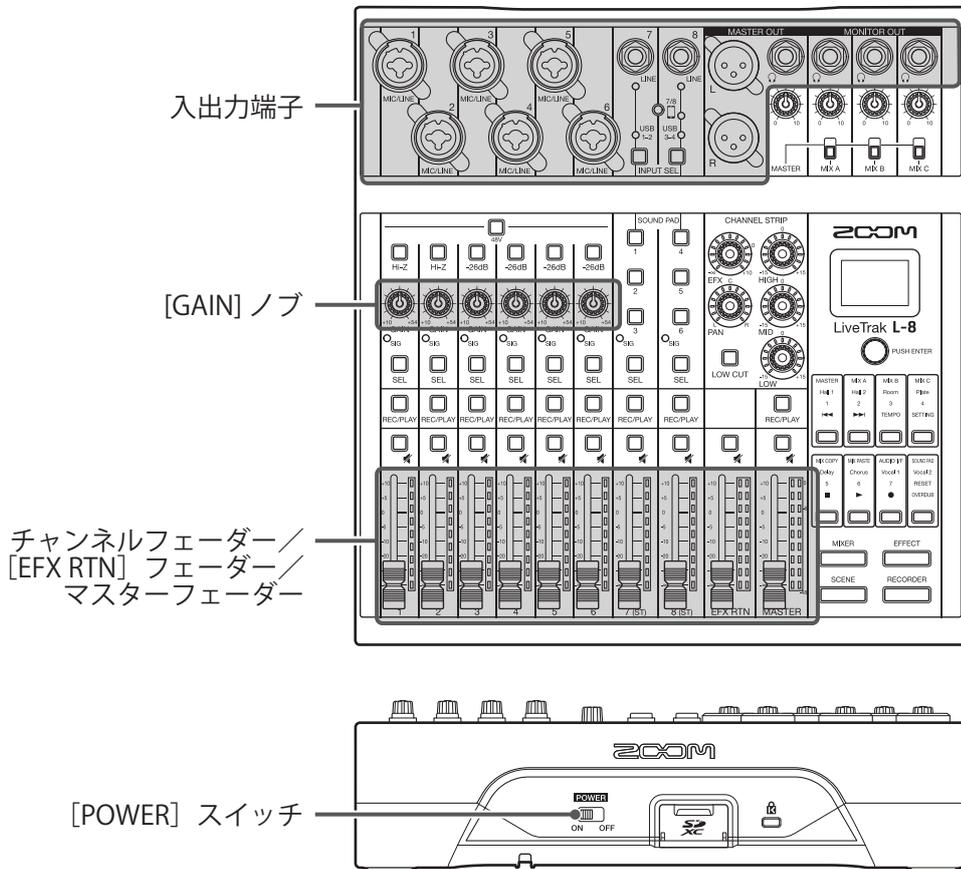
2. 電池カバーを閉じる

NOTE

- アルカリ乾電池、ニッケル水素蓄電池、リチウム乾電池のいずれかを使用してください。
- 電池残量マークが0になったときは、すぐに電源をOFFにし、新しい電池と交換してください。
- 電池を取り付けた後は、電池の種類を正しく設定してください。(→ [101 ページ「電池の種類を選択する」](#))

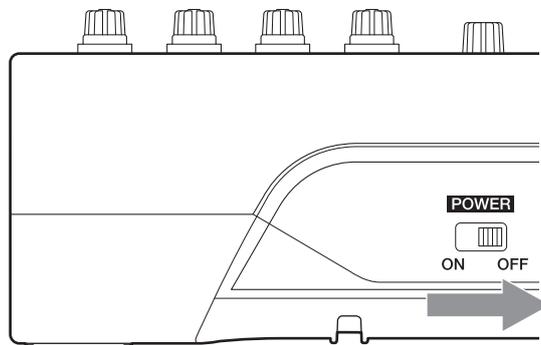
電源の ON/OFF

電源を入れる



1. L-8に接続する出力機器の電源が OFF になっていることを確認する

2.  が OFF になっていることを確認する



3. すべての  とフェーダーを最小の位置に合わせる

4. 楽器、マイク、スピーカーなどを接続する

HINT

機器の接続例 (→ [21 ページ「機器の接続例」](#))

5. を ON にする

6. L-8 に接続している出力機器の電源を ON にする

NOTE

- ・パッシブタイプのギターやベースギターを使用する場合は、チャンネル 1、2 に接続し、 を ON にしてください。(→ [5 ページ「フロントパネル」](#))
- ・コンデンサーマイクを使用する場合は、 を ON にしてください。(→ [5 ページ「フロントパネル」](#))
- ・**L-8** は操作をしない状態で 10 時間が経過すると、自動的に電源が切れます。常に電源を ON にしたい場合は、電源の自動 OFF 機能の設定を無効にしてください。(→ [98 ページ「電源の自動 OFF 機能を無効にする」](#))

電源を切る

1. L-8 に接続している出力機器の音量を最小にする

2. L-8 に接続している出力機器の電源を OFF にする

3. を OFF にする

以下の画面が表示され、電源が OFF になります。



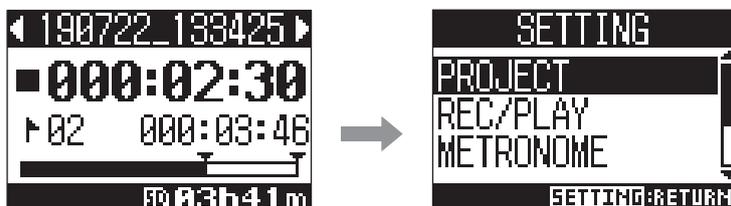
NOTE

電源 OFF 時に、現在のミキサーの設定は SD カード内のプロジェクトに保存されます。SD カードに保存できない場合は、**L-8** に保存されます。

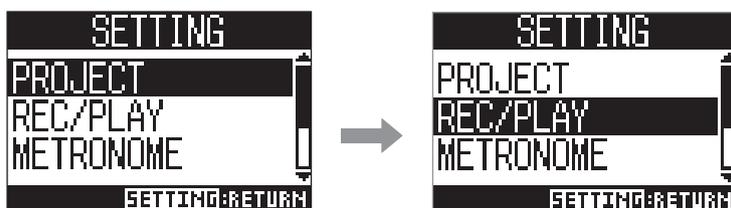
SETTING 画面の操作

L-8では、レコーダー機能の設定などを SETTING 画面から行います。ここでは、基本的な操作を説明します。

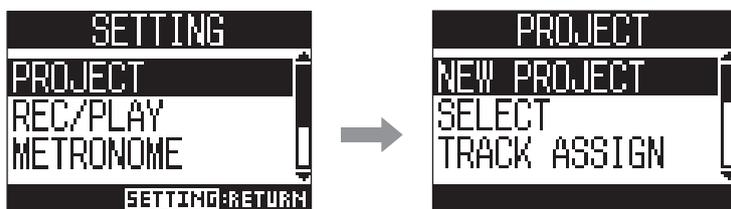
SETTING 画面に入る：  を押してから、  を押す
SETTING 画面が表示されます。



設定項目、パラメーターを選択する：  を回す
カーソルが移動します。

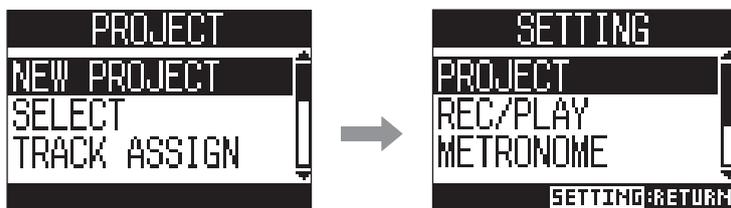


設定項目、パラメーターを確定する：  を押す
選択した項目の画面や、パラメーターの設定画面が表示されます。



一つ前の画面に戻る：  を押す

選択した項目の画面や、パラメーターの設定画面が表示されます。



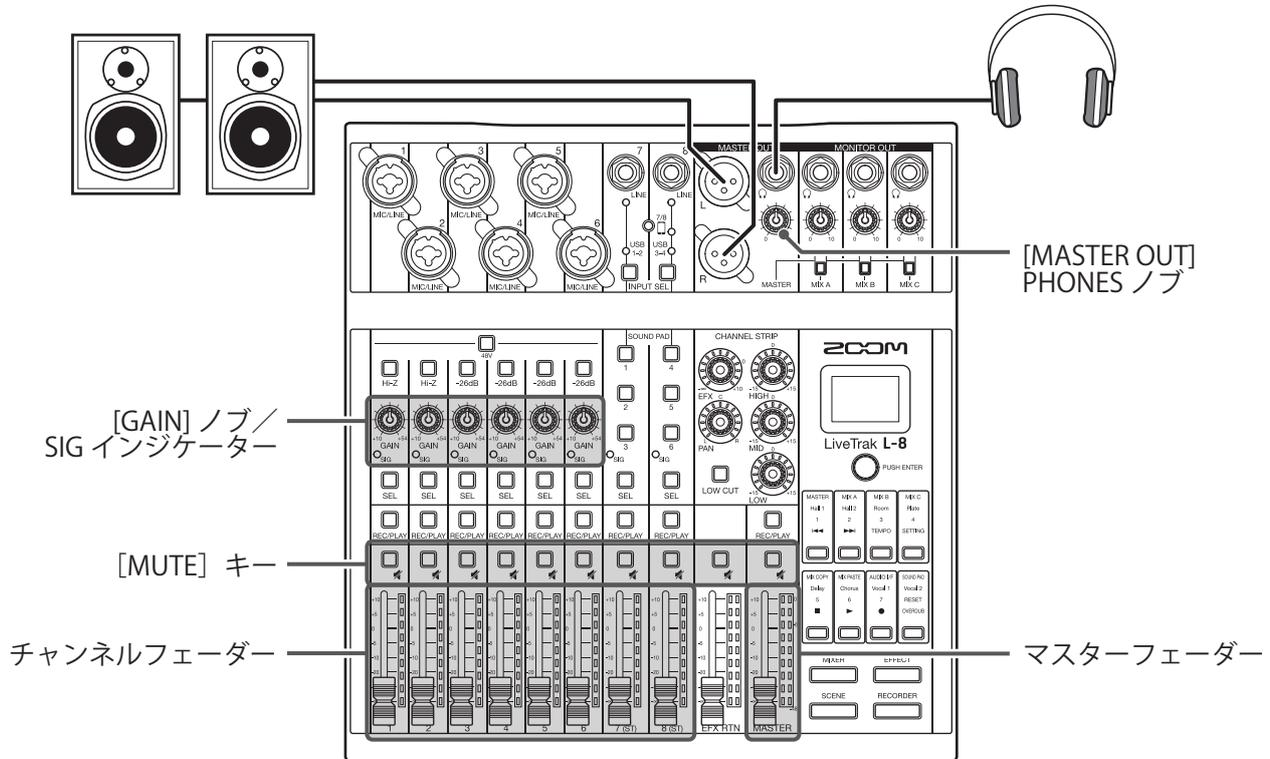
以降のページでは、SETTING 画面の操作を以下のように表記します。

例：「METRONOME」を選択後、「CLICK」を選択する場合

METRONOME > CLICK を選択する

ミキサー

入力した音を出力機器から出す



1. 楽器やマイクで音を出しながら、入力信号を  で調節する

NOTE

SIG インジケータが赤色に点灯しないように調節してください。



GAIN
SIG — SIG インジケータ

2. 音を出したいチャンネルと MASTER の  を OFF (消灯) にする

3. マスターフェーダーを「0」の位置に合わせる

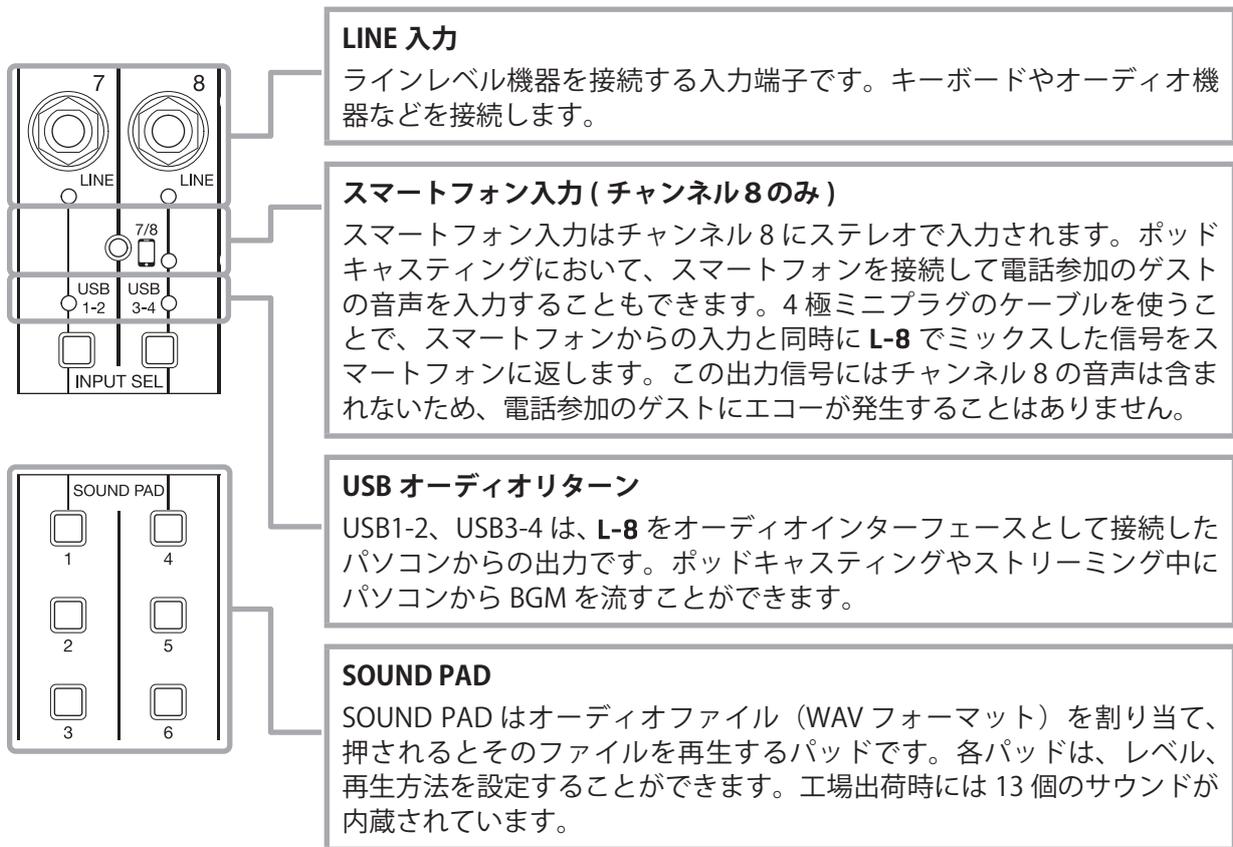
4. 各チャンネルフェーダーで音量を調節する

5. マスターフェーダーで全体の音量を調節する

6.  でヘッドフォンの音量を調節する

チャンネル7、8の入力を切り替える

チャンネル7、8は以下の入力に対応しています。



入力を切り替える

1. チャンネル7または8の  を押して入力を選択する
選択されている入力に対応した LED が点灯します。

• チャンネル7

LINE入力 → USB1-2 → SOUND PAD 1-3

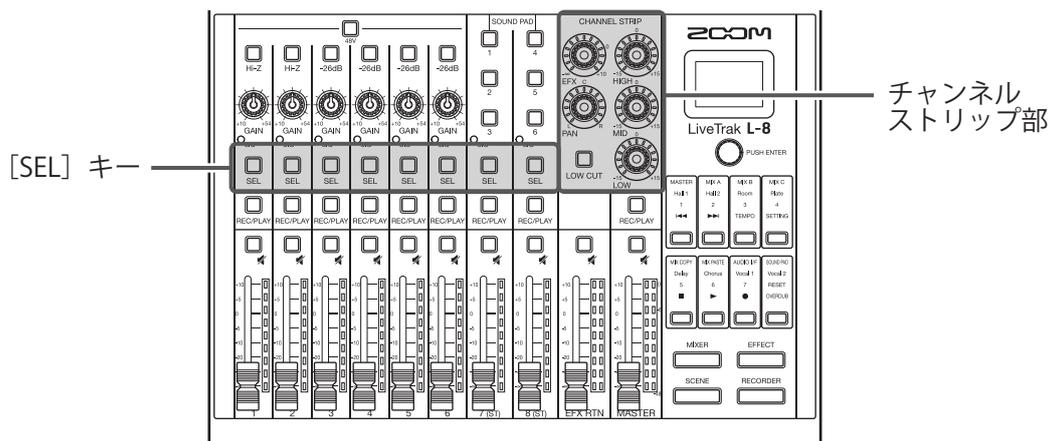
• チャンネル8

LINE入力 → スマートフォン入力 → USB3-4 → SOUND PAD 4-6

NOTE

チャンネル8のスマートフォン入力とチャンネル7のLINE入力を同時に選択することはできません。その場合はチャンネル7のLINEのインジケータが点滅します。

音質や定位を調節する



1. 音質や定位を調節したいチャンネルの  を押して、点灯させる

2. チャンネルストリップ部の各ノブ／キーを操作して音質、定位を調節する

音質を調節する： 、、、

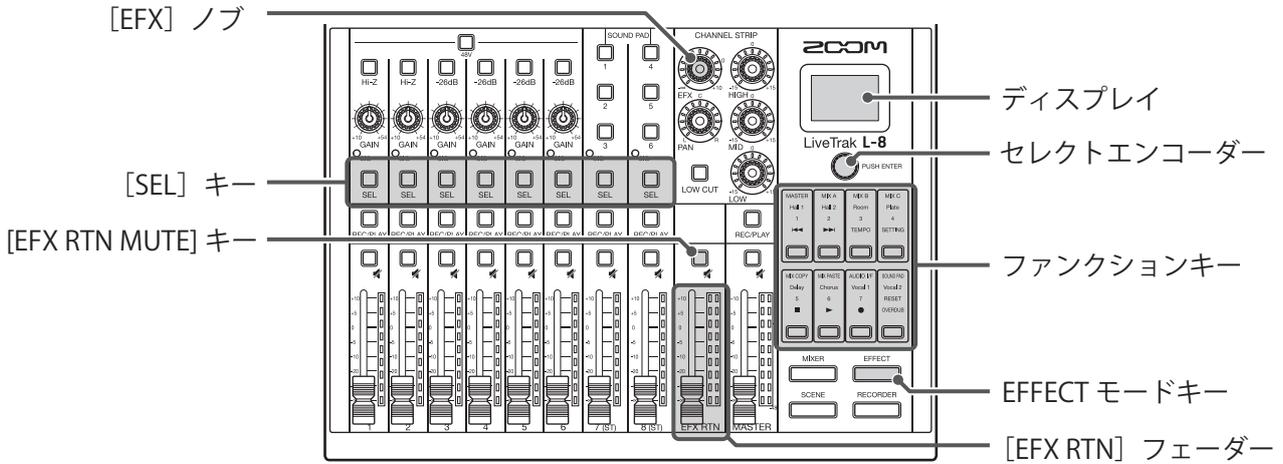
定位を調節する： 

HINT

各ノブ／キーの詳細 (→ 8 ページ「チャンネルストリップ部 (CHANNEL STRIP)」)

内蔵エフェクトを使う

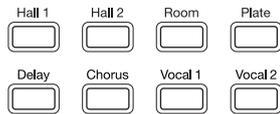
L-8には1系統、8タイプのセンドリターンエフェクトが搭載されています。



1. を押して点灯させる
ディスプレイに現在選択されているエフェクトタイプが表示されます。



2. (ファンクションキー) を押してエフェクトを選択する



選択されたエフェクトタイプのキーが点灯します。

3. EFX RTN の を OFF (消灯) にする

4. [EFX RTN] フェーダーを「0」の位置に合わせる

5. エフェクトをかけたいチャンネルの を押して、点灯させる

6. でチャンネルごとのかかり具合を調節する

7. [EFX RTN] フェーダーで全体のかかり具合を調節する

8. で、エフェクトのパラメーターを調節する

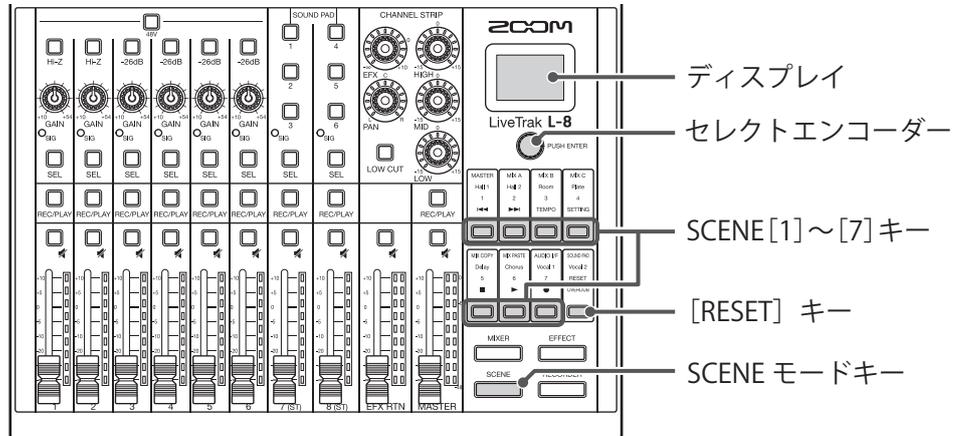
- パラメーター調節： を回す
- パラメーター選択： を押す

NOTE

各エフェクトタイプ、 で調節できるパラメーター (→ [111 ページ「センドエフェクト仕様」](#))

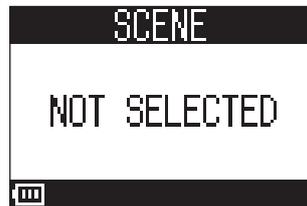
シーン機能を使う

シーン機能とは、現在のミキサーの設定をシーンとして最大で7つ保存し、保存した設定をいつでも呼び出せる機能です。



シーンを保存する

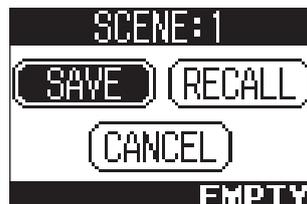
1.  を押して点灯させる
ディスプレイに SCENE 画面が表示されます。



2. 保存したい番号の  (SCENE [1] ~ [7] キー) を押す

3.  を回して **SAVE** を選択し、 を押す

シーンの保存を行わない場合は、 を回して **CANCEL** を選択し、 を押します。



NOTE

- 7つのシーンは**L-8**に保存されます。
- すでにシーンが保存されているキーを選択した場合は、シーンが上書きされます。
- シーンで保存される対象は以下のとおりです。
 - フェーダー位置 (各チャンネル、EFX 1/2 RTN、MASTER)
 - MUTE ON/OFF (各チャンネル、EFX 1/2 RTN、MASTER)
 - LOW CUT
 - EQ HIGH
 - EQ MID
 - EQ LOW
 - SEND EFX
 - PAN
 - EFX TYPE
 - EFX パラメーター
 - INPUT SEL 設定状態

シーンを呼び出す

1.  を押して点灯させる

ディスプレイに SCENE 画面が表示されます。

2. 呼び出したい番号の  (SCENE [1] ~ [7] キー) を押す

3.  を回して **RECALL** を選択し、 を押す

シーンの呼び出しを行わない場合は、 を回して **CANCEL** を選択し、 を押します。



NOTE

- 現在のチャンネルフェーダー位置と呼び出したチャンネルフェーダー位置が異なる場合、レベルメーターに表示されたフェーダー位置と同じ位置にフェーダーを動かすまで、音量は変化しません。(→ [5 ページ「インプットチャンネル部」](#))
- シーンが保存されていない場合はディスプレイ右下に「EMPTY」と表示されます。

ミキサー設定を初期化する

1.  を押して点灯させる
ディスプレイに SCENE 画面が表示されます。

2.  を押す

3.  を回して **RECALL** を選択し、 を押す

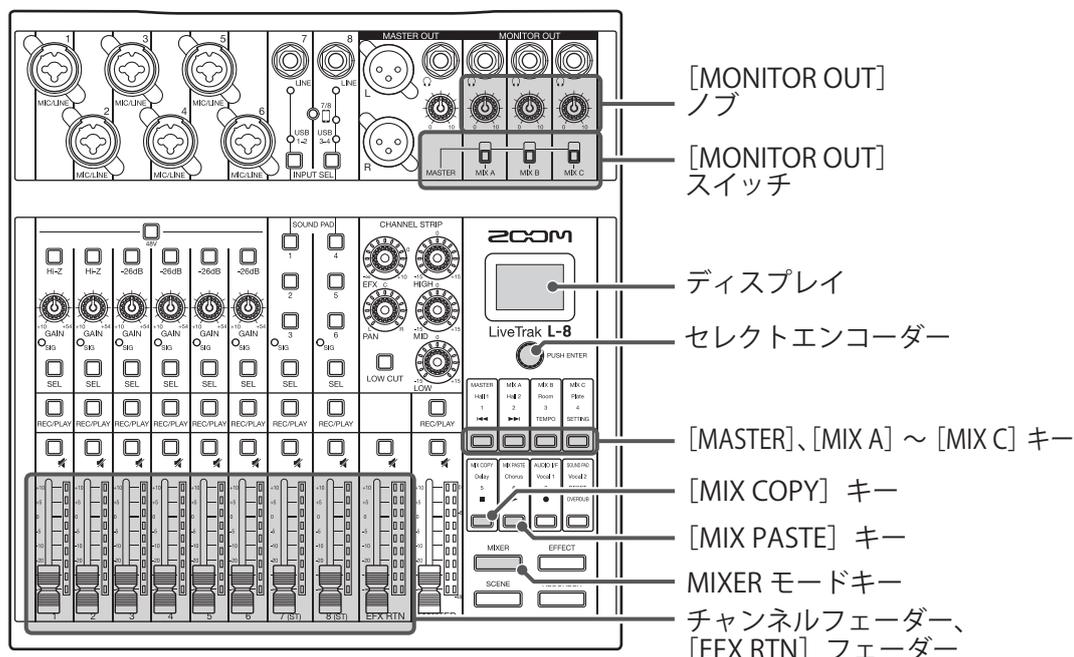
現在のミキサー設定が工場出荷時の状態に戻ります。

初期化を行わない場合は、 を回して **CANCEL** を選択し、 を押します。



MONITOR OUT A ~ C から出力する信号を設定する

MONITOR OUT A ~ C から出力される信号は、MASTER OUT と同じミックスバランスで出力するか、MASTER OUT とは別のミックスバランスで出力するかを設定することができます。



MONITOR OUT A ~ C のミックスバランスを調節する

1.  を押して点灯させる

ディスプレイに MIXER 画面が表示されます。



2. ミックスバランスを調節したい出力先に対応する  ~  を押す

選択した出力先のキーが点灯し、チャンネルフェーダー、[EFX RTN] フェーダーの操作が可能になります。

NOTE

レベルメーターには、フェーダー位置が表示されます。現在のフェーダー位置と呼び出したフェーダー位置が異なる場合、レベルメーターに表示されたフェーダー位置と同じ位置にフェーダーを動かすまで、音量は変化しません。

HINT

 を回して、MIX A、MIX B または MIX C を選択することもできます。

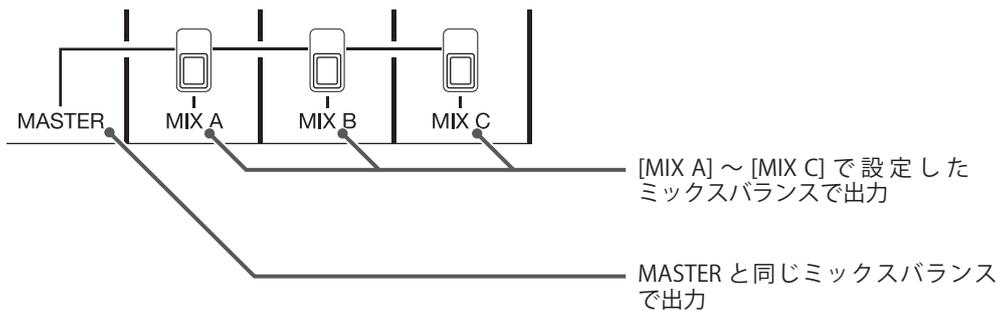
3. チャンネルフェーダー、[EFX RTN] フェーダーを操作して音量を調節する

MONITOR OUT A ~ C の音量を調節する

1. MONITOR OUT A ~ C の  を回す

MONITOR OUT A ~ C の出力信号を選択する

1. 出力先の [MONITOR OUT] スイッチで出力信号を切り替える



NOTE

- 各出力のミックスバランスは、シーン、プロジェクトに保存されます。
- MASTER、[MIX A] ~ [MIX C] で個別に設定を持つことができるパラメーターは以下のとおりです。
 - フェーダー位置 (各チャンネル)
 - [EFX RTN] フェーダー位置

ミックスバランスをコピーする

1.  を押して点灯させる
ディスプレイに MIXER 画面が表示されます。

2. コピーしたい 、 ~  を押す

3.  を押す



4. 貼り付け先の 、 ~  を押す

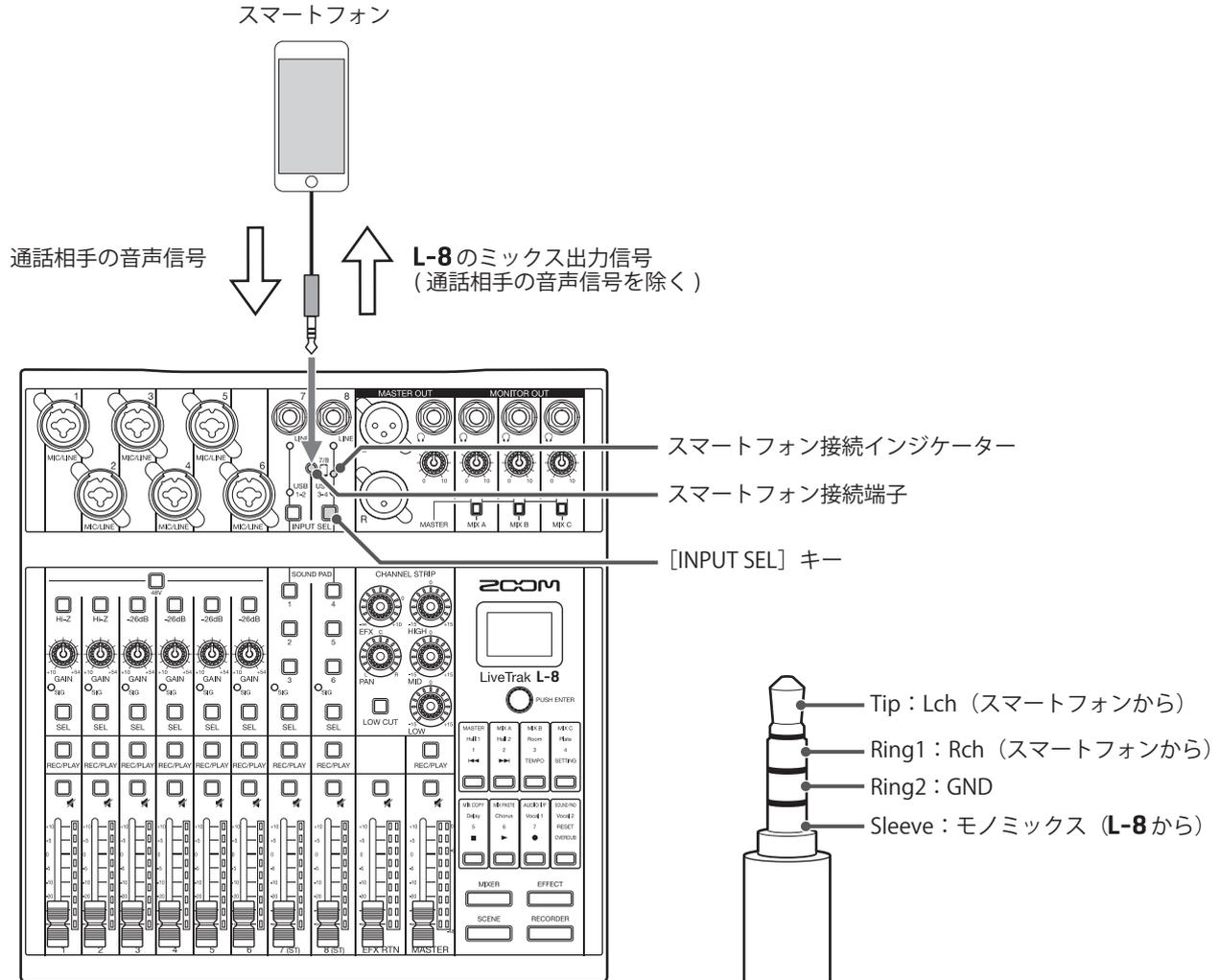
5.  を押す

コピー元のミックスバランスが、コピー先へコピーされます。



スマートフォンを接続する

L-8はスマートフォン接続端子を搭載しています。4極ミニプラグ (TRRS) のケーブルを使用してこの端子にスマートフォンを接続すると、スマートフォンからの音声信号を**L-8**のチャンネル8に入力できるだけでなく、**L-8**のミックス出力信号をスマートフォンに入力することができるため、ポッドキャストにゲストを電話参加させるといった使い方が可能です。



1. スマートフォンを**L-8**のスマートフォン接続端子に接続する

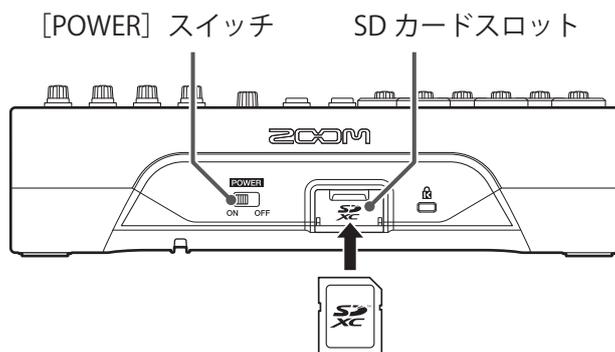
2. チャンネル8の を押してスマートフォン接続インジケータを点灯させる (→ [29 ページ「チャンネル7、8の入力を切り替える」](#))

HINT

- **L-8**はミックス出力信号をスマートフォンに返しますが、その出力信号にはスマートフォンからの音声は含まれないため、電話参加のゲスト側にエコーが発生することはありません。
- 4極ミニプラグ (TRRS) のケーブルではなくステレオミニケーブルを使ってスマートフォンを接続することもできます。その場合、スマートフォンからの音声信号は**L-8**に入力されますが、**L-8**のミックス出力信号がスマートフォンに入力されることはありません。

録音の準備をする

SD カードをセットする



1.  を OFF にする

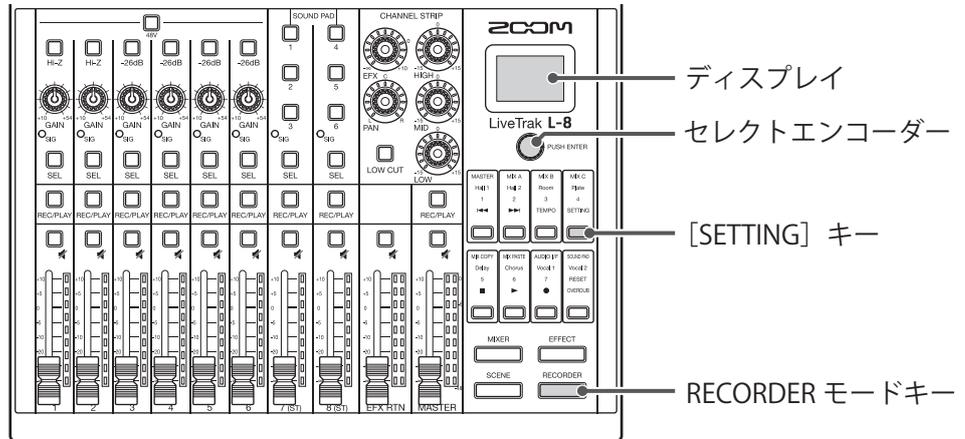
2. SD カードスロットカバーを開き、SD カードをスロットの奥まで差し込む
取り出したいときは SD カードを一度スロットの奥に押し込んでから、引き抜きます。

NOTE

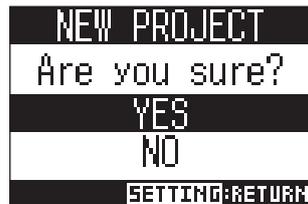
- SD カードのライトプロテクトを解除してから挿入してください。
- SD カードを抜き差しするときは、必ず  を OFF にしてください。
電源が ON のままで行うと、データを破損させる恐れがあります。
- SD カードを抜き差しするときは、カードの向きや裏表に注意してください。
- SD カードが入っていないときは、録音や再生はできません。
- SD カードを初期化するには (→ [92 ページ「SD カードを初期化する」](#))
- Class10 以上の SD カードをご使用ください。
- 96 kHz で録音する際は、録音前に SD カードを初期化してください。初期化しないで録音すると、音飛びが発生する場合があります。

新しいプロジェクトを作成する

L-8では録音、再生するデータをプロジェクトという単位で管理します。



1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。
2.  を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。
3.  で、PROJECT > NEW PROJECT を選択する
4.  を回して YES を選択し、 を押す



NOTE

- プロジェクトとは (→ [66 ページ「プロジェクト」](#))
- 新しいプロジェクトを作成したときには、現在のミキサーの設定が新しいプロジェクトに引き継がれます。

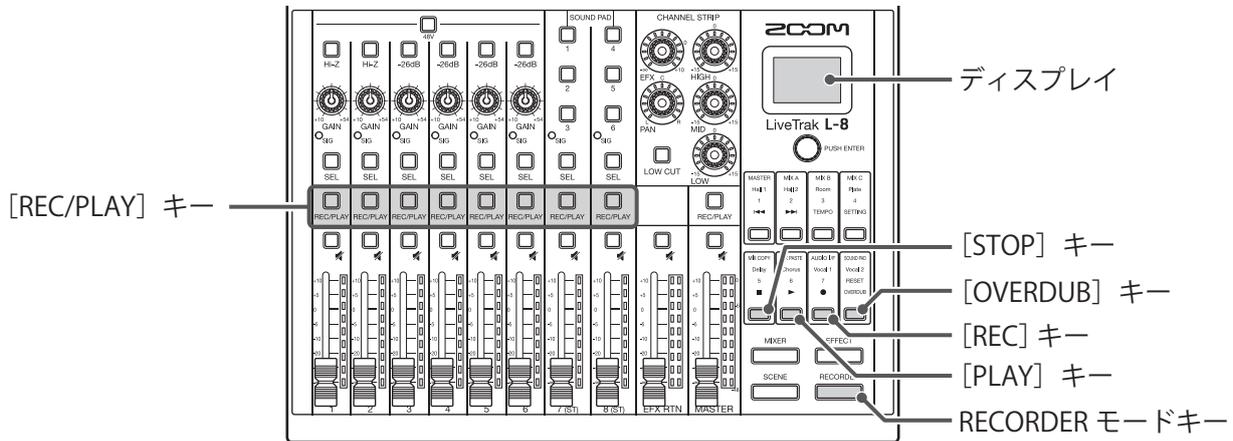
HINT

L-8の電源を入れると、前回操作していたプロジェクトが自動的に読み込まれます。

録音（新規・上書き）／再生する

L-8は、最大で12トラックの同時録音と、10トラックの同時再生ができるレコーダー機能を内蔵しています。各チャンネルの入力信号とマスターフェーダー通過後の信号を録音／再生することができます。

録音する



1. を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。
2. でオーバーダビングの ON/OFF を選択する
 - 点灯 (ON)：現在のプロジェクトに上書きする
 - 消灯 (OFF)：新しいプロジェクトを作成して録音する
3. 録音したいチャンネルの を繰り返し押して、赤色に点灯させる
4. を押して点灯させ、録音待機状態にする

HINT

現在のプロジェクトに録音済みファイルがあり、かつ が OFF の場合、 を押すと新しいプロジェクトが作成され、その後録音待機状態になります。

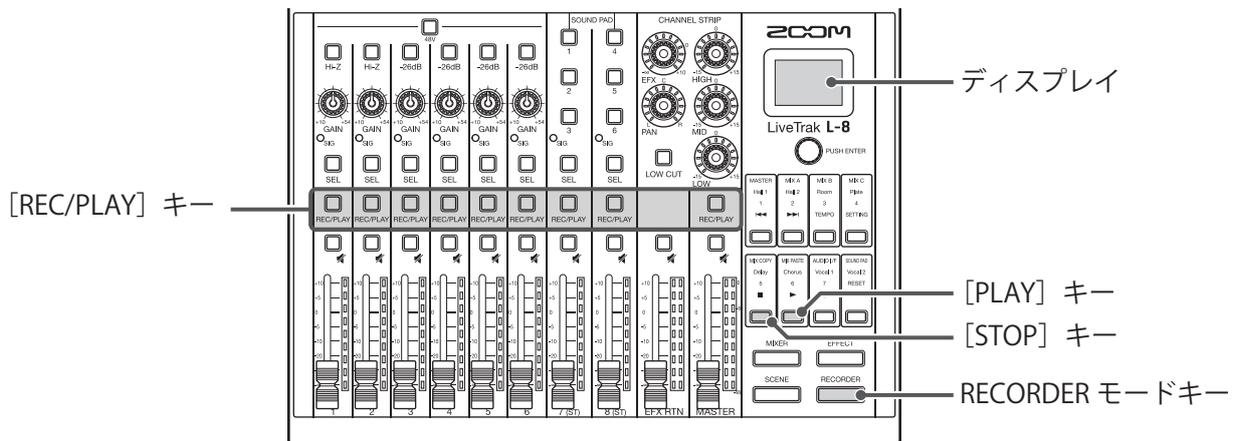
5. を押して点灯させ、録音を開始する

6. を押して録音を停止する

NOTE

- チャンネル 7、8 の録音トラックはステレオになります。
- パンチイン／アウトするには (→ [45 ページ「一部分のみ録音をやり直す \(パンチイン／アウト機能\)」](#))
- 自動的に録音を開始するには (→ [48 ページ「自動的に録音を開始する」](#))
- 時間をさかのぼって録音するには (→ [50 ページ「録音開始前から時間をさかのぼって録音する」](#))
- 録音が終了するとディスプレイに “Please wait” と表示されます。この表示中に電源を切ったり、SD カードを取り外さないでください。データ破損や、故障の原因になります。

再生する



1. を押して点灯させる

ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。

2. 再生したいチャンネルの を繰り返し押して、緑色に点灯させる

3. を押して再生を開始する

-  点灯：再生中
-  点滅：再生一時停止中

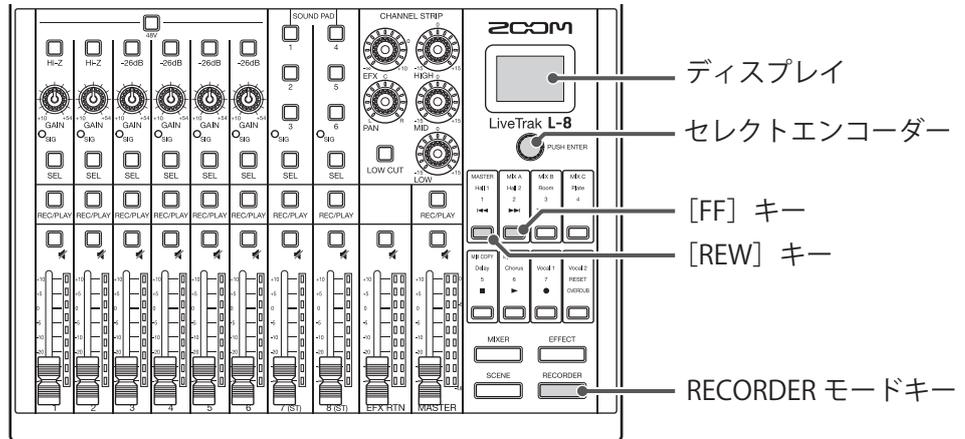
4. を押して再生を停止する

NOTE

- チャンネル 7、8 の再生トラックはステレオになります。
- 再生される信号はイコライザーの手前に挿入されるため、再生中に音の音質、定位を調整できます。(→ [112 ページ「ミキサーブロックダイアグラム」](#))
- 再生したいプロジェクトを選択するには (→ [51 ページ「再生したいプロジェクトを選択する」](#))
- 再生モードを変更するには (→ [90 ページ「再生方法を変更する」](#))
- MASTER チャンネルの再生時には、他のチャンネルを再生することはできません。

マークを登録する

レコーダーの任意の位置にマークを登録すれば、簡単な操作でその位置に移動できます。



録音／再生中にマークを付ける

1. **RECORDER** を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。

2. 録音／再生中に **PUSH ENTER** を押す

マークの順番に移動する

1. **RECORDER** を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。

2. キー操作でマークの順番に移動する

次のマークに進む： **Next** を押す

前のマークに戻る： **Prev** を押す

NOTE

プロジェクト内のマークを確認、削除するには (→ 71 ページ「マークを確認、移動、削除する」)

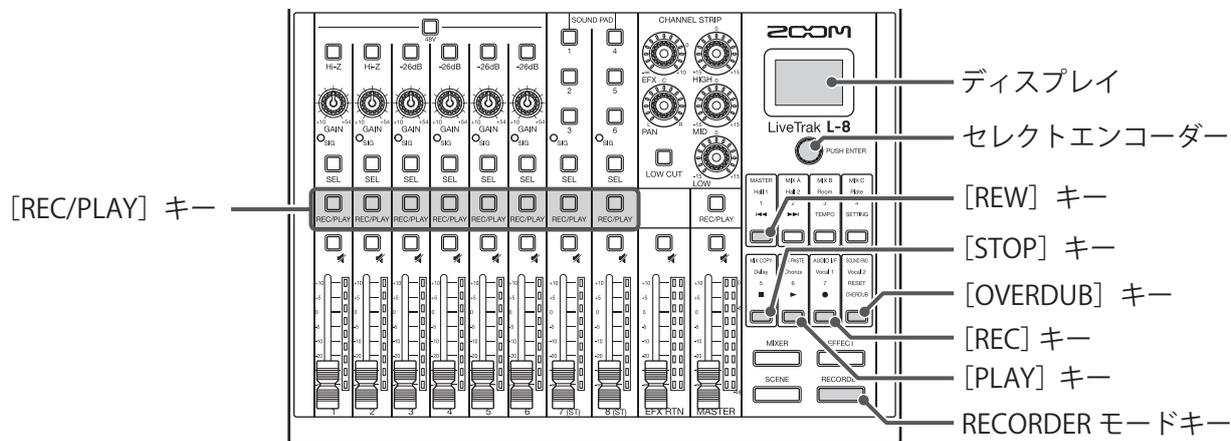
HINT

- マークは 1 プロジェクトに最大 99 個までつけられます。
- マークの位置で **PUSH ENTER** を押し込むことでマークを削除することもできます。

一部分のみ録音をやり直す（パンチイン／アウト機能）

“パンチイン／アウト”は、すでに録音されているトラックの一部のみを録音し直す機能です。トラックの状態を再生から録音へと切り替える操作が“パンチイン”、録音から再生へと切り替える操作が“パンチアウト”です。

L-8では、パネル上のキーを使ってパンチイン／アウトを手動で行うことができます。



1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。
2.  を押して ON（点灯）にする
3. 録り直すトラックの  を繰り返し押して、赤色に点灯させる
4.  を押すか、または  を左に回して、録り直す部分の手前に移動する
5.  を押して再生を開始する
6. 録り直したい位置で  を押して録音を開始する（パンチイン）
7. 録り直しが終わったら、 を押す（パンチアウト）

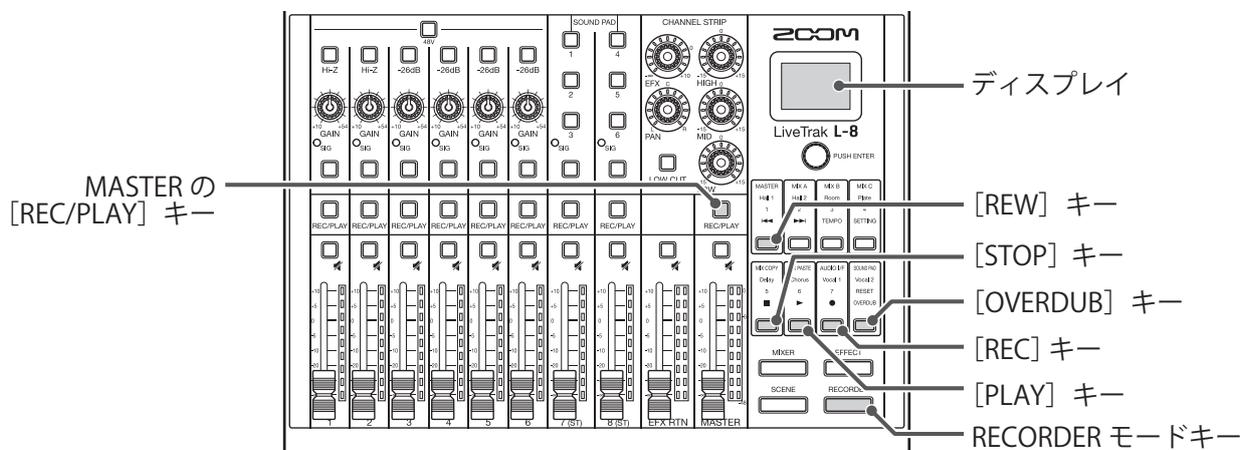
NOTE

- ・パンチイン／アウトは上書き録音で行います。
- ・1回の再生で、最大10回連続パンチイン／アウトすることができます。

8. 再生を停止するには  を押す

ミックスダウンをする

最終的なステレオミックスを、マスタートラックに録音します。
マスターフェーダー通過後の信号がマスタートラックへと送られます。



マスタートラックにミックスダウンをする

1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。

2.  を押して ON (点灯) にする

NOTE

- 録音した個々のトラックの音量、定位を調節した状態で操作を始めてください。
- ミックスダウンを行うときは、サンプルレートを 44.1 kHz、もしくは 48 kHz を選択してください。
サンプルレートが 96 kHz 時、 を ON にすることができません。

3. MASTER の  を繰り返し押して、赤色に点灯させる

4.  で先頭に戻る

5.  を押して録音待機状態にする

6.  を押して録音を開始する

7. ミックスダウンが終了したら、 を押す

マスタートラックを再生する

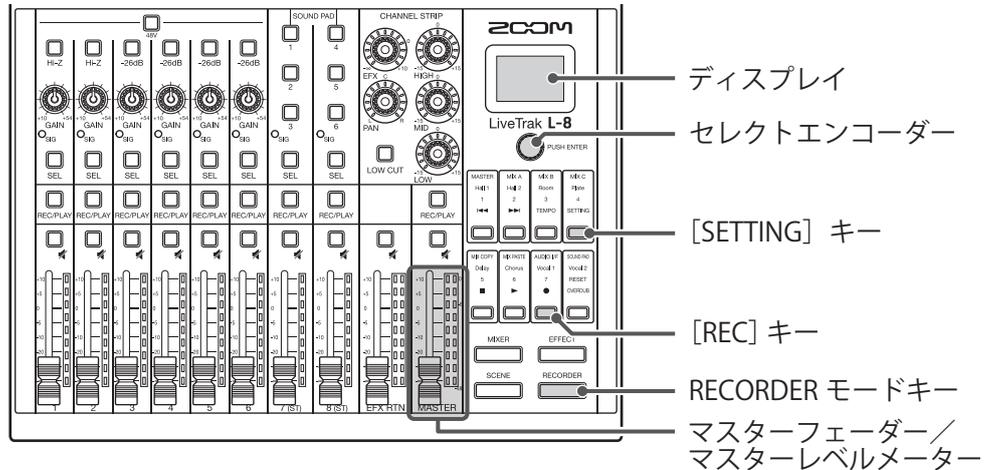
1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。
2. MASTER の  を繰り返し押して、緑色に点灯させる
3.  を押す

NOTE

- マスタートラックの再生を解除するには、MASTER の  を消灯するまで数回押します。
- マスタートラック再生時には、他のトラックは再生されません。
- [MONITOR OUT] PHONES 端子 A ~ C に接続したヘッドフォンでマスタートラックの再生を聞く場合は、[MONITOR OUT] スイッチ A ~ C を MASTER 側にしてください。

自動的に録音を開始する

マスターフェーダー通過後のレベルに応じて、自動的に録音を開始/終了することができます。



1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。
2.  を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。
3.  で、**REC/PLAY** > **AUTO REC** > **ON/OFF** を選択する
4.  を回して **ON** を選択し、 を押す



NOTE

自動録音機能の詳細を設定するには (→ 86 ページ「自動録音設定を変更する」)

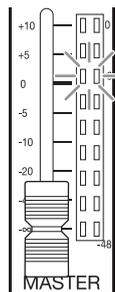
5.  を数回押して、RECORDER 画面に戻る

HINT

 を押すと RECORDER 画面に戻ります。

6.  を押して点灯させ、録音待機状態にする

MASTER のレベルメーターが自動録音の開始レベルの位置で点滅します。



HINT

設定したレベル（MASTER のレベルメーター上に表示）以上の入力があると、自動的に録音を開始します。設定したレベル以下の入力になると自動的に録音を終了する機能を使用することもできます。（→ [87 ページ「自動停止を設定する」](#)）

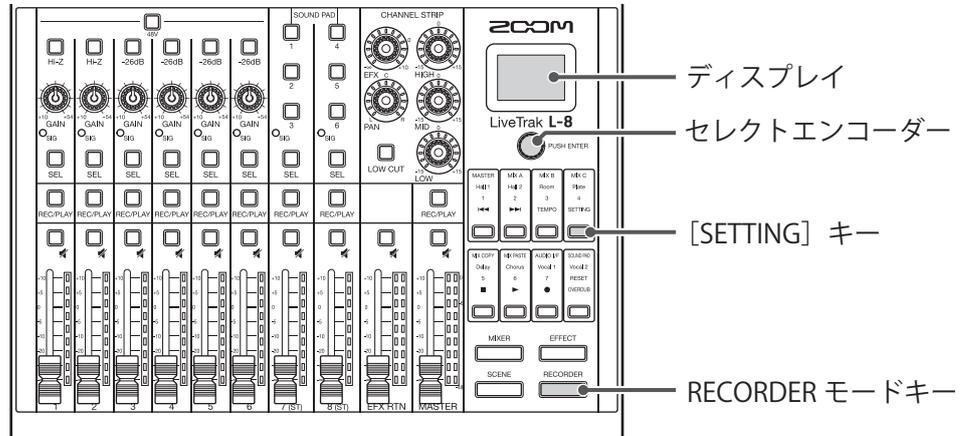
7. 待機状態から抜けたいときや録音を中止したいときは、 を押す

NOTE

- PRE REC、METRONOME、PRE COUNT 機能との併用はできません。AUTO REC を ON にした場合、これらの機能は無効となります。
- OVER DUB 機能が有効のとき、AUTO REC 機能は無効となります。

録音開始前から時間をさかのぼって録音する

入力信号を常に一定時間蓄えておくことにより、録音を開始する2秒前までさかのぼって録音（プリ録音）できます。突然演奏が始まったときなどに備えて設定しておく便利です。



1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。

2.  を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。

3.  で、**REC/PLAY** > **PRE REC** を選択する

4.  を回して **ON** を選択し、 を押す

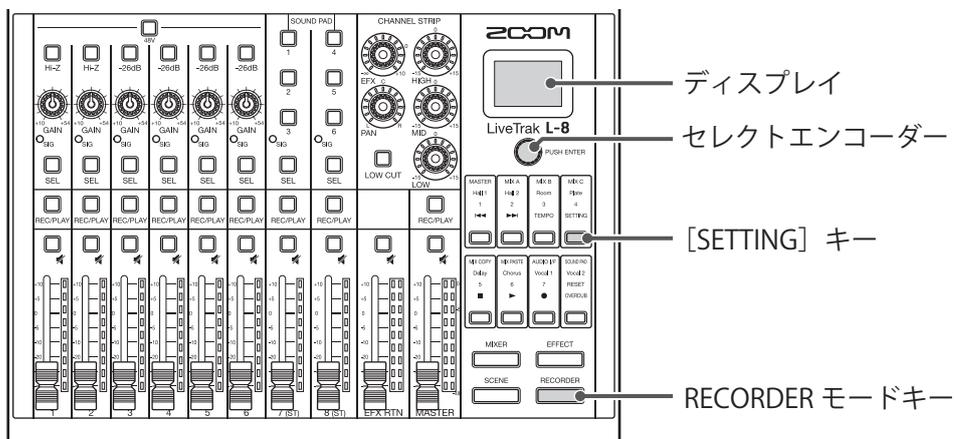


NOTE

- AUTO REC、METRONOME、PRE COUNT、OVER DUB 機能との併用はできません。
- AUTO REC、PRE COUNT を ON にした場合、PRE REC は無効になります。
- 録音の一時停止状態でも、PRE REC 機能は有効です。

再生したいプロジェクトを選択する

SD カードに保存されているプロジェクトを読み込みます。



1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。
2.  を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。
3.  で、PROJECT > SELECT を選択する
4.  を回して読み込みたいプロジェクトを選択し、 を押す



NOTE

- プロジェクトが読み込まれると、プロジェクトに保存されたミキサーの設定が読み込まれます。
- 現在のチャンネルフェーダー位置と読み込んだプロジェクトのチャンネルフェーダー位置が異なる場合、レベルメーターには呼び出されたフェーダー位置が表示されます。現在のフェーダー位置と同じになるまでは、音量は変化しません。
- 別のプロジェクトへ移動したとき、移動元のプロジェクトのミキサー設定はプロジェクトフォルダ内の設定ファイルに保存されます。

SOUND PAD

SOUND PAD はオーディオファイル（WAV フォーマット）を割り当て、押されるとそのファイルを再生するパッドです。各パッドは、レベル、再生方法を設定することができます。

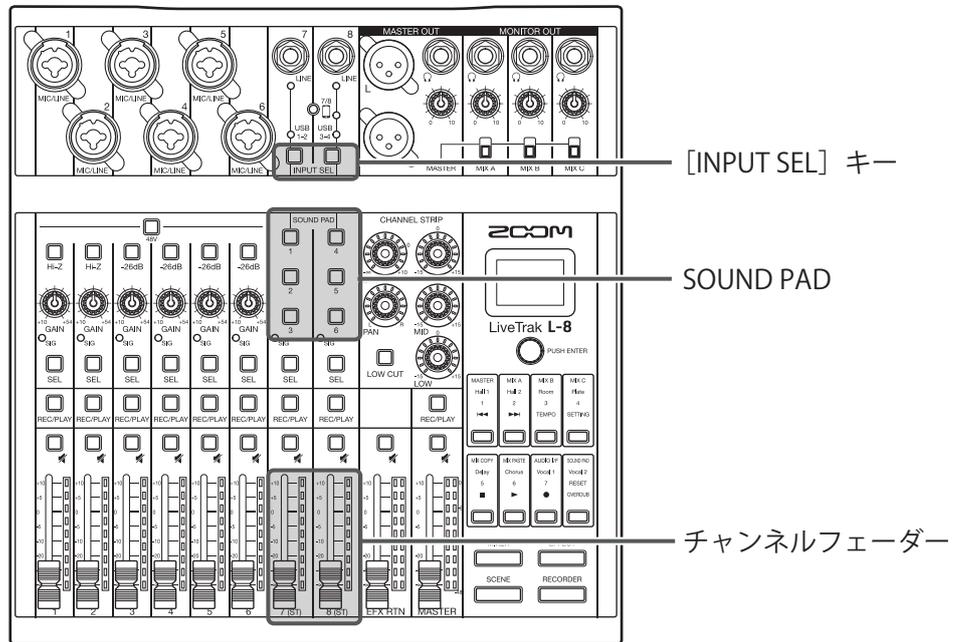
ポッドキャストやストリーミング、演劇時やバンド演奏時の効果音を出したいときなどに便利です。

NOTE

L-8のサンプルレートが96 kHzに設定されているときは、SOUND PADは使用できません。

SOUND PAD を使って音源を再生する

L-8では、工場出荷時には13個のサウンドが内蔵されており、その中から6つがSOUND PADにプリセットされています。



1. チャンネル7または8の  を押して、入力を SOUND PAD に切り替える（SOUND PAD を点灯させる）音源が割り当てられている SOUND PAD が点灯します。
 - SOUND PAD1 ~ 3：チャンネル7に入力します。
 - SOUND PAD4 ~ 6：チャンネル8に入力します。

2. SOUND PAD を押す

SOUND PAD に割り当てられている音源を再生します。

音量はチャンネル7または8のフェーダーで調節します。

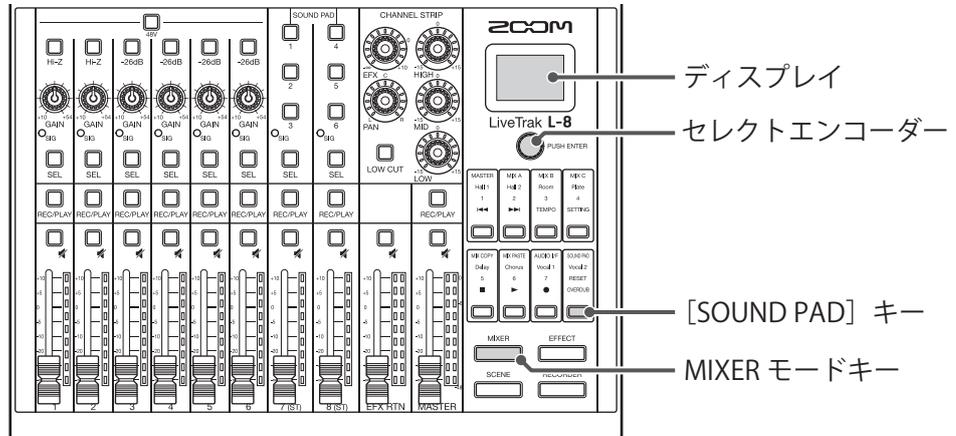
他チャンネルと同様、音質調整をしたり（→ [30 ページ「音質や定位を調節する」](#)）、エフェクト効果を加える（→ [31 ページ「内蔵エフェクトを使う」](#)）こともできます。

NOTE

SOUND PAD を再生しているチャンネルの  を4回連打すると再生を止めることができます。

オーディオファイルを SOUND PAD に割り当てる

SOUND PAD には内蔵音源、SD カードに保存されたオーディオファイルを割り当てることができます。また、SOUND PAD に割り当てる音源を**L-8**で直接録音することもできます（MASTER ミックスの音が録音されます）。



内蔵音源または SD カードに保存されたオーディオファイルを割り当てる

NOTE

SD カードに保存されたオーディオファイルを割り当てる場合は、あらかじめパソコンでオーディオファイルを SD カードの PROJECT フォルダ内以外のディレクトリに保存しておいてください。

(→ 82 ページ「カードリーダー」)

SOUND PAD は以下のファイルに対応しています。

- ファイル：WAV フォーマット
- サンプルレート：44.1/48 kHz
- ビットレート：16/24-bit
- チャンネル：モノラル/ステレオ

オーディオファイルのサンプルレートと **L-8** の SAMPLE RATE の設定を一致させてください。

1.  を押して点灯させる

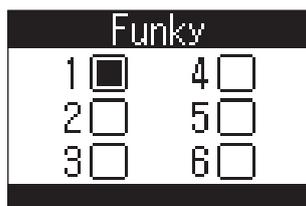
ディスプレイに MIXER 画面が表示されます。



2.  を押して点灯させる

ディスプレイに SOUND PAD 画面が表示されます。

3.  PUSH ENTER を回してオーディオファイルを割り当てたい SOUND PAD (PAD1 ~ PAD6) を選択し、 PUSH ENTER を押す



HINT

SOUND PAD を押してオーディオファイルを割り当てたい SOUND PAD を選択することもできます。

4.  PUSH ENTER を回して SOUND ASSIGN を選択し、 PUSH ENTER を押す



5. 内蔵音源を割り当てる場合：

 PUSH ENTER を回して PRESET SOUND を選択し、 PUSH ENTER を押す

SD カードに保存されたオーディオファイルを割り当てる場合：

 PUSH ENTER を回して SD CARD (WAV) を選択し、 PUSH ENTER を押す



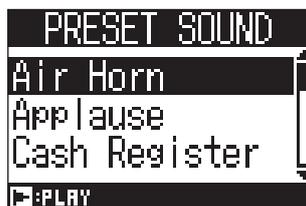
内蔵音源または SD カードに保存されているオーディオファイルのリストが表示されます。

NOTE

NONE を選択すると、SOUND PAD にオーディオファイルが割り当てられません。

6.  PUSH ENTER を回して割り当てたいオーディオファイルを選択し、 PUSH ENTER を押す

オーディオファイルが選択した SOUND PAD に割り当てられます。



HINT

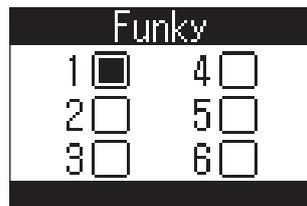
オーディオファイルを選択し、 を押すことで試聴することができます。

SOUND PAD に割り当てる音源を直接録音する

1.  を押して点灯させる
ディスプレイに MIXER 画面が表示されます。

2.  を押して点灯させる
ディスプレイに SOUND PAD 画面が表示されます。

3.  を回してオーディオファイル割り当てたい SOUND PAD (PAD1 ~ PAD6) を選択し、 を押す



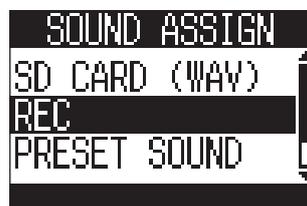
HINT

SOUND PAD を押してオーディオファイル割り当てたい SOUND PAD を選択することもできます。

4.  を回して SOUND ASSIGN を選択し、 を押す



5.  を回して REC を選択し、 を押す



6.  を押す

録音を開始します。MASTER OUT ミックスの音が録音されます。もう一度押すと録音を停止し、録音したオーディオファイルが選択した SOUND PAD に割り当てられます。



NOTE

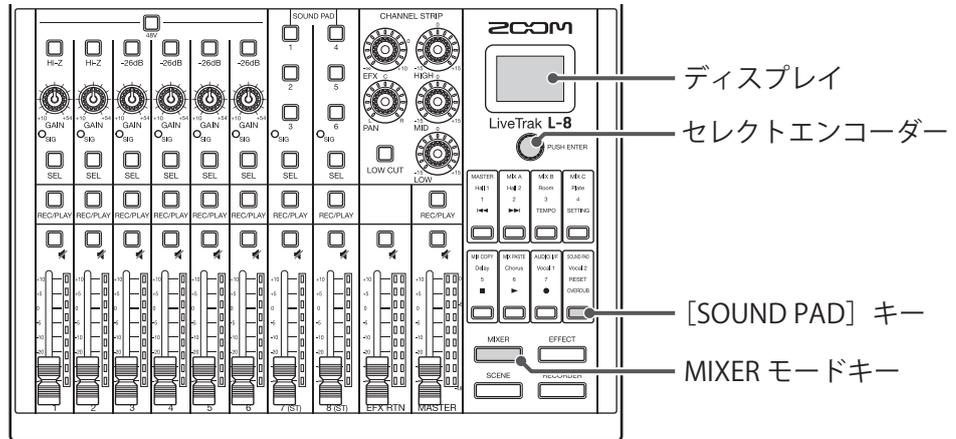
- 録音したオーディオファイルは、割り当てた SOUND PAD の番号、月日、連番を組み合わせた名称で "SOUND_PAD" フォルダに保存されます。(ファイル名の例：P1_0101_001.WAV)
- 最大 1000 個まで保存できます。
- オーディオファイルのサンプルレートは、**L-8**で設定されているサンプルレートに依存します。
- ビットレートは録音設定に依存します。
- 最長録音時間は 2 時間です。
- 録音時、PRE REC、AUTO REC、METRONOME、LATENCY ADJUST の各設定は反映されません。

HINT

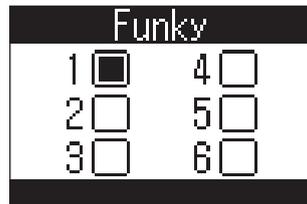
録音中でもすべての SOUND PAD を使用して再生することができます。

SOUND PAD の再生方法を変更する

SOUND PAD を押したときの音源の再生方法を、各 SOUND PAD ごとに変更することができます。



1.  を押して点灯させる
ディスプレイに MIXER 画面が表示されます。
2.  を押して点灯させる
ディスプレイに SOUND PAD 画面が表示されます。
3.  を回して再生方法を変更したい SOUND PAD (PAD1 ~ PAD6) を選択し、 を押す



HINT

SOUND PAD を押して再生方法を変更したい SOUND PAD を選択することもできます。

4.  を回して **PLAY MODE** を選択し、 を押す



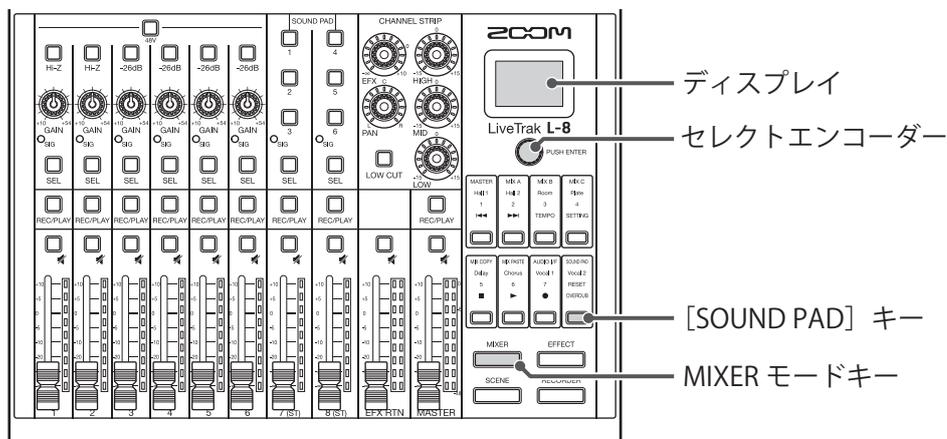
5.  を回して再生方法を選択し、 を押す



設定値	説明
ONE SHOT	SOUND PAD を押すと、一度だけファイルを再生し、終わりまで再生したら停止します。再生中に SOUND PAD を押すと、先頭から再生しなおします。
LOOP	SOUND PAD を押すたびに、再生・停止を交互に行います。停止するまでループ再生します。
HOLD	SOUND PAD を押している間ループ再生し、離すと停止します。

SOUND PAD の再生レベルを変更する

SOUND PAD を押したときの音量レベルを、各 SOUND PAD ごとに変更することができます。



1. を押して点灯させる
ディスプレイに MIXER 画面が表示されます。
2. を押して点灯させる
ディスプレイに SOUND PAD 画面が表示されます。
3. を回して音量レベルを変更したい SOUND PAD (PAD1 ~ PAD6) を選択し、 を押す



HINT

SOUND PAD を押して音量レベルを変更したい SOUND PAD を選択することもできます。

4. を回して **LEVEL** を選択し、 を押す



5.  を回して音量レベルを選択し、 を押す

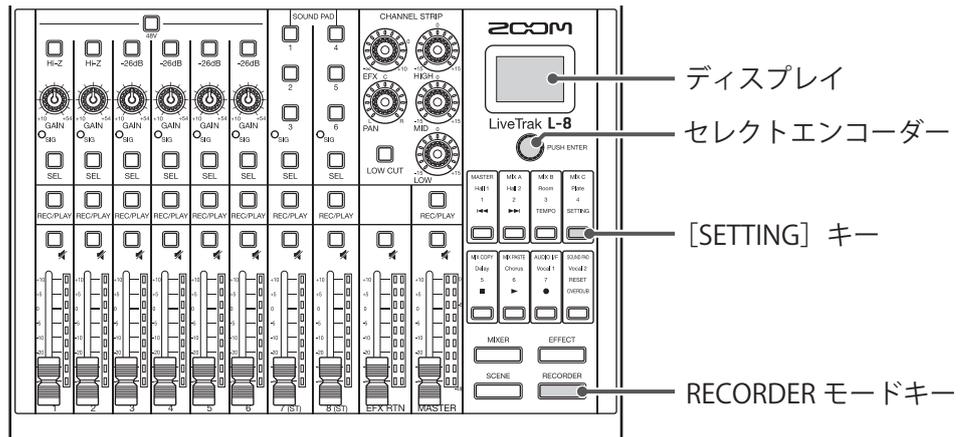
音量レベルは $-\infty$ 、-48.0 ~ +10.0 dB の範囲（0.5 dB きざみ）で選択できます。



メトロノーム

L-8は、音量、音色を変更することができるプリカウント機能付きメトロノームを搭載しています。各出力ごとに音量を変更することもできます。メトロノームの設定は各プロジェクトごとに保存されます。

メトロノームを有効にする

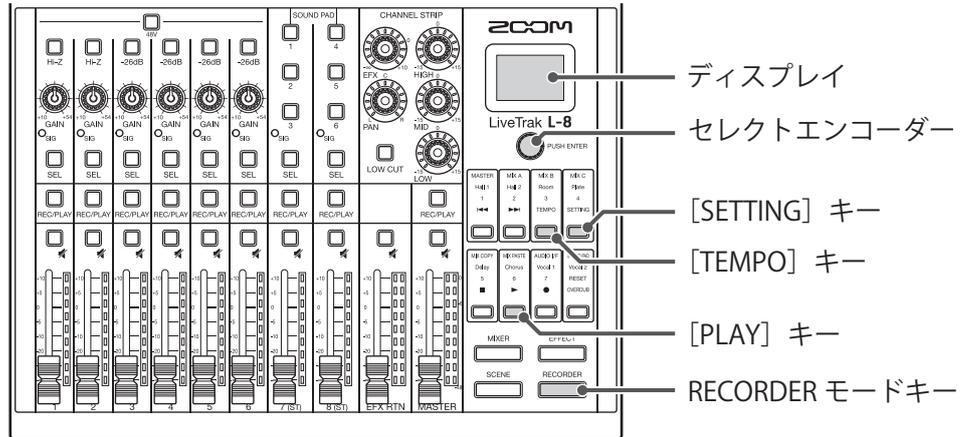


1. を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。
2. を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。
3. で、METRONOME > CLICK を選択する
4. メトロノームが鳴る条件を を回して選択し、 を押す



設定値	説明
OFF	メトロノームは鳴りません。
REC AND PLAY	録音、再生時に鳴ります。
REC ONLY	録音時のみ鳴ります。
PLAY ONLY	再生時のみ鳴ります。

メトロノームの設定を変更する



メトロノームのテンポを変更する

1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。

2.  を押して点灯させる
ディスプレイに現在のテンポが表示されます。

3. 以下のいずれかの方法でテンポを変更する

-  を回す
-  を設定したいテンポに合わせて押す



前カウントを設定する

録音／再生を開始する前にカウントを鳴らすことができます。

1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。

2.  を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。

3.  で、METRONOME > PRE COUNT を選択する

4.  を回して前カウントの動作を選択し、 を押す



設定値	説明
OFF	前カウントしません。
1 ~ 8	録音／再生を始める前に、設定した回数（1 ~ 8）前カウントを鳴らします。
SPECIAL	録音／再生を始める前に以下のようなカウントを鳴らします。 

NOTE

- 再生時にも前カウントは有効です。
- AUTO REC 機能との併用はできません。AUTO REC を ON にした場合、PRE COUNT は無効となります。
- PRE REC 機能との併用はできません。PRE COUNT を ON にした場合、PRE REC は無効となります。

メトロノームの音色を変更する

1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。

2.  を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。

3.  で、METRONOME > SOUND を選択する

4.  を回して音色を選択し、 を押す



HINT

BELL、CLICK、STICK、COWBELL、HI-Q から選択できます。

NOTE

 でメトロノームを再生し、音色を確かめることができます。

メトロノームのパターンを変更する

1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。
2.  を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。
3.  で、**METRONOME** > **PATTERN** を選択する
4.  を回してパターンを選択し、 を押す



HINT

1/4-8/4、6/8 から選択できます。

NOTE

 でメトロノームを再生し、パターンを確かめることができます。

メトロノームの音量を変更する

MASTER OUT、MONITOR OUT A～C それぞれ個別にメトロノームの音量を調節することができます。

1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。
2.  を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。

3.  で、METRONOME > LEVEL > MASTER、MONITOR OUT A ~ C を選択する

4.  を回してボリュームを調節し、 を押す



HINT

0-100 から選択できます。

NOTE

 でメトロノームを再生し、音量を確かめることができます。

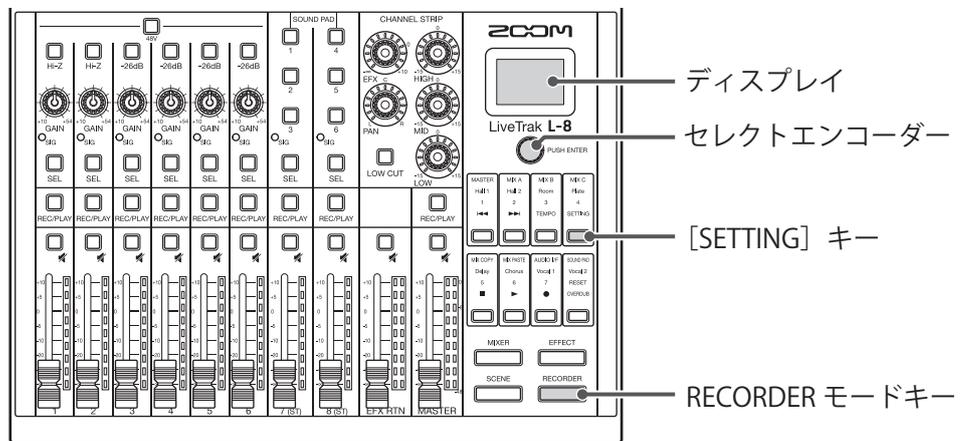
プロジェクト

L-8では録音、再生するデータをプロジェクトと呼ばれる単位で管理します。
プロジェクトに保存されるデータは以下のとおりです。

- ・オーディオデータ
- ・ミキサーの設定
- ・センドリターンエフェクトの設定
- ・マーク情報
- ・メトロノームの設定

プロジェクトの名前を変更する

現在読み込まれているプロジェクトの名称を変更します。



1. **RECORDER** を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。
2. **SETTING** を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。
3. **PUSH ENTER** で、**PROJECT > RENAME** を選択する
4. 名前を変更する



- ・カーソル移動、文字の変更： **PUSH ENTER** を回す
- ・変更する文字の選択、変更内容の確定： **PUSH ENTER** を押す

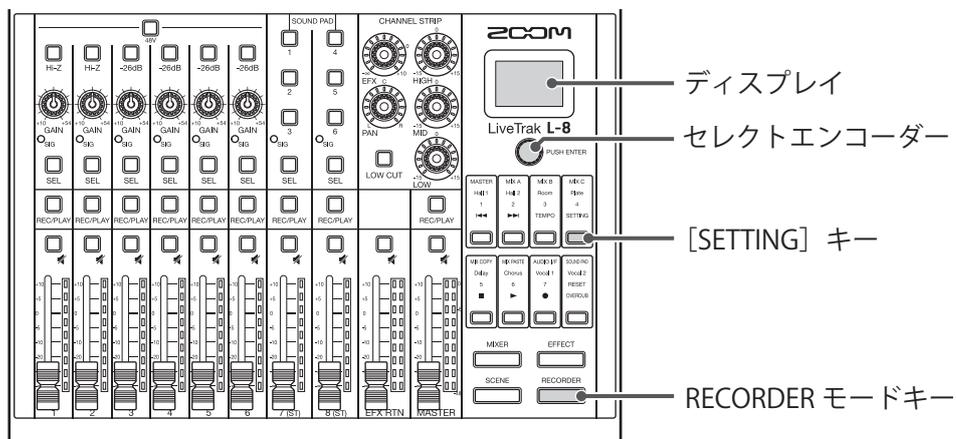
NOTE

- プロジェクト名の初期値は、作成された日時です。
例) 2019年3月14日、18時48分20秒時点で作成されたプロジェクト名：190314_184820
- プロジェクト名の文字数は13文字です。
- プロジェクト／ファイル名に使用できる文字は以下のとおりです。
(スペース) !#\$%&' () +,-0123456789;=@
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ [] ^_`
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz{~}
- プロジェクトは、数字、アルファベット順に並び替えられます。
- スペースだけのプロジェクト／ファイル名は使用できません。
- プロジェクト名は、SDカード内のプロジェクトフォルダの名称と共通です。

5.  PUSH ENTER を回して **OK** を選択し、 PUSH ENTER を押す

プロジェクトを削除する

選択されているフォルダ内のプロジェクトを削除することができます。



1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。
2.  を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。
3.  で、PROJECT > DELETE を選択する
4.  を回して削除したいプロジェクトを選択し、 を押す
5.  を回して YES を選択し、 を押す

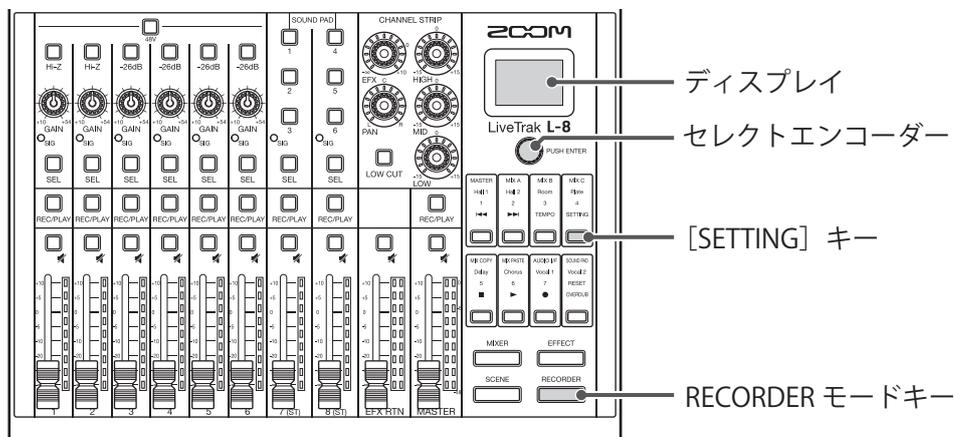


NOTE

プロテクトが ON になっているプロジェクトは削除できません。

プロテクトをかける

現在読み込まれているプロジェクトにライトプロテクト（書き換え保護）をかけて、プロジェクトの保存や消去、内容の変更ができないようにします。



1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。

2.  を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。

3.  で、PROJECT > PROTECT を選択する

4.  を回して ON を選択し、 を押す

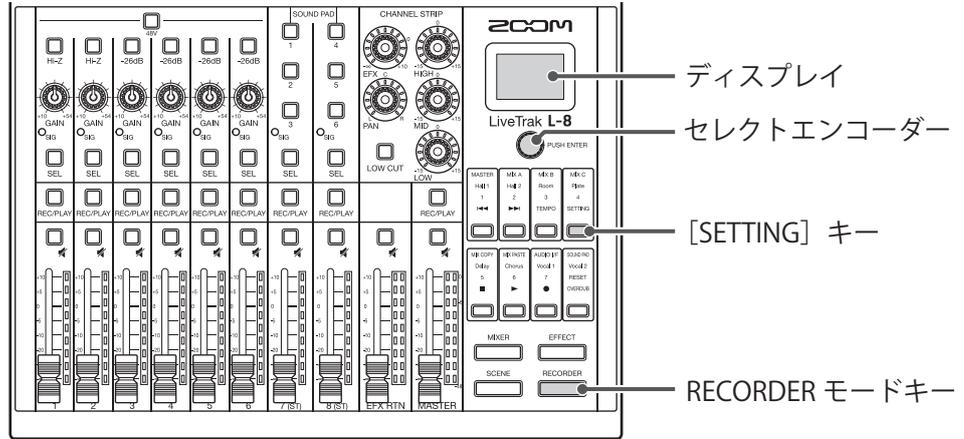


NOTE

- プロテクトが ON のプロジェクトは、録音できません。録音を行うときはプロテクトを OFF にしてください。
- プロテクトが OFF のプロジェクトは、電源を OFF にしたときや、他のプロジェクトを読み込んだときに、必ず SD カードに保存されます。楽曲が完成したら、完成後に行った操作が誤って保存されないように、プロテクトを ON にすることをお勧めします。

プロジェクトの情報を確認する

現在読み込まれているプロジェクトの各種情報を確認することができます。



1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。

2.  を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。

3.  で、PROJECT を選択する

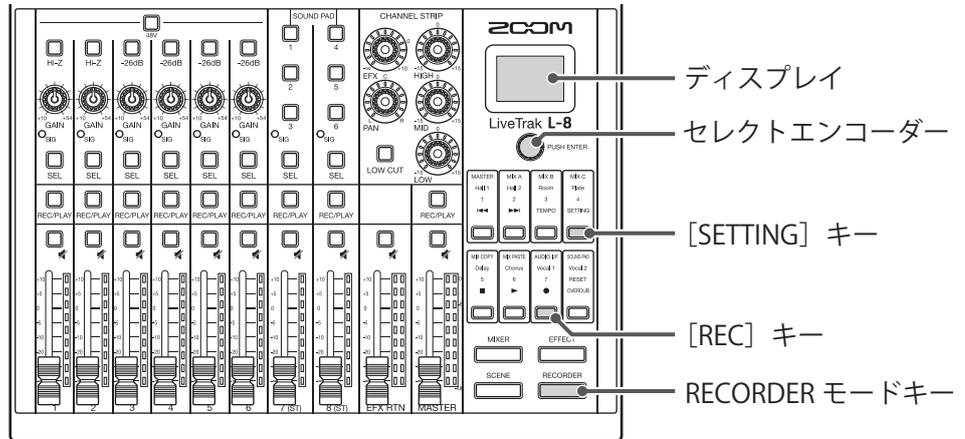
4.  を回して INFORMATION を選択し、 を押す



表示項目	説明
NAME	プロジェクト名
DATE	プロジェクト作成年月日 (YYYY/MM/DD HH:MM:SS)
FMT	録音フォーマット
SIZE	プロジェクトのサイズ
TIME	プロジェクトの時間 (HHH : MM : SS)
FILE	トラック・ファイルの情報を表示

マークを確認、移動、削除する

現在読み込まれているプロジェクトのマークを一覧表示し、マークの確認、移動、削除を行うことができます。



1. **RECORDER** を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。

2. **SETTING** を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。

3. **PUSH ENTER** で、**PROJECT > MARK LIST** を選択する
マークの一覧が表示されます。



4. マークを選択し、移動または削除を行う

- マークの選択： **PUSH ENTER** を回す
- マークの位置に移動： **PUSH ENTER** を押す
- マークの削除： **DEL** を押す

オーディオファイル

L-8では、録音先のチャンネルに応じて以下のオーディオファイルが作成されます。

- ・チャンネル1～6：モノラル WAV ファイル
- ・チャンネル7、8、MASTER：ステレオ WAV ファイル

ファイルフォーマットは、機器固有のサンプルレート（→ [97 ページ「サンプルレートを変更する」](#)）、または量子化ビット数の設定（→ [85 ページ「録音フォーマットを変更する」](#)）に応じて変わります。

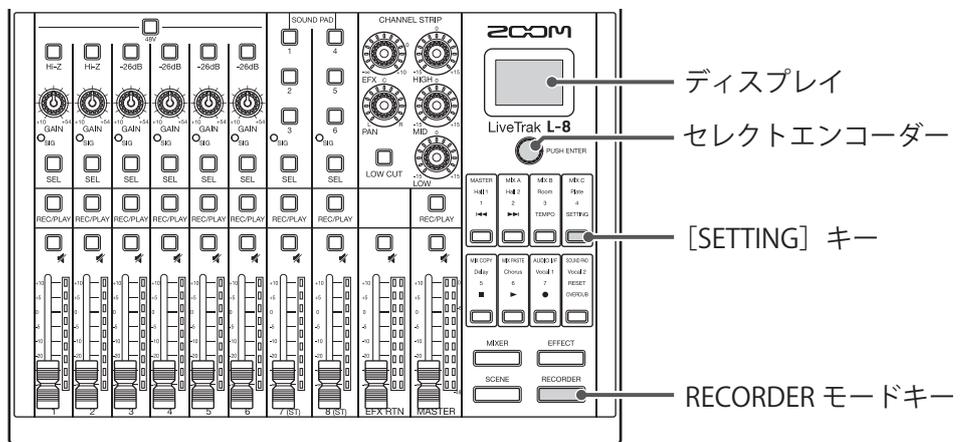
また、DAW ソフトウェアで作ったオーディオファイルを **L-8** で再生することもできます（→ [74 ページ「オーディオファイルをトラックに割り当てる」](#)）

NOTE

- ・オーディオファイルは、チャンネルによってファイル名が異なります。
チャンネル1～6：TRACK01～TRACK06
チャンネル7、8：TRACK07_ST、TRACK08_ST
MASTER：MASTER
- ・録音中にファイルサイズが2 GB を超えたときは、新しいファイルが同一プロジェクト内で自動的に作成され、録音は継続されます。このときファイル名の末尾に _01、_02 のように番号が付加されます。

オーディオファイルを削除する

不要なオーディオファイルを削除できます。



1. **RECORDER** を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。
2. **SETTING** を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。
3. **PUSH ENTER** で、**PROJECT > FILE DELETE** を選択する

4.  を回して削除したいファイルを選択し、 を押す



5.  を回して YES を選択し、 を押す



NOTE

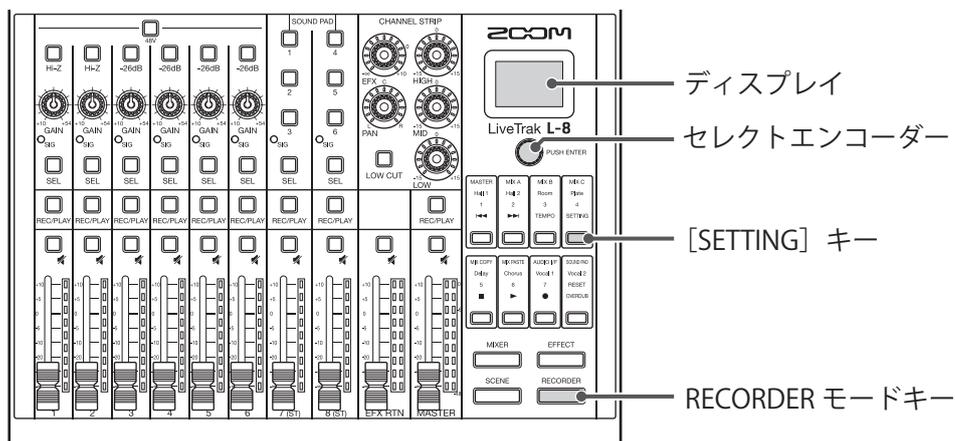
プロテクトが ON になっているプロジェクトは、オーディオファイルを削除できません。

オーディオファイルをトラックに割り当てる

プロジェクト内のオーディオファイル、もしくはプロジェクト以外のオーディオファイルを既存のプロジェクトへ読み込み、各チャンネルに割り当てることができます。

NOTE

- オーディオファイルを SD カードから読み込む場合は、あらかじめパソコンでオーディオファイルを SD カードの PROJECT フォルダ内以外のディレクトリに保存しておいてください。
(→ 82 ページ「カードリーダー」)
- 以下のオーディオファイルに対応しています。
 - ファイル：WAV フォーマット
 - サンプルレート：44.1/48/96 kHz
 - ビットレート：16/24-bit
 - チャンネル：モノラル/ステレオ
- オーディオファイルのサンプルレートはプロジェクトのサンプルレートと一致している必要があります。
- チャンネル 1～6 はモノラルファイル、チャンネル 7、8 および MASTER チャンネルはステレオファイルを割り当てることができます。
- プロテクトが ON になっているプロジェクトは、オーディオファイルの割り当てはできません。



1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。

2.  を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。

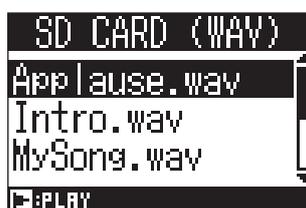
3.  で、PROJECT > TRACK ASSIGN を選択する

4.  PUSH ENTER を回して読み込みたいファイルの場所を選択し、 PUSH ENTER を押す



- プロジェクトから読み込みたい場合：PROJECT > 読み込みたいファイルがあるプロジェクトを選択
- SD カード内にあるファイルを読み込みたい場合：SD CARD (WAV) を選択

5.  PUSH ENTER を回して読み込みたいファイルを選択し、 PUSH ENTER を押す



HINT

オーディオファイルを選択し、 を押すことで試聴することができます。

6.  PUSH ENTER を回してファイルを割り当てたいチャンネルを選択し、 PUSH ENTER を押す



NOTE

- 1～6 チャンネルはモノラル WAV ファイル、7、8、MASTER チャンネルはステレオ WAV ファイルのみ割り当てることができます。
- すでにファイルが割り当てられているチャンネルには、ファイルを新たに読み込むことはできません。
- ファイルを読み込むと、読み込んだチャンネルに応じてファイル名が自動的に変更されます。

オーディオインターフェース

L-8は 12in4out のオーディオインターフェースとして動作します。各入力チャンネルは、対応する USB オーディオチャンネルに LOW CUT、イコライザー通過前の信号を常時出力します。チャンネル 1～8、マスターフェーダー通過後のステレオ信号の合計 12 チャンネルをパソコンに送ります。

NOTE

サンプルレートが 96 kHz の場合は、オーディオインターフェース機能を使うことができません。

ドライバをインストールする

1. zoomcorp.com からパソコンに「ZOOM L-8 Driver」をダウンロードする

NOTE

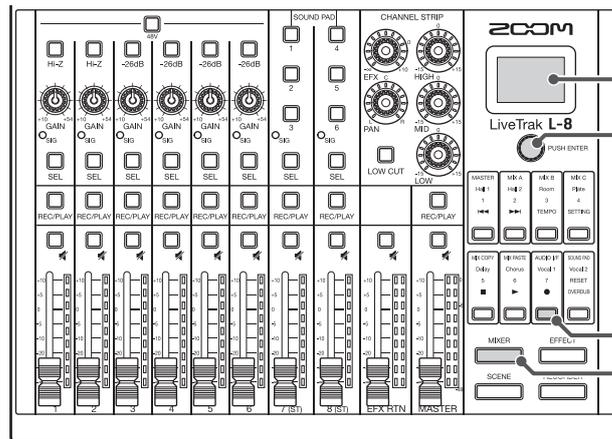
- 最新の「ZOOM L-8 Driver」は上記 WEB サイトからダウンロードできます。
- ご使用の OS 環境に対応するドライバをダウンロードしてください。

2. インストーラーを起動して、ドライバをインストールする
指示に従って「ZOOM L-8 Driver」をインストールします。

NOTE

詳細なインストール手順については、ドライバパッケージに同封されている「Installation Guide」を参照してください。

パソコンに接続する

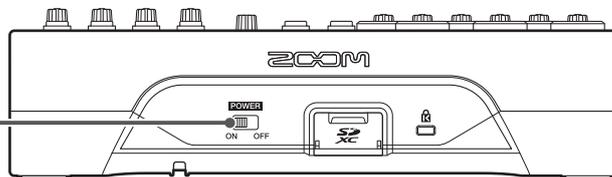


ディスプレイ

セレクトエンコーダー

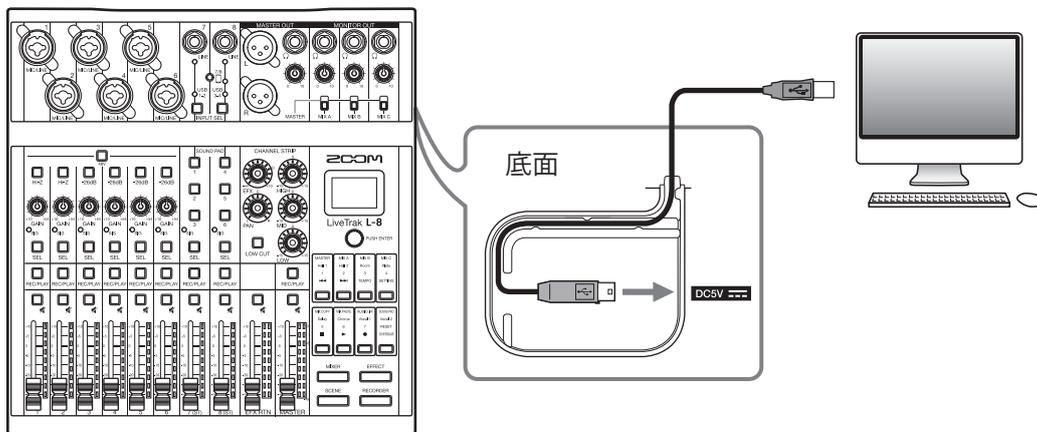
[AUDIO I/F] キー

MIXER モードキー



[POWER] スイッチ

1. micro USB 端子に USB ケーブルでパソコンを接続する



2. を ON にする

3. を押して点灯させる

ディスプレイに MIXER 画面が表示されます。

4. を押して点灯させる

ディスプレイに AUDIO I/F 画面が表示されます。

5.  を回して PC/Mac を選択し、 を押す



設定値	説明
PC/Mac	Windows PC、Mac に接続する場合に選択します。
iOS	iOS もしくはクラスコンプライアントに対応している機器に接続するときに選択します。

NOTE

電源起動時は必ず PC/Mac が選択されます。この設定は保存されません。

6.  を回して YES を選択し、 を押す

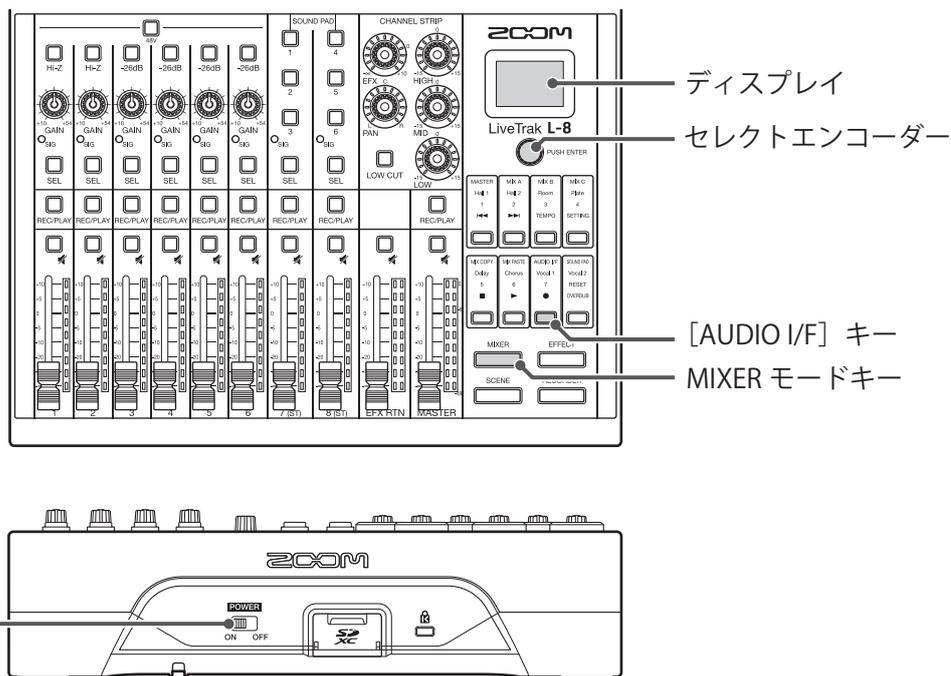


7. 接続先のパソコンで、入出力機器として **L-8** を選択する

NOTE

パソコン上で表示される USB の上りの信号の順番は、MASTER L、MASTER R、CH1、CH2、… CH7 L、CH7 R、CH8 L、CH8 R となります。

iOS デバイスに接続する



1.  を ON にする

2.  を押して点灯させる
ディスプレイに MIXER 画面が表示されます。

3.  を押して点灯させる
ディスプレイに AUDIO I/F 画面が表示されます。

4.  を回して **iOS** を選択し、 を押す

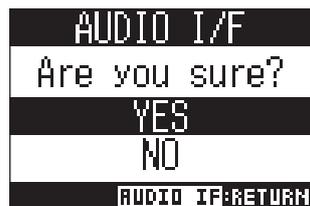


設定値	説明
PC/Mac	Windows PC、Mac に接続する場合に選択します。
iOS	iOS もしくはクラスコンプライアントに対応している機器に接続するときに選択します。

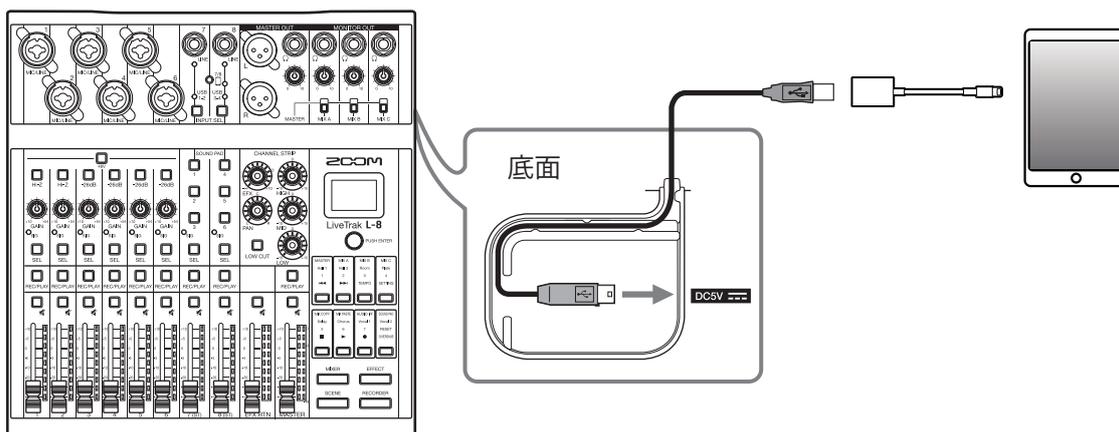
NOTE

電源起動時は必ず PC/Mac が選択されます。この設定は保存されません。

5.  を回して **YES** を選択し、 を押す



6. micro USB 端子に USB ケーブルで iOS デバイスを接続する



NOTE

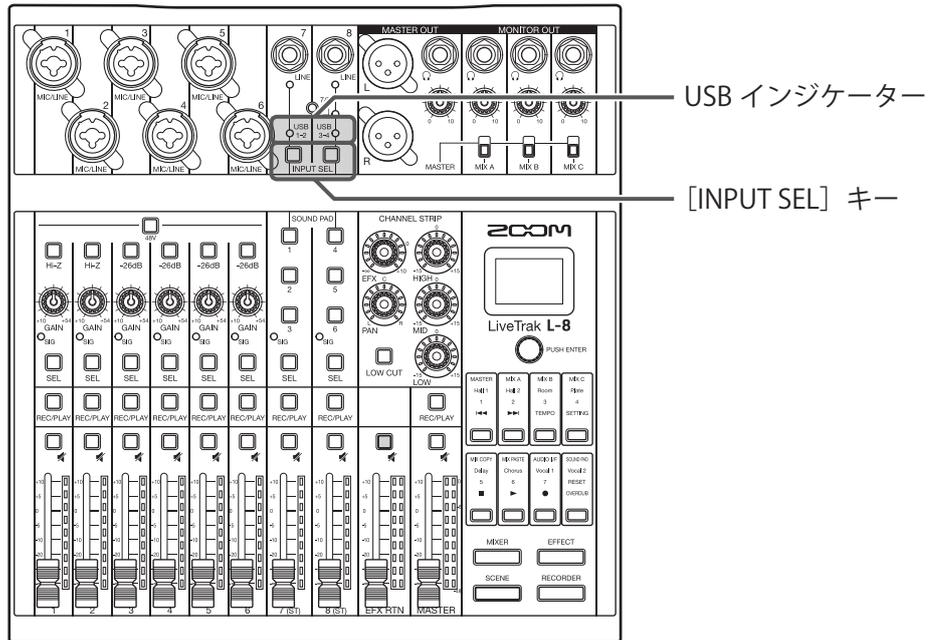
iOS デバイスと接続するには、Lightning - USB カメラアダプタ / Lightning - USB 3 カメラアダプタを使用してください。

7. 接続先の iOS デバイスで、入出力機器として **L-8** を選択する

NOTE

iOS デバイス上で表示される USB の上りの信号の順番は、MASTER L、MASTER R、CH1、CH2、… CH7 L、CH7 R、CH8 L、CH8 R となります。

パソコンからのリターン信号をチャンネル 7、8 に入力する



1. 入力先のチャンネルの  を押して、 \circ_{1-2}^{USB} または \circ_{3-4}^{USB} を点灯させる
チャンネル入力される信号が USB オーディオチャンネルの信号（プリ EQ）に置き換わります。

カードリーダー

SD カードのフォルダ構成について

L-8で使用する SD カード内のフォルダ構成は下記のとおりです。

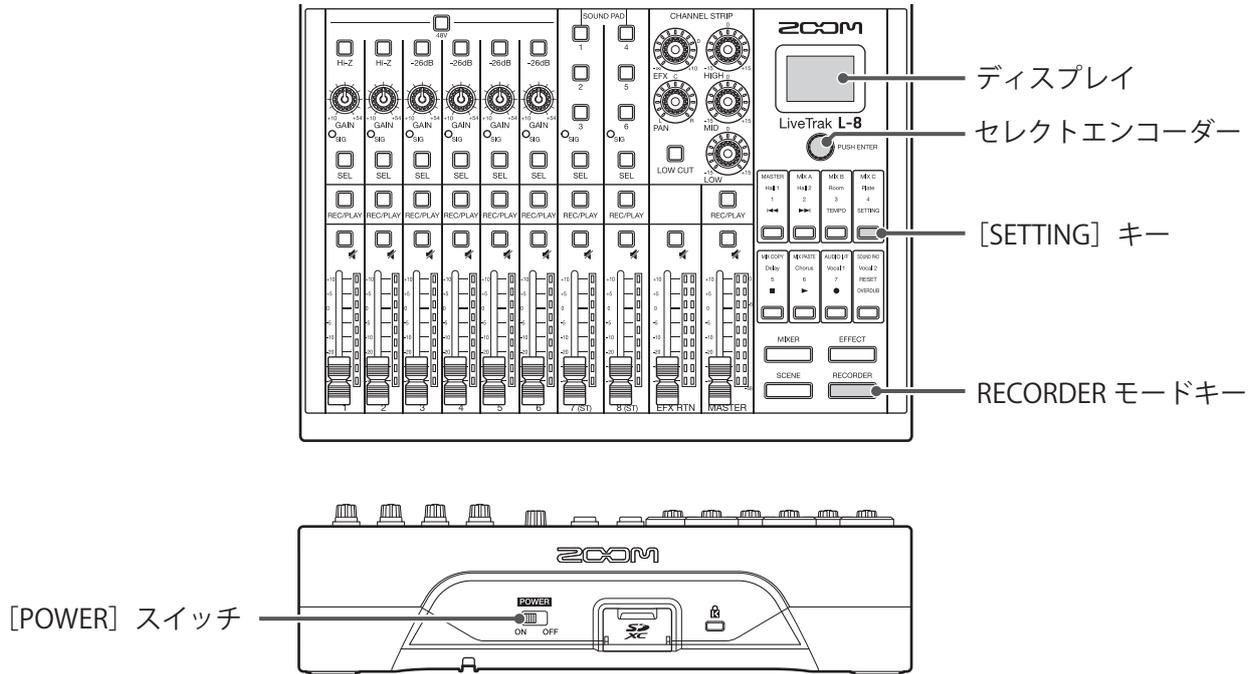


NOTE

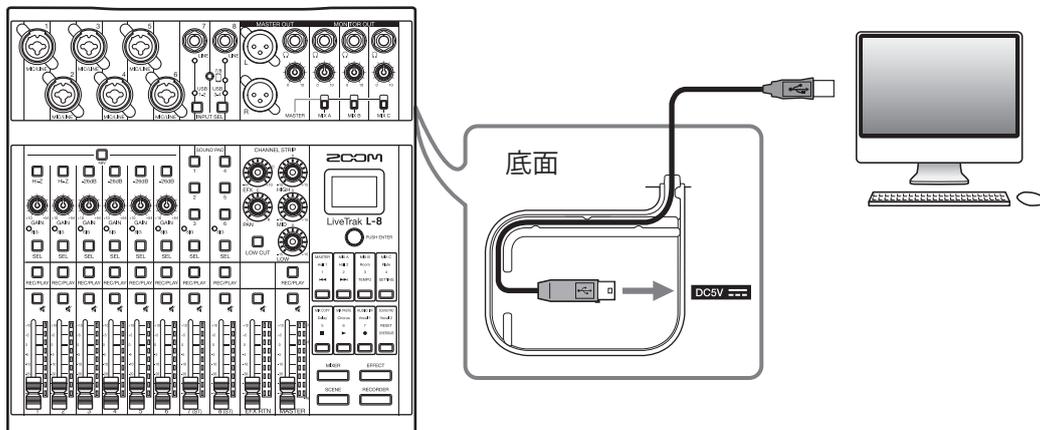
SOUND PAD、トラックに SD カードからオーディオファイルを割り当てるときは、PROJECT フォルダ内以外に保存してください。

カードリーダー機能を使う

パソコンと接続して、SD カード内のデータの確認やコピーができます。



1. micro USB 端子に USB ケーブルでパソコンを接続する



2. **POWER** を ON にする

ON OFF

3. **RECORDER** を押して点灯させる

ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。

4. **SETTING** を押して点灯させる

ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。

5. **PUSH ENTER** で、SD CARD > CARD READER を選択する

6.  PUSH ENTER を回して YES を選択し、 PUSH ENTER を押す

```
CARD READER
Are you sure?
YES
NO
SETTING:RETURN
```

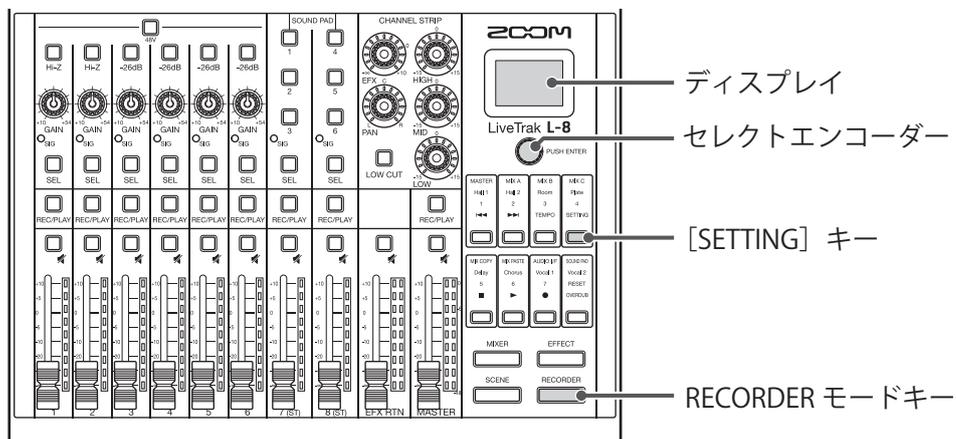
NOTE

CARD READER として起動しているとき、他の機能、キーは使用することができません。

録音／再生の設定

録音フォーマットを変更する

音質やファイルサイズを考慮しながら、フォーマットを変更できます。



1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。
2.  を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。
3.  で、**REC/PLAY** > **REC FORMAT** を表示する
4.  を回してフォーマットを変更し、 を押す

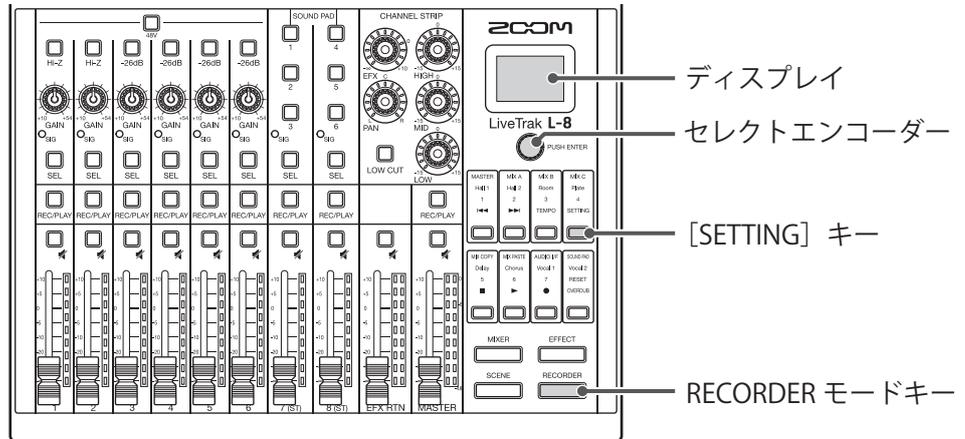


HINT

上書きで録音する場合は、元のファイルのビット長で録音されます。例えば 16-bit で録音されたファイルに 24-bit で上書きすることはできません。

自動録音設定を変更する

自動録音を開始する条件や、自動停止の設定を行えます。



自動録音開始レベルを設定する

1. **RECORDER** を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。
2. **SETTING** を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。
3. **PUSH ENTER** で、**REC/PLAY** > **AUTO REC** > **START LEVEL** を表示する
4. **PUSH ENTER** を回してスタートレベルを変更し、**PUSH ENTER** を押す

MASTER フェーダー通過後の信号が設定したレベルを上回ったときに、自動的に録音を開始します。



HINT

-48 ~ 0 dB の範囲で設定できます。

自動停止を設定する

1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。
2.  を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。
3.  で、**REC/PLAY** > **AUTO REC** > **AUTO STOP** を表示する
4.  を回して自動停止する時間を選択し、 を押す



HINT

OFF または 0 ～ 5 秒の範囲で設定できます。

5.  を回して **STOP LEVEL** を選択し、 を押す
6.  を回してストップレベルを設定し、 を押す



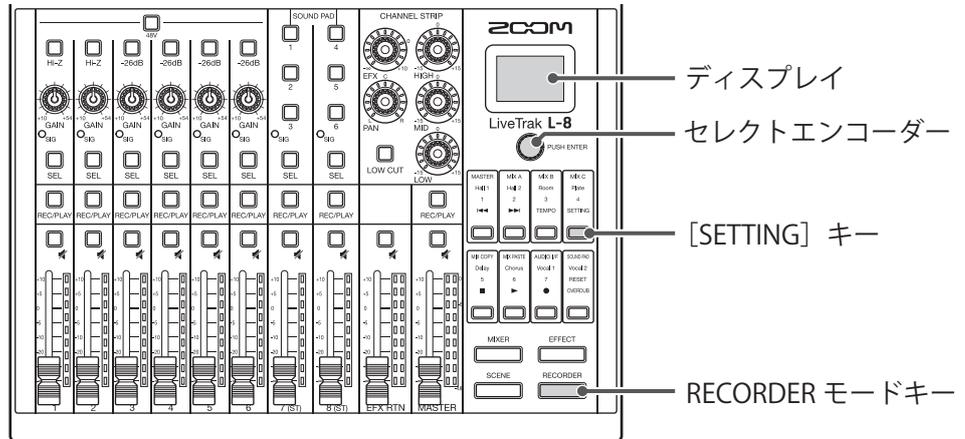
MASTER フェーダー通過後の信号が設定したレベルを下回り、手順 4 で設定した時間が経過したときに自動的に録音を終了します。

NOTE

自動録音の自動開始／停止を有効にしてから録音を開始すると、手順 6 で設定したレベルが MASTER のレベルメーター上に表示されます。

録音レベルをレベルメーターに表示する

レコーダーに録音される信号レベルを、各チャンネルのレベルメーターに表示することができます。



1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。

2.  を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。

3.  で、**REC/PLAY** > **REC LV METER** を表示する

4.  を回して **ON** を選択し、 を押す

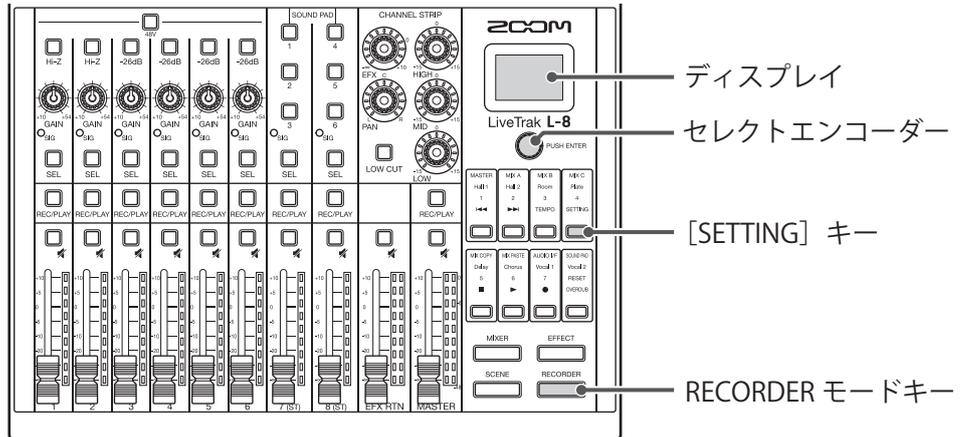
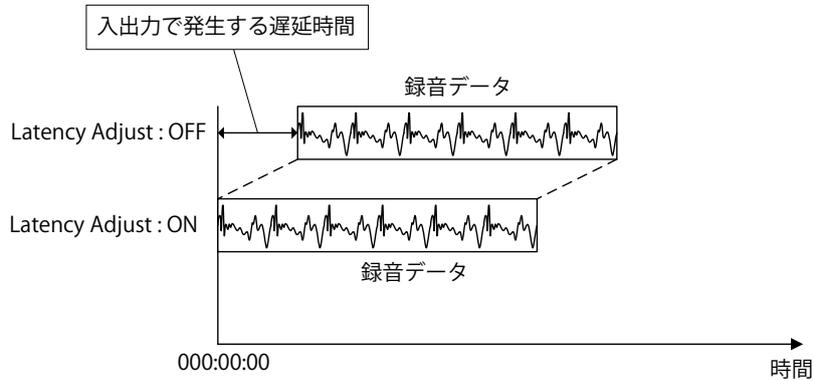


ポストフェーダーのレベルより、録音される信号レベルが大きいとき、録音される信号レベルがレベルメーター上に薄い色の点灯で表示されます。

入出力で発生する遅延時間を補正する

L-8 の出力信号を聞きながらオーバーダビングしたい際に、入出力で発生する遅延時間を補正できます。このメニューでは、OVER DUB が ON のときに入出力で発生する遅延時間を自動的に補正するか、補正しないかを選択できます。

自動補正有効時、入出力で発生する遅延時間分、録音データをずらしします。



1. を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。

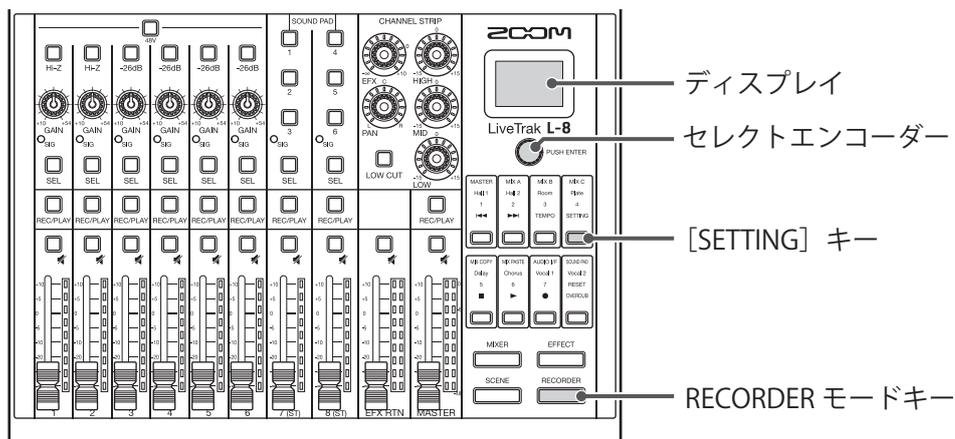
2. を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。

3. で、**REC/PLAY** > **LATENCY ADJUST** を表示する

4. を回して **ON** を選択し、 を押す



再生方法を変更する



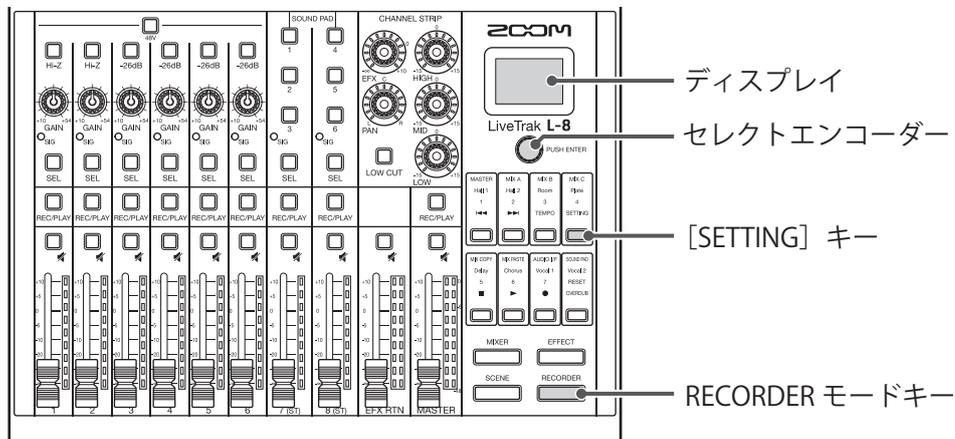
- 1.** を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。
- 2.** を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。
- 3.** で、**REC/PLAY** > **PLAY MODE** を表示する
- 4.** を回して再生モードを選択し、 を押す



設定値	説明
OFF	選択した1プロジェクトのみを再生し、ファイル終端に達しても再生し続けます。
PLAY ONE (1曲再生)	選択した1プロジェクトのみを再生し、ファイル終端で停止します。
PLAY ALL (全曲再生)	選択したプロジェクトから最後のプロジェクトまでを再生します。
REPEAT ONE (1曲リピート再生)	選択した1プロジェクトのみを繰り返し再生します。
REPEAT ALL (全曲リピート再生)	すべてのプロジェクトを繰り返し再生します。

SD カードの設定

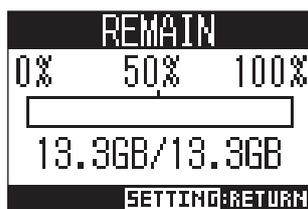
SD カードの空き容量を確認する



1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。

2.  を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。

3.  で、**SD CARD** > **REMAIN** を表示する
空き容量が表示されます。

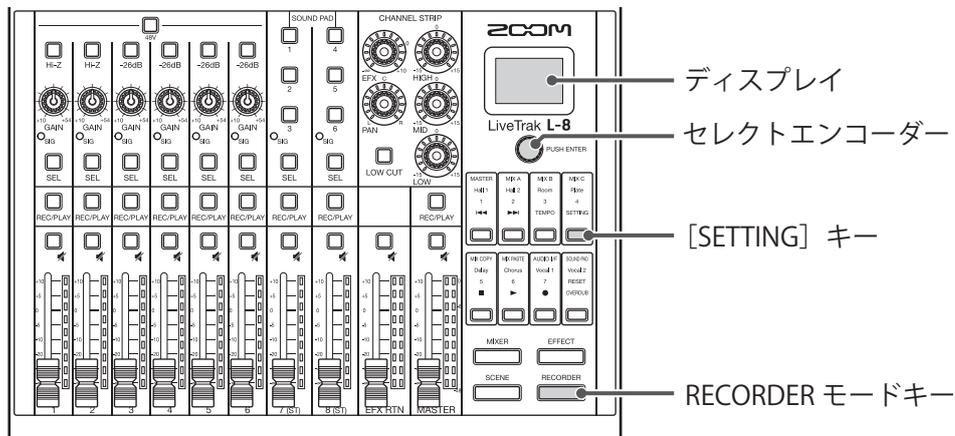


NOTE

L-8 では、SD カードの書き込みパフォーマンスが低下しないように、実際の容量より少なめに表示されます。

SD カードを初期化する

SD カードを **L-8** 用に初期化します。

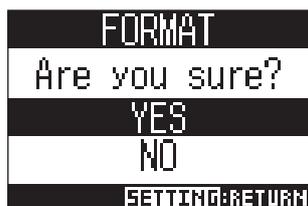


1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。

2.  を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。

3.  で、SD CARD > FORMAT を表示する

4.  を回して YES を選択し、 を押す



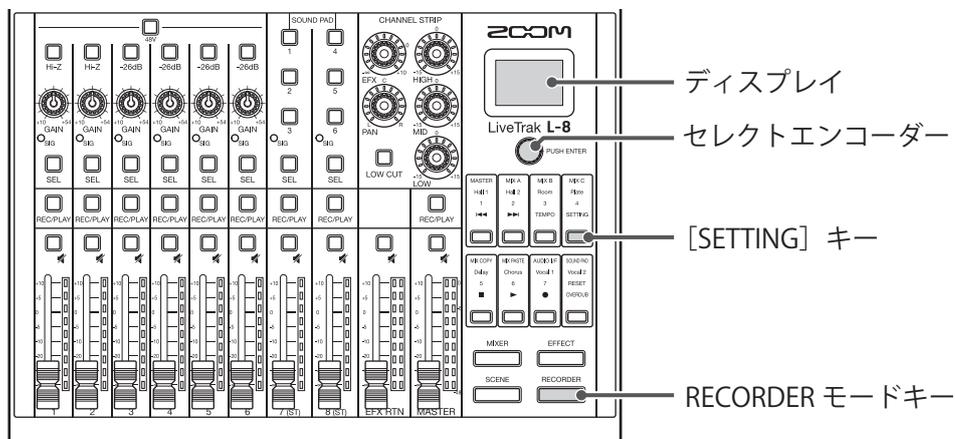
NOTE

- 市販の SD カードや、他のパソコンで初期化された SD カードを使用する場合は、最初に **L-8** で初期化する必要があります。
- SD カードを初期化すると、それまでに保存されていたデータはすべて消去されますので、ご注意ください。
- 96 kHz で録音する際は、録音前に SD カードを初期化してください。

SD カードの性能をテストする

SD カードが **L-8** で使用可能かどうかテストします。

短時間で行う簡易テストと、SD カードの全領域を検査するフルテストがあります。



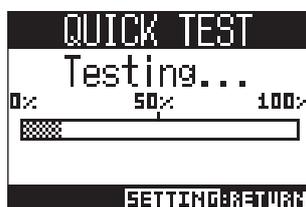
簡易テストを行う

1. **RECORDER** を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。
2. **SETTING** を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。
3. **PUSH ENTER** で、**SD CARD** > **CARD TEST** を表示する
4. **PUSH ENTER** を回して **QUICK TEST** を選択し、**PUSH ENTER** を押す

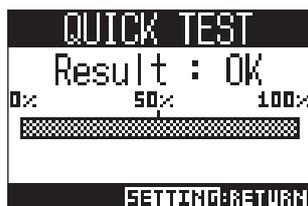


5. **PUSH ENTER** を回して **YES** を選択し、**PUSH ENTER** を押す

カードの性能テストが始まります。テストには 30 秒ほどかかります。



テストが終了すると、判定結果が表示されます。



6. テストを中止するには を押す

NOTE

性能テスト判定が OK になっても書き込み不良が起きないことを保障するものではありません。あくまで目安として考えてください。

フルテストを行う

1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。

2.  を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。

3.  で、SD CARD > CARD TEST を表示する

4.  を回して FULL TEST を選択し、 を押す
所要時間が表示されます。

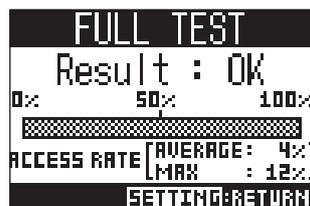


5.  を回して YES を選択し、 を押す



テストが終了すると判定結果が表示されます。

アクセスレート MAX が 100%になると NG となります。



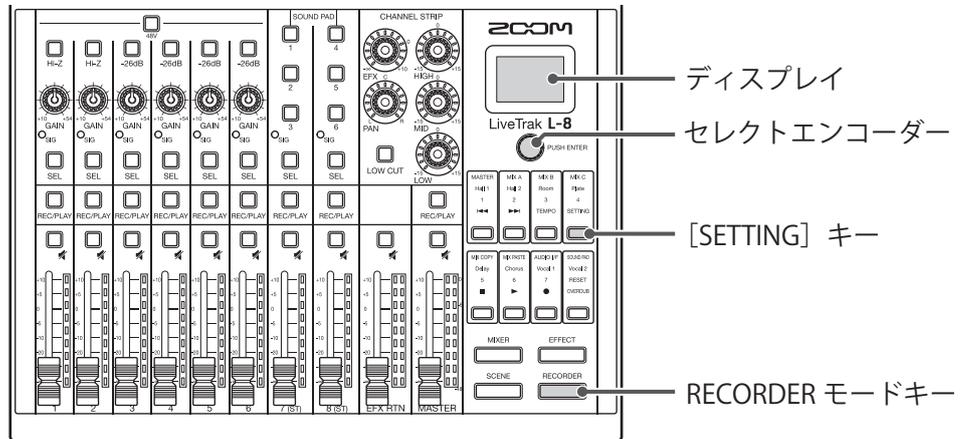
6. テストを中止するには を押す

NOTE

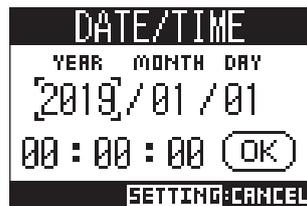
性能テスト判定が OK になっても書き込み不良が起きないことを保障するものではありません。あくまで目安として考えてください。

各種設定

日付／時刻を設定する



1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。
2.  を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。
3.  で、**SYSTEM** > **DATE/TIME** を選択する
4. 日付／時刻を設定する



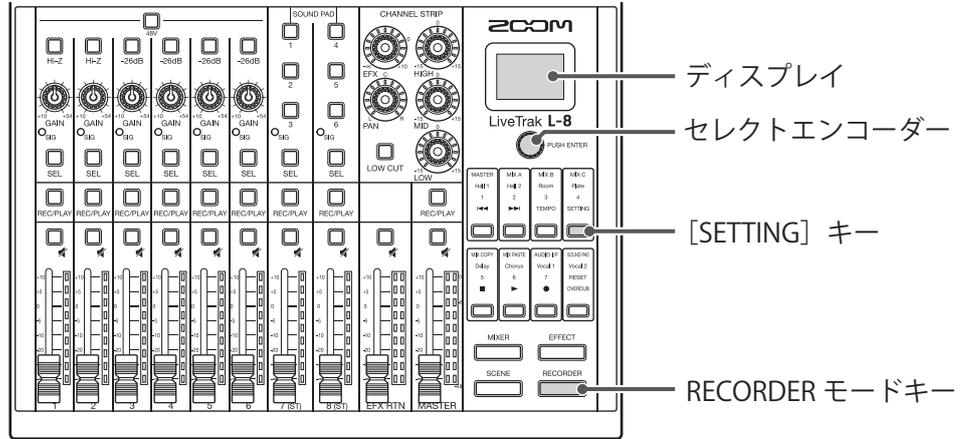
- カーソル移動／数値変更：  を回す
- 項目選択／変更内容の確定：  を押す

5.  を回して **OK** を選択し、  を押す

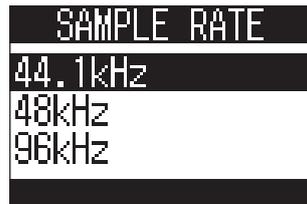
ご購入後、初めて電源を ON にした場合は、日付／時刻の設定を行う必要があります。

サンプルレートを変更する

レコーダーで録音する際のファイルフォーマットはこの設定に依存します。



1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。
2.  を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。
3.  で、**SYSTEM** > **SAMPLE RATE** を選択する
4.  を回してサンプルレートを選択し、 を押す



HINT

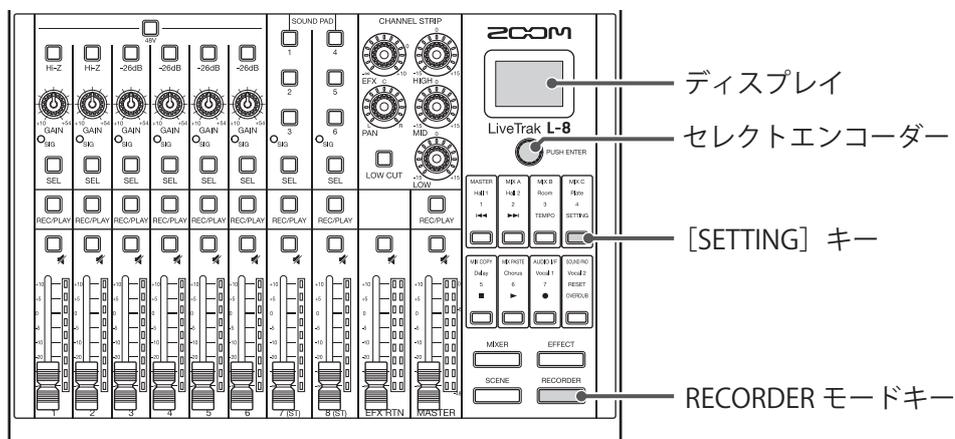
44.1 kHz、48 kHz、96 kHz から選択できます。

NOTE

- 96 kHz で録音する際は、録音前に SD カードを初期化してください。初期化しないで録音すると、音飛びが発生する場合があります。
- 96 kHz を選択したときには、**L-8** の動作に制限がかかります。制限がかかる機能は下記のとおりです。
 - SEND EFX：無効
 - EQ：無効
 - OVER DUB：無効
 - オーディオインターフェース：無効
 - SOUND PAD：無効
 - MONITOR OUT：出力される信号は MASTER と同じのみ。
- **L-8** のサンプルレートと異なるサンプルレートのプロジェクトが読み込まれたとき、録音、再生することはできません。

電源の自動 OFF 機能を無効にする

L-8 は操作をしない状態で 10 時間が経過すると、自動的に電源が切れます。
常に電源を ON にしたい場合は、電源の自動 OFF 機能の設定を無効にしてください。



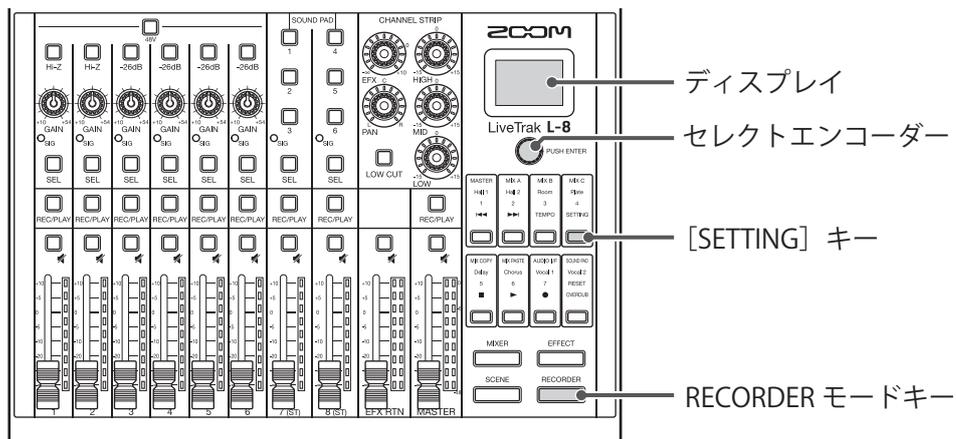
1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。
2.  を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。
3.  で、**SYSTEM** > **AUTO POWER OFF** を選択する
4.  を回して **OFF** を選択し、 を押す



NOTE

この設定は **L-8** に保存されます。

ディスプレイのコントラストを調節する



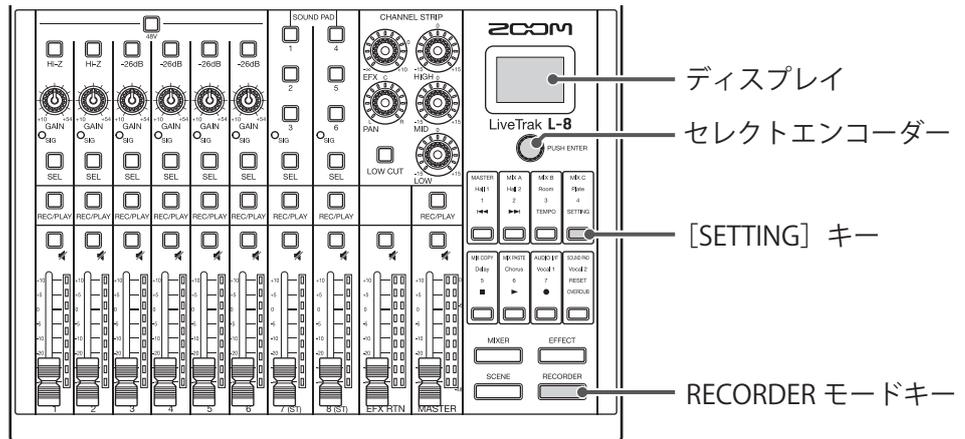
- 1.**  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。
- 2.**  を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。
- 3.**  で、**SYSTEM** > **LCD CONTRAST** を選択する
- 4.**  を回して設定値を選択し、 を押す



HINT

1 ~ 10 の範囲で設定できます。

ディスプレイのバックライトを設定する



1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。

2.  を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。

3.  で、**SYSTEM** > **LCD BACKLIGHT** を選択する

4.  を回して設定値を選択し、 を押す



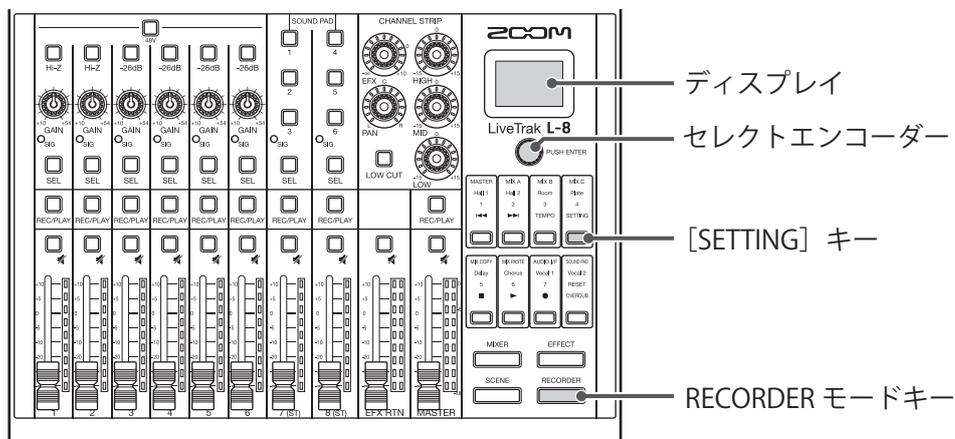
設定値	説明
ON	常にバックライト点灯
OFF	常にバックライト消灯
15sec	15 秒間無操作状態が続くとバックライト消灯
30sec	30 秒間無操作状態が続くとバックライト消灯

NOTE

バックライト消灯中でも何らかの操作を行った場合は、バックライトが点灯します。

電池の種類を選択する

電池残量を正確に表示するために、使用している電池の種類を正しく選択します。

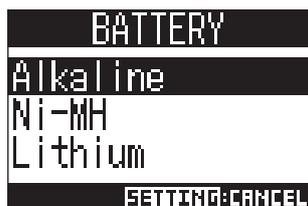


1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。

2.  を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。

3.  で、**SYSTEM** > **BATTERY** を選択する

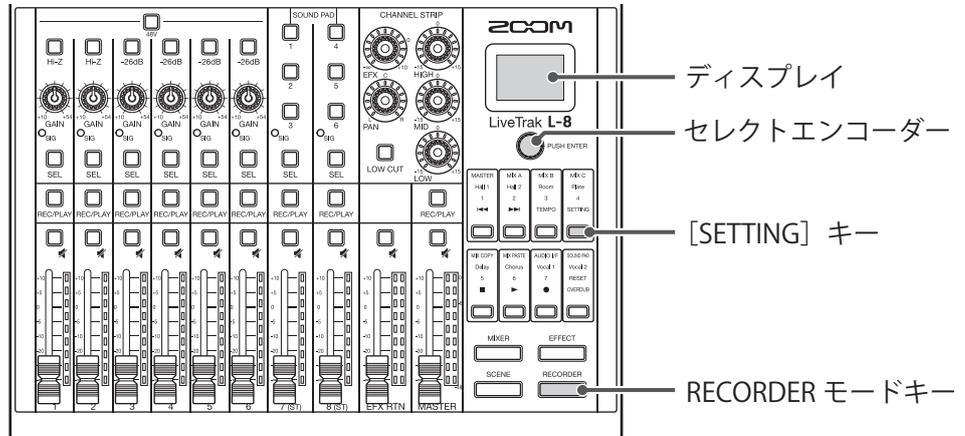
4.   を回して設定値を選択し、 を押す



設定値	説明
Alkaline	アルカリ電池
Ni-MH	ニッケル水素蓄電池
Lithium	リチウム電池

省電力モードを設定する

バッテリー動作時、電池の消耗を防ぐために、15 秒間無操作状態になったときにインジケータやキーの輝度を落とします。



1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。

2.  を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。

3.  で、**SYSTEM** > **BATTERY SAVING** を選択する

4.  を回して設定値を選択し、 を押す



設定値	説明
ON	省電力モードを ON にします。
OFF	省電力モードを OFF にします。

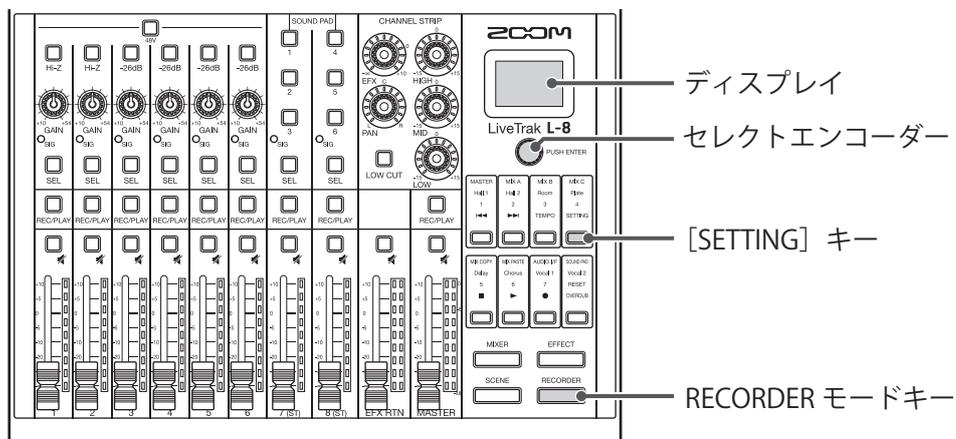
NOTE

省電力モードが ON の場合でも、以下のインジケータ、キーの輝度は落ちません。

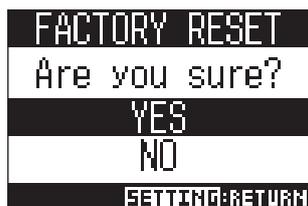
- SIG インジケータ
- USB インジケータ
- [LINE] 入力インジケータ
- スマートフォン接続インジケータ

設定を工場出荷状態に戻す

工場出荷時の状態に戻すことができます。



1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。
2.  を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。
3.  で、**SYSTEM** > **FACTORY RESET** を選択する
4.  を回して **YES** を選択し、 を押す

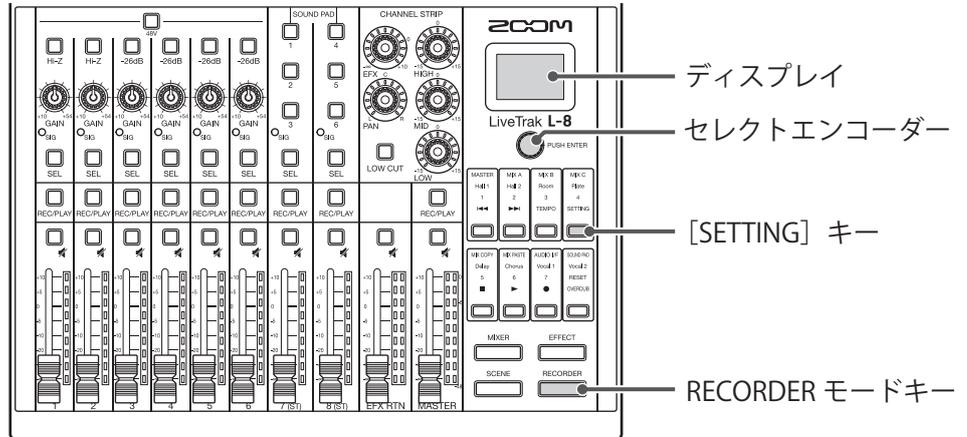


NOTE

ミキサーの設定は初期化されません。(→ 35 ページ「ミキサー設定を初期化する」)

ファームウェアのバージョンを確認する

L-8 のファームウェアのバージョンを表示します。



1.  を押して点灯させる
ディスプレイに RECORDER 画面が表示されます。

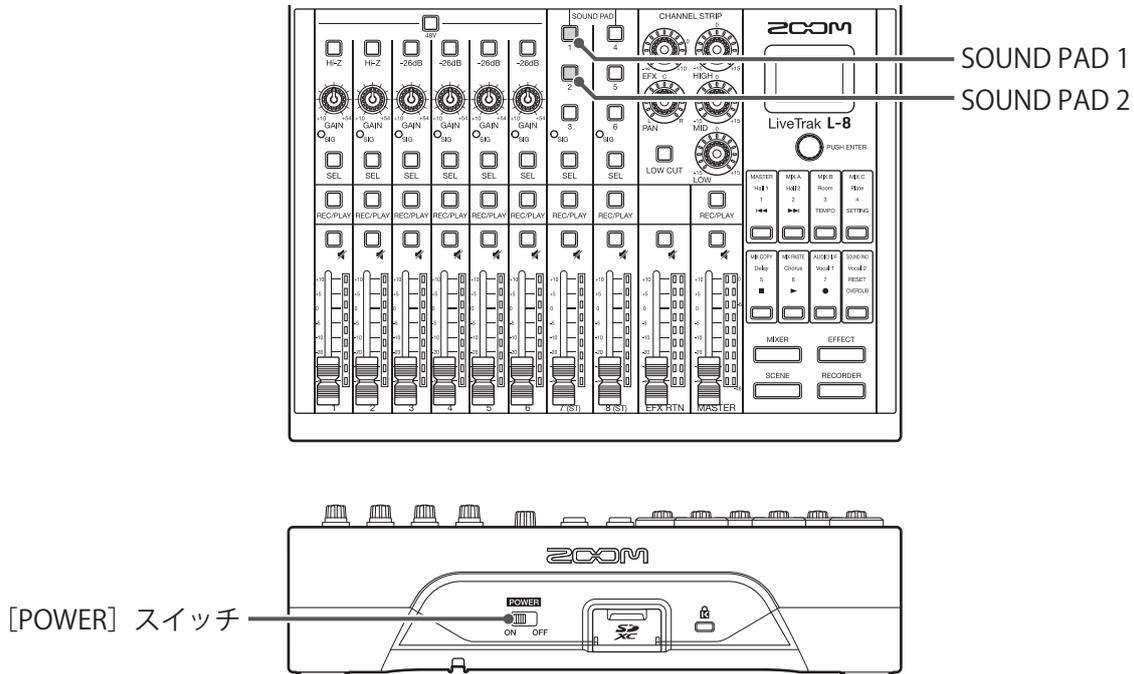
2.  を押して点灯させる
ディスプレイに SETTING 画面が表示されます。

3.  で、**SYSTEM** > **VERSION** を選択する
ファームウェアのバージョンが表示されます。



ファームウェアのアップデート

L-8のファームウェアを、最新のものにアップデートできます。



1. ファームウェアアップデート用ファイルをSDカードのルートディレクトリにコピーする

NOTE

最新のファームウェアアップデート用ファイルは ZOOM の Web サイト (zoomcorp.com) からダウンロードできます。

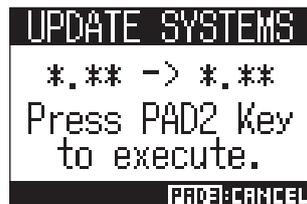
2. SDカードをL-8にセットする

3. (SOUND PAD) を押しながら、 を ON にする

NOTE

電池駆動時はファームウェアアップデートできません。

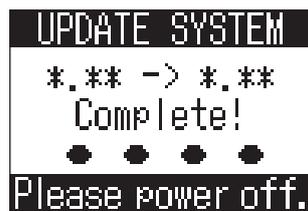
4. (SOUND PAD) を押す



NOTE

ファームウェアアップデート中に電源を OFF にしたり、SDカードを抜かないでください。L-8 が起動しなくなるおそれがあります。

5. ファームウェアアップデートが完了したら、 を OFF にする



NOTE

万が一途中でファームウェアアップデートに失敗した場合は、手順の最初から再度ファームウェアアップデートを実行してください。

故障かな？と思われる前に

共通

音が出ない、もしくは非常に小さい

- スピーカーの接続、およびスピーカーの音量を確認する。
- 楽器やマイクの接続を確認する。
- コンデンサーマイクを使用している場合は  を ON にする。
- \bigcirc_{SIG} が緑色に点灯していることを確認する。
-  が消灯していることを確認する。
- 各チャンネルのフェーダー、マスターフェーダーを上げ、レベルメーターが点灯していることを確認する。
- MASTER の  が消灯、赤色に点灯していることを確認する。

録音した音が大きいの、小さい、もしくは無音

- 入力ゲインを調節し、 \bigcirc_{SIG} が緑色に点灯していることを確認する。
- コンデンサーマイクを使用している場合は  を ON にする。
- SD カードに録音する場合、 が赤色に点灯していることを確認する。

録音できない

- SD カードに録音する場合、 が赤色に点灯していることを確認する。
- SD カードに空き容量があることを確認する。
- SD カードに録音する場合、プロジェクトにプロテクト（書き換え保護）がかけられていないか確認する。

「Write Error」が表示されて正しく録音できない／録音停止に異常に時間がかかる

- SD カードは消耗品です。書き込み・消去を繰り返していくうちに速度の低下がみられることがあります。
- **L-8** でカードの初期化を行うと改善される可能性があります。（→ [92 ページ「SD カードを初期化する」](#)）
- SD カードの初期化を行っても動作が改善されない場合、SD カードを交換する事をお勧めします。動作確認済みリストは ZOOM の WEB サイトからご確認ください。

NOTE

動作確認済み SDHC / SDXC カードは特定の SD カードの記録性能を保証するものではありません。
このリストは、適切なカードを見つけるためのガイドラインとして提供されています。

再生している音が聞こえない、もしくは小さい

- SD カードのデータを再生する場合、 が緑色に点灯していることを確認する。
- 再生チャンネルのフェーダーを上げ、レベルメーターが点灯していることを確認する。

入力端子に接続している機器の音が歪む

- ○_{SIG} が赤色に点灯していないことを確認する。点灯する場合は、入力ゲインを小さくする。あるいは  を ON にする。
- レベルメーターが一番上まで点灯していないかを確認する。点灯している場合は、フェーダーを下げる。

SEND エフェクトがかからない

- EFX RTN の  が消灯していることを確認する。
- EFX RTN のフェーダーが上がって、[EFX RTN] レベルメーターが点灯していることを確認する。
- エフェクトをかけたいチャンネルの SEND エフェクトへの送り量を確認する。

MONITOR OUT A ~ C の音が出ない、もしくは非常に小さい

- 各出力のミックスバランスを確認する。
- 各出力のボリューム ([MONITOR OUT] ノブ A ~ C) が上がっていることを確認する。
- [MONITOR OUT] スイッチ A ~ C の設定を確認する。

SOUND PAD、あるいはトラックにオーディオファイルを割り当てることができない

- 割り当てるオーディオファイルのフォーマットを確認する。(→ [53 ページ「オーディオファイルを SOUND PAD に割り当てる」](#)、→ [74 ページ「オーディオファイルをトラックに割り当てる」](#))
- SD カードに保存したオーディオファイルの場合、PROJECT フォルダ以外に保存する。

EQ、内蔵エフェクト、オーディオインターフェース機能が使用できない

- サンプルレートが 44.1 kHz あるいは、48 kHz に設定されていることを確認する。

SOUND PAD が使用できない

- INPUT SEL が SOUND PAD になっていることを確認する。
- チャンネル 7、8 のレベルメーターが点灯していることを確認する。
- ファイルが割り当てられていることを確認する。
- サンプルレートが 44.1 kHz あるいは、48 kHz に設定されていることを確認する。

オーディオインターフェース

L-8 のデバイスを選択できない、使用できない

- **L-8** がパソコンに正しく接続されていることを確認する。
-  >  を押してディスプレイに AUDIO I/F 画面を表示させ、正しい接続先になっているかを確認する。
- **L-8** が使用しているソフトウェアをすべて終了し、**L-8** の電源を入れ直す。
- ドライバーをインストールし直す。
- USB ハブを使用せずに、パソコンの USB ポートに直接 **L-8** を接続する。

再生や録音中に音が途切れる

- 使用しているソフトウェアでオーディオのバッファサイズが調節できる場合は、バッファサイズを大きくする。
- USB ハブを使用せずに、パソコンの USB ポートに直接 **L-8** を接続する。
- オートスリープ機能などの、パソコンの省電力の設定を OFF にする。

再生や録音ができない

- **L-8** がパソコンに正しく接続されていることを確認する。
- 使用しているパソコンの「サウンド」の設定にて、「ZOOM L-8」が選択されていることを確認する。
- 使用しているソフトウェアの入出力設定で **L-8** が選択されていることを確認する。
-  または  が点灯し、レベルメーターが点灯していることを確認する。
- **L-8** が使用しているソフトウェアをすべて終了し、**L-8** とつながっている USB ケーブルを抜き差しする。

仕様

入出力 チャンネル数	入力	MIC/LINE	6	
		LINE	2	
	出力	MASTER OUT	1	
		MASTER OUT (PHONES)	1	
MONITOR OUT (PHONES)		3		
入力	MIC/LINE	仕様	XLR/TRS コンボジャック (XLR : 2 番 HOT TRS : TIP HOT)	
		入力ゲイン	+10 ~ +54 dB / -3 ~ +41 dB (Hi-Z 機能 ON)	
		入力インピーダンス	XLR : 3 k Ω TRS : 3 k Ω / 1 M Ω (Hi-Z 機能 ON)	
		最大入力レベル	-26 dB スイッチ OFF 時 : -2 dBu (@ 0 dBFS) -26 dB スイッチ ON 時 : +24 dBu (@ 0 dBFS)	
		ファンタム電源	+48 V	
		LINE	仕様	TS フォンジャック
		入力インピーダンス	10 k Ω	
		最大入力レベル	+3 dBu	
	スマートフォン 接続端子	仕様	TRRS ミニジャック (4 極 / TIP : L、RING1 : R、RING2 : GND、SLEEVE : MIC)	
		入力インピーダンス	10 k Ω	
		最大入力レベル	+3 dBu	
	出力	MASTER OUT	仕様	XLR ジャック (バランス)
			最大出力レベル	+14.5 dBu
出力インピーダンス			100 Ω	
MASTER OUT (PHONES)		仕様	標準ステレオフォンジャック	
		最大出力レベル	10 mW + 10 mW @ 60 Ω	
		出力インピーダンス	10 Ω	
MONITOR OUT (PHONES)		仕様	標準ステレオフォンジャック	
		最大出力レベル	10 mW + 10 mW @ 60 Ω	
		出力インピーダンス	10 Ω	
バス	MASTER	1		
	MONITOR	3		
	SEND EFX	1		
チャンネルストリップ	LOW CUT	75 Hz、12 dB/OCT		
	EQ	HIGH : 10 kHz、 \pm 15 dB、シェルビング MID : 2.5 kHz、 \pm 15 dB、ピーキング LOW : 100 Hz、 \pm 15 dB、シェルビング		
レベルメーター		9 セグメント		
センドエフェクト		8 タイプ		
レコーダー	最大同時録音トラック数	12 @ 44.1/48/96 kHz		
	最大同時再生トラック数	10		
	録音フォーマット	WAV 44.1/48/96 kHz 16/24-bit モノラル/ステレオ		
	記録メディア	SDHC 規格対応カード 4 GB ~ 32 GB (Class 10 以上) SDXC 規格対応カード 64 GB ~ 512 GB (Class 10 以上)		
オーディオインターフェース	44.1/48 kHz	録音 : 12 チャンネル 再生 : 4 チャンネル		
	bit 長	24-bit		
	インターフェース	USB2.0		
カードリーダー	クラス	マストレージクラス USB2.0 High Speed		
サンプリング周波数		44.1/48/96 kHz		
周波数特性		-1.0 dB : 20 Hz ~ 20 kHz @ 44.1 kHz サンプリング -3.0 dB : 20 Hz ~ 40 kHz @ 96 kHz サンプリング (GAIN Knob: 3 o'clock position)		
入力換算ノイズ		-121 dBu 以下 (IHF-A) @ +54 dB、150 Ω input		
表示		バックライト付き LCD (96x64 ドット)		
電源		単三乾電池 \times 4 (アルカリ乾電池、ニッケル水素蓄電池、リチウム乾電池) AC アダプター (ZOOM AD-17) : DC5 V/1 A ※ USB バスパワー対応		
連続録音中の電池持続時間の目安		44.1 kHz/16-bit 4ch SD カードへ録音 (48V OFF、LCD BACKLIGHT=15sec、BATTERY SAVING MODE=ON、ヘッドフォン 62 Ω 負荷) : アルカリ乾電池 約 1.5 時間 ニッケル水素蓄電池 (1900 mAh) 約 3 時間 リチウム乾電池 約 5 時間 ※上記の値はあくまで目安です。 ※電池持続時間は当社試験法によるものです。使用条件により大きく変わります。		
消費電力		5 W		
外形寸法		268 mm (W) \times 282 mm (D) \times 74 mm (H)		
質量 (本体のみ)		1.56 kg		

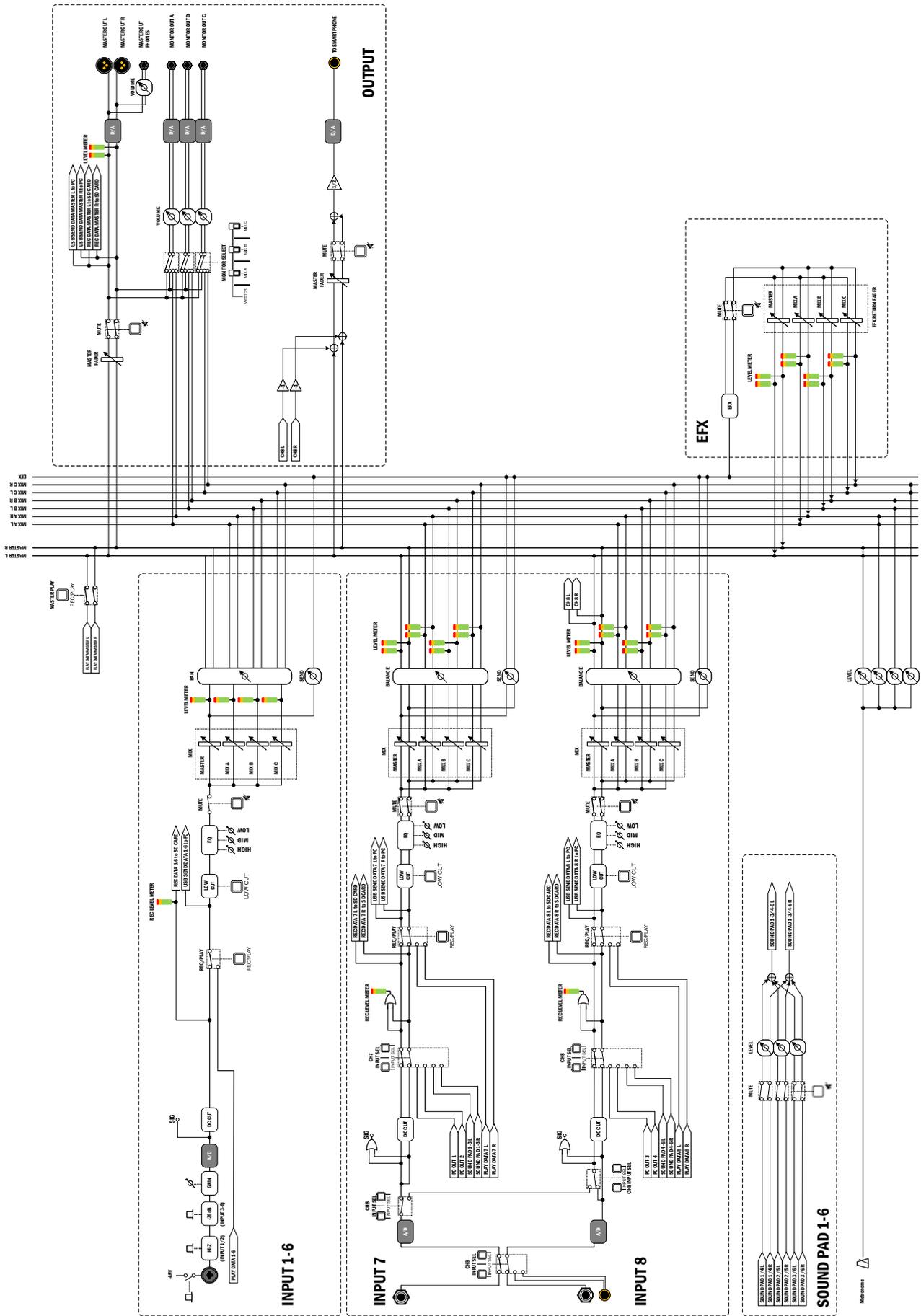
センドエフェクト仕様

No	Type 名	説明	パラメーター 1	パラメーター 2	テンポ 同期
1	Hall 1	明るい音色のホールリバーブ	TONE	DECAY	
2	Hall 2	初期反射時間が長いホールリバーブ	TONE	DECAY	
3	Room	密度の高いルームリバーブ	TONE	DECAY	
4	Plate	プレートリバーブのシミュレーション	TONE	DECAY	
5	Delay	くっきりした音色のデジタルディレイ	TIME	FEEDBACK	●
6	Chorus	クリアな音質の広がりのあるステレオコーラス	TONE	RATE	
7	Vocal 1	バラード向けのディレイとプレート系リバーブを組み合わせたエフェクト	TIME	DECAY	
8	Vocal 2	ロック向けのディレイとルーム系リバーブを組み合わせたエフェクト	TIME	DECAY	

* テンポ同期するディレイエフェクトは、プロジェクトのテンポと同期することができます。

同期するには、 >  を押してテンポを設定してください。テンポに対し、4分音符で同期します。

ミキサーブロックダイアグラム



zoom[®]

株式会社ズーム

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 4-4-3
zoomcorp.com

Z2I-3813-02